秋田県文化財調査報告書第399集

繋　沢　遺　跡

── 県道秋田岩見船岡線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 ──

２００５・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７cm、凝灰岩。

繋（つなぎ）沢（さわ）遺（い）跡（せき）

── 県道秋田岩見船岡線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 ──

２００５・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

序

本県には、これまでに発見された約4,600か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、秋田市河辺岩見地区と市中心部とを結ぶ県道秋田岩見船岡線は、近年の交通量増加と老朽化による路面状況の悪化から、交通事故の脅威や不安を解消するための整備が望まれ、改良工事が行われております。本教育委員会ではこのような事業との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、県道秋田岩見船岡線整備事業に先立って、平成15年度に秋田市において実施した繋沢遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査では縄文時代中期の竪穴住居跡や土器埋設遺構が検出され、縄文時代に集落が営まれていたことがわかりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました秋田県建設交通部、秋田市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成17年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　清

例　　言

1. 本書は、県道秋田岩見船岡線建設事業に係る、繋沢遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査内容については、一部が年報などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。
3. 本書の執筆・編集は、山田祐子が行った。遺構図作成には足利直哉、吉田茜の協力を得た。
4. 本書に使用した図は、秋田県建設交通部提供の工事路線計画図1,000分の1「秋田岩見船岡線河辺郡河辺町繋沢地内」および国土交通省国土地理院発行の50,000分の1地形図「太平山」、25,000分の1「岩見三内」である。
5. 本書の挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1997年版』を使用した。
6. 放射性炭素年代測定・リン酸・カルシウム分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に、空中写真撮影は、株式会社シン技術コンサルに委託した。
7. 遺跡が所在する河辺町は平成17年１月に秋田市と合併したが、本文中では河辺町と表記している。
8. 本報告書を作成するにあたり、以下の方々から御指導・御助言を賜った。記して感謝申し上げます（敬称略・五十音順）。

岡田康博　栗原徹　佐布環貴　佐野一絵　関根達人　其田香保里　竹下由紀子　竹原仁志
萩坂華恵　藤沼邦彦　古川温子　小向良

凡　　例

1. 本報告書に収載した遺跡図面等に付した方位は座標北である。
2. 土層番号は、基本層序にローマ数字を、遺構土層に算用数字を用いて区別した。
3. 遺構番号は、種類ごとに略記号を用い、種別を問わず検出順に通し番号を付したが、柱穴様ピットは101番以降の番号を付した。後に検討の結果、遺構でないと判断したものは欠番とした。遺構の略記号は、次の通りである。

ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＲ：土器埋設遺構　　ＳＫ：土坑　　ＳＮ：焼土遺構
ＳＸ：石器集中遺構　　ＳＱ：集石遺構　　ＳＤ：溝状遺構　　ＳＫＰ：柱穴様ピット

4. 挿図の縮尺については原則として次の通りである。

遺構	竪穴住居跡	：１／60	竪穴住居跡の炉	：１／30	土器埋設遺構	：１／20
	石器集中遺構	：１／20	その他の遺構	：１／40		
遺物	土器	：１／３	剥片石器	：１／２	礫石器	：１／３

5. 挿図中の遺物出土位置を表すシンボルマーク・遺物の略記号は次の通りである。

● 土器　▲ 石器　△ 礫　■ 炭　q 石器　s 礫

6. 挿図中に使用したスクリーントーンは次の通りである。

遺構：焼土面　遺物：磨り面　敲打痕　アスファルト

7. 図版中の遺物番号は、挿図中の遺物番号に対応する。

目　　次

序
例言・凡例…… ii
目次…… iii
挿図目次…… iv
図版目次…… iv
表目次…… iv

第１章　はじめに
第１節　調査に至る経過 …… 1
第２節　調査要項 …… 1

第２章　遺跡の環境
第１節　遺跡の位置と立地 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 2

第３章　発掘調査の概要
第１節　遺跡の概観 …… 8
第２節　調査の方法 …… 8
第３節　調査の経過 …… 9
第４節　整理作業の方法と経過 …… 9

第４章　調査の記録
第１節　基本層序…… 11
第２節　検出遺構…… 12
1　竪穴住居跡…… 12
2　土器埋設遺構…… 15
3　土坑…… 18
4　焼土遺構…… 25
5　石器集中遺構…… 37
6　集石遺構…… 38
7　溝状遺構…… 38
8　柱穴様ピット…… 40
第３節　出土遺物…… 41
1　旧石器時代の遺物…… 41
2　縄文時代の遺物…… 42

第５章　自然科学分析
第１節　放射性炭素年代測定…… 64

第６章　まとめ…… 66

図版

報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置 …… 2
第２図　遺跡周辺の地形分類 …… 3
第３図　遺跡周辺の表層地質 …… 4
第４図　周辺の遺跡 …… 6
第５図　グリッド配置図 …… 10
第６図　基本土層図 …… 11
第７図　竪穴住居跡（ＳＩ03・40） …… 28
第８図　竪穴住居跡（ＳＩ61・98） …… 29
第９図　土器埋設遺構（ＳＲ08・11・29・46・53・54・97・100） …… 30
第10図　土坑（ＳＫ02・05・07・14・23・28・36・43） …… 31
第11図　土坑（ＳＫ50・52・62・63・64・70・75） …… 32
第12図　土坑（ＳＫ65・66・72・73・74・83） …… 33
第13図　土坑（ＳＫ84・85・88・89・92・93・95・96・99） …… 34
第14図　焼土遺構（ＳＮ09・10・15・17・18・19・20・21・24） …… 35
第15図　焼土遺構（ＳＮ31・32・33・34・41・49・67・68・91） …… 36
第16図　石器集中遺構（ＳＸ01） …… 37
第17図　集石遺構（ＳＱ12・55）・溝状遺構（ＳＤ30） …… 45
第18図　集石遺構（ＳＱ51） …… 46
第19図　溝状遺構（ＳＤ27・39） …… 47
第20図　溝状遺構（ＳＤ37・38・80・81・82） …… 48
第21図　遺構内出土土器（１） …… 49
第22図　遺構内出土土器（２） …… 50
第23図　遺構内出土土器（３） …… 51
第24図　遺構内出土土器（４） …… 52
第25図　遺構内出土土器（５） …… 53
第26図　遺構内出土土器（６） …… 54
第27図　遺構内出土土器（７） …… 55
第28図　遺構外出土土器 …… 55
第29図　遺構内出土土製品 …… 55
第30図　遺構内出土石器（１） …… 56
第31図　遺構内出土石器（２） …… 57
第32図　遺構内出土石器（３） …… 58
第33図　遺構内出土石器（４） …… 59
第34図　遺構内出土石器（５） …… 60
第35図　遺構内出土石器（６） …… 61
第36図　遺構外出土石器（１） …… 61
第37図　遺構外出土石器（２） …… 62
第38図　遺構外出土石器（３） …… 63

付　図　遺構配置図

表　目　次

第１表　遺跡周辺の表層地質一覧 …… 3
第２表　周辺の遺跡一覧 …… 7
第３表　放射性炭素年代測定および樹種同定結果 …… 64
第４表　暦年較正年代結果 …… 65

付　図　柱穴様ピット一覧

図　版　目　次

図版１－１　繋沢遺跡と周辺の地形（南西から）
　　２　ＳＩ03・ＳＲ08・ＳＫ02（西から）
図版２－１　ＳＩ40完掘（西から）
　　２　ＳＩ40炉土層断面（西から）
　　３　ＳＲ08外側の土器（南から）
　　４　ＳＲ08内側の土器（南から）
　　５　ＳＲ08土層断面（南から）
図版３－１　ＳＲ53土器（南から）
　　２　ＳＲ100土器（南から）
　　３　ＳＫ02礫確認状況（南から）
　　４　ＳＫ23土層断面（南から）
　　５　ＳＫ65遺物出土状況（南から）
図版４－１　ＳＫ72土層断面（南から）
　　２　ＳＮ09確認状況（南東から）
　　３　ＳＮ68確認状況（西から）
　　４　ＳＮ68掘り形底面の土器（西から）
　　５　ＳＸ01確認状況（西から）
　　６　ＳＱ12確認状況（北西から）
　　７　ＳＤ27完掘（北から）
　　８　ＳＤ39土層断面（南から）
図版５－１　ＳＲ08出土土器
　　２　ＳＲ53出土土器
　　３　ＳＲ97出土土器
　　４　ＳＲ100出土土器
　　５　ＳＫ65出土土器
　　６　ＳＫ65出土土器
　　７　ＳＫ66出土土器
　　８　ＳＫＰ209出土土器
図版６－１　ＳＩ03出土土器
　　２　ＳＩ40出土土器
図版７－１　ＳＲ08・11出土土器
　　２　ＳＫ65・66出土土器
図版８－１　柱穴様ピット出土土器・土製品、遺構外出土土器
　　２　剥片石器
図版９－１　ＳＸ01出土剥片　接合状態
　　２　ＳＸ01出土剥片
　　３　礫石器・磨製石斧

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

県道秋田岩見船岡線（県道28号線）は、地域住民が利用する生活道路であり、河辺町岩見を起点とし、秋田市太平から秋田市街地を経由して国道７号線に接続する主要地方道である。この県道秋田岩見船岡線は近年、交通量の増加に伴い、河辺町岩見から秋田市太平にかけては道路幅が狭いうえに急なカーブも多く、老朽化により路面状況が悪化しているなどの交通安全上の問題点が表面化してきた。そのため秋田県建設交通部では、現道隘路の解消を図り、各路線との連絡強化を目的とした道路整備を計画した。

計画路線内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、道路工事に先立ち、秋田県建設交通部より秋田県教育委員会に、埋蔵文化財包蔵地の確認と今後の対応について調査の依頼があった。これを受けて秋田県教育委員会では、平成14年７月２日と８月７日に計画路線内の分布調査を実施した。その結果計画路線内に新発見の遺跡である繋沢遺跡が確認され、今後は遺跡の確認調査が必要であること、さらに確認調査の結果によって取り扱いの協議が必要であることを回答した。

この分布調査結果をふまえ、秋田県埋蔵文化財センターは、平成14年10月30日から11月15日まで繋沢遺跡の確認調査を実施し、工事区内の遺跡面積を確定した。これを受けて秋田県教育委員会と秋田県建設交通部で協議した結果、記録作成の措置をとることで合意し、秋田県埋蔵文化財センターで、翌年度の発掘調査計画を策定した。

以上の経緯に基づき、秋田県埋蔵文化財センターは、工事に先立って平成15年９月１日から11月14日まで繋沢遺跡の発掘調査を実施した。

第２節　調査要項

遺　跡　名	繋沢遺跡（略記号：５ＴＳ）
遺跡所在地	秋田県河辺郡河辺町三内字繋沢159
調査期間	平成15年９月１日～11月14日
調査目的	県道秋田岩見船岡線建設事業に係る埋蔵文化財事前発掘調査
調査面積	2,460m²
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	山田祐子（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課　文化財主事）
	足利直哉（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課　調査・研究員）
	吉田　茜（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課　調査・研究員）
総務担当者	藤原康悦
調査協力機関	秋田県建設交通部　河辺町教育委員会

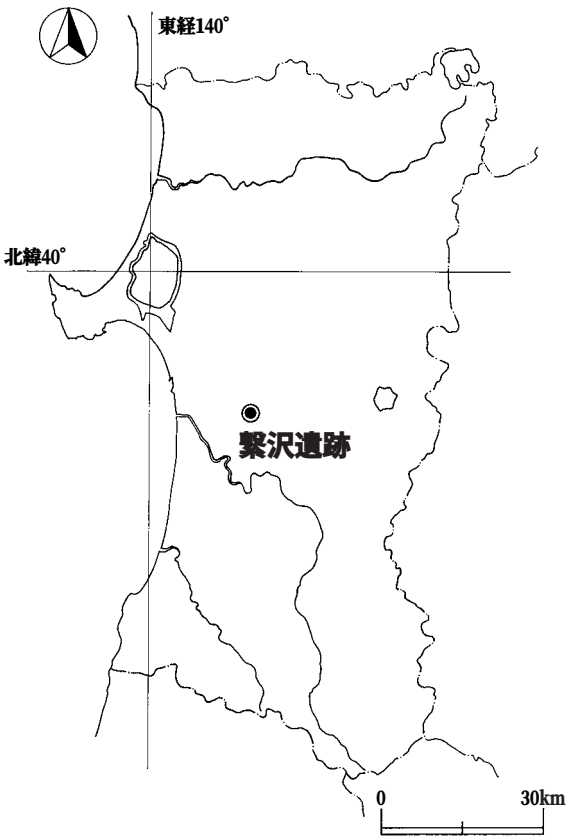
第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

繋沢遺跡は、秋田県河辺郡河辺町三内字繋沢に所在しており、北緯39度43分06秒、東経140度17分15秒に位置する。河辺町は、秋田県のほぼ中央に位置し、南側を東西に貫く国道13号線を中心として、隣接する秋田市街地や阿仁町・雄和町へアクセスする複数の県道が通っている。繋沢遺跡は国道13号線から県道308号線を経由し、秋田市街地へ向かう県道28号線へ入って北へ約１kmの地点、道路西側の丘陵地上にある。

遺跡のある河辺町の大部分は、出羽山脈の一部にあたる太平山・白子森・馬場目岳・番鳥森など海抜1,000mを越す山々とそれに連なる山地で占められている。これらの山地は谷密度が低く、急峻な壮年期地形を示し、斜面のほとんどは森林に覆われている。しかし標高は南西に行くに従って低くなり、三内地区から高度が急変して丘陵地が占める老年期地形を示すようになる。各河川による開析は進んでいるが、標高は100～200mで、丘陵背面は揃っている。繋沢遺跡は岩見川の北岸に広がる和田丘陵地の東端に位置しており、標高は76～82mである。遺跡東から南には岩見川水系の一つである繋沢があり、遺跡との比高差が約16mの狭小な谷底平野を形成している。繋沢は遺跡から約１km下流で三内川に合流し、三内川はさらに500m下流で岩見川に注いでいる。岩見川とその支流は周囲の標高に従って南西へ流れており、三内川と岩見川が合流する周辺から下流では標高はさらに低くなって、標高20～120mの発達した河岸段丘が見られるようになる。

遺跡の立地する台地の表層地層は、礫・泥及び砂を主体とする第四紀更新世段丘堆積物である。表土は黒ボク土、その下約２mは粘土層、以下は最大径60cmに及ぶ礫を含んだ砂礫層が５～10m続く。遺跡の周辺、三内川と岩見川が合流する一帯の表層地層は、段丘堆積物の下位に堆積する新第三紀中新世船川層で、その主体はシルト岩及び暗灰色泥岩である。

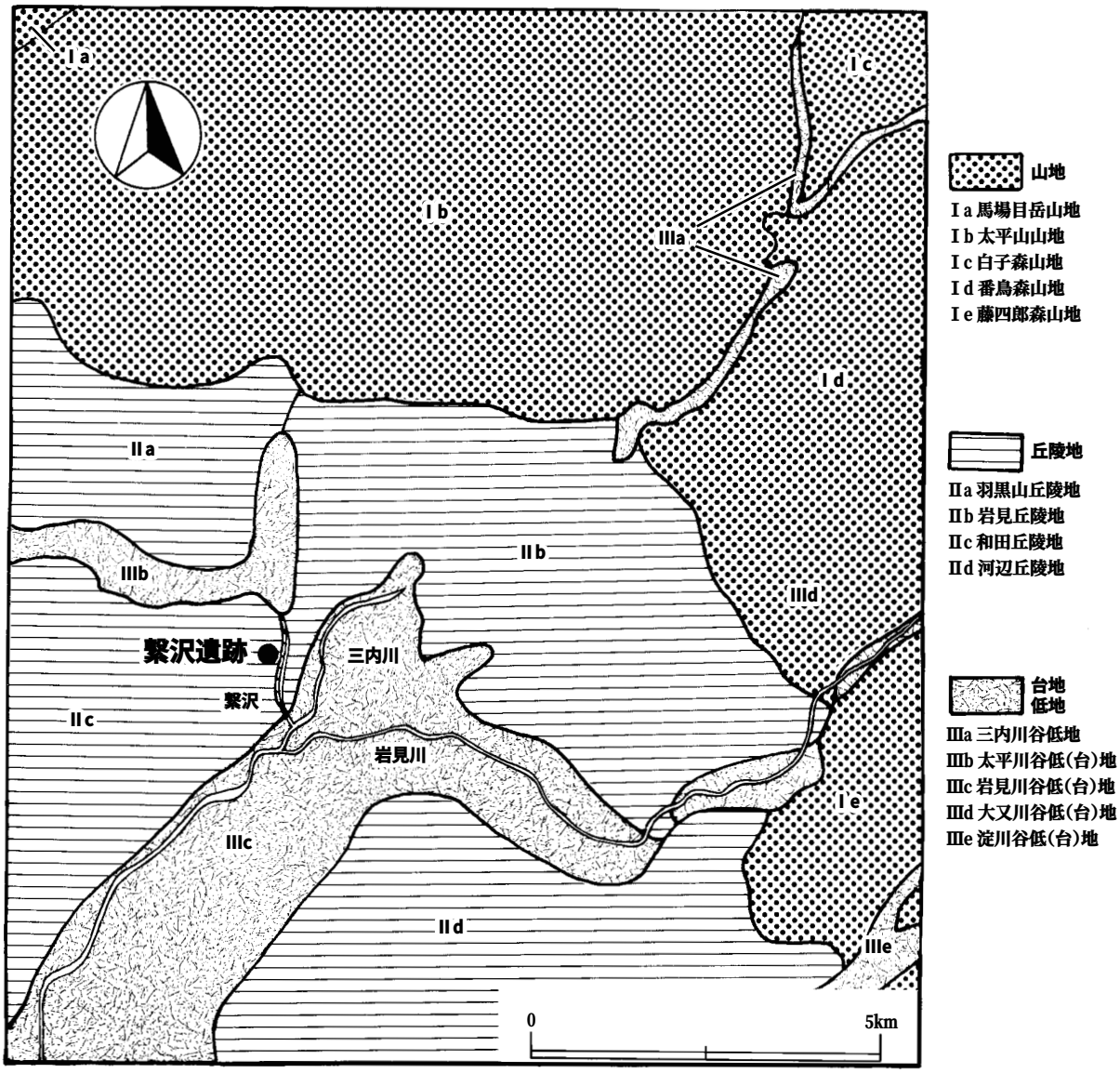


第１図　遺跡の位置

第２節　歴史的環境

繋沢遺跡は岩見川の支流の一つである繋沢右岸の丘陵地に立地する遺跡である。

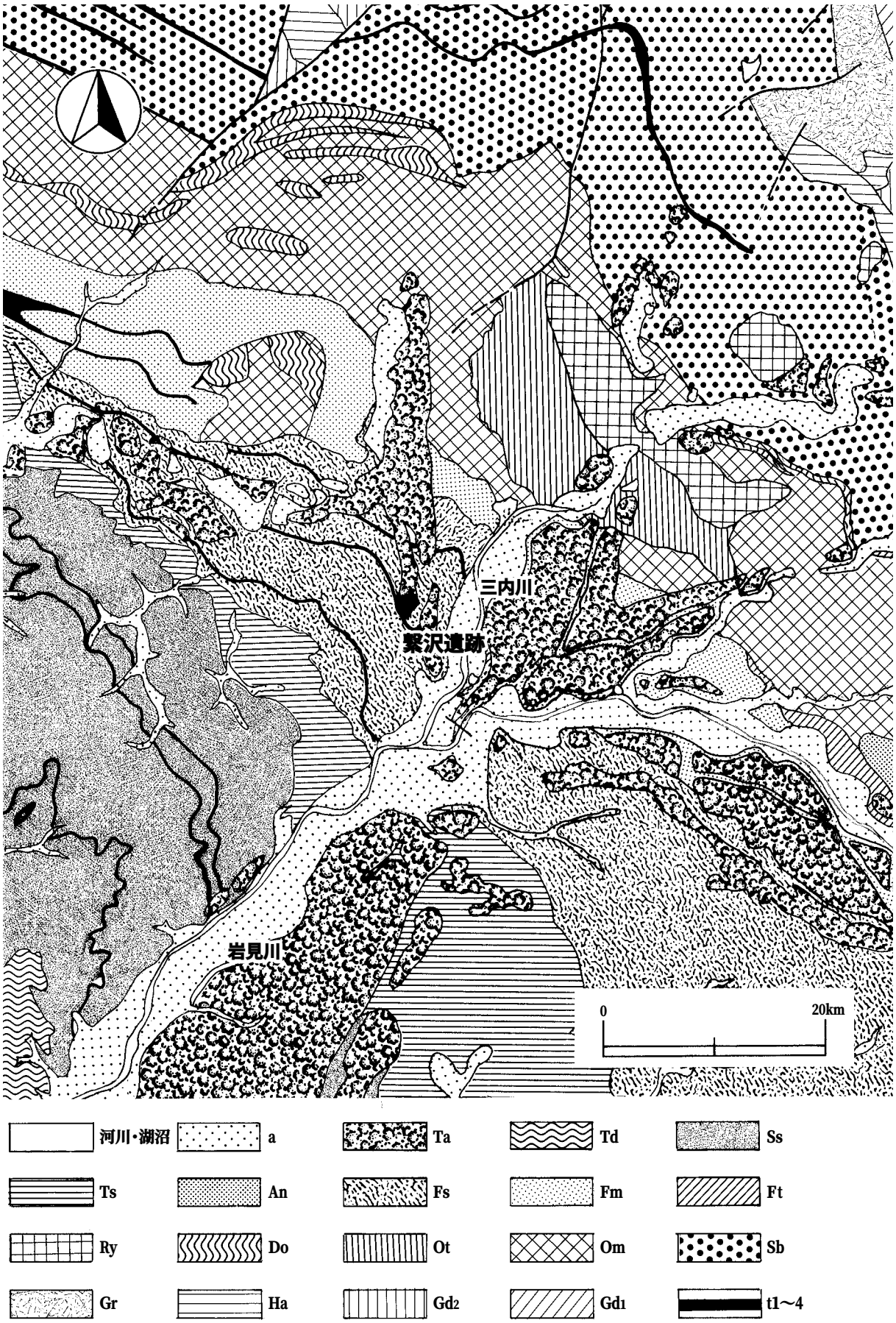
太平山地に水源を発する岩見川とその支流沿いの段丘上には、旧石器時代から中世に至る多くの



第２図　遺跡周辺の地形分類

沖積層		a	礫・泥及び砂
段丘堆積物		td	礫・泥及び砂
高岡層		Td	砂岩（礫・泥炭・酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩を伴う）
笹岡層		Ss	砂岩（シルト岩及び礫岩を伴う）
		t4	酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩
天徳寺層		Ts	シルト岩（砂岩・酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩を伴う）
		t3	酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩
岨谷峡安山岩		An	輝石安山岩溶岩
船川層	上部	Fs	シルト岩及び暗灰色泥岩（礫岩・酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩を伴う）
		t2	酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩
	下部	Fm	暗灰色泥岩（酸性凝灰岩・砂質凝灰岩及び砂岩を伴う）
		t1	酸性凝灰岩及び砂質凝灰岩
		Ft	酸性凝灰岩・砂質凝灰岩及び暗灰色泥岩の互層
筑紫森流紋岩		Ry	黒雲母流紋岩
馬場目ドレライト		Do	かんらん石ドレライト
女川層	上三内凝灰岩部層	Ot	黒雲母流紋岩凝灰岩・火山礫凝灰岩及び凝灰角礫岩
	主部	Om	硬質泥岩（酸性凝灰岩及び砂岩を伴う）
砂小渕層	主部	Sb	玄武岩溶岩及びその火砕岩（酸性凝灰岩・泥岩・砂岩及び礫岩を伴う）
萩形層		Ha	（変質）輝石安山岩溶岩及びその火砕岩
太平山深成変成岩類	主迸岩類	Gr	黒雲母花崗岩
		Gd2	角閃石黒雲母花崗岩閃緑岩
	最古期深成変成岩類	Gd1	片麻状角閃石黒雲母花崗閃緑岩

第１表　遺跡周辺の表層地質一覧



第３図　遺跡周辺の表層地質

遺跡が確認されている。

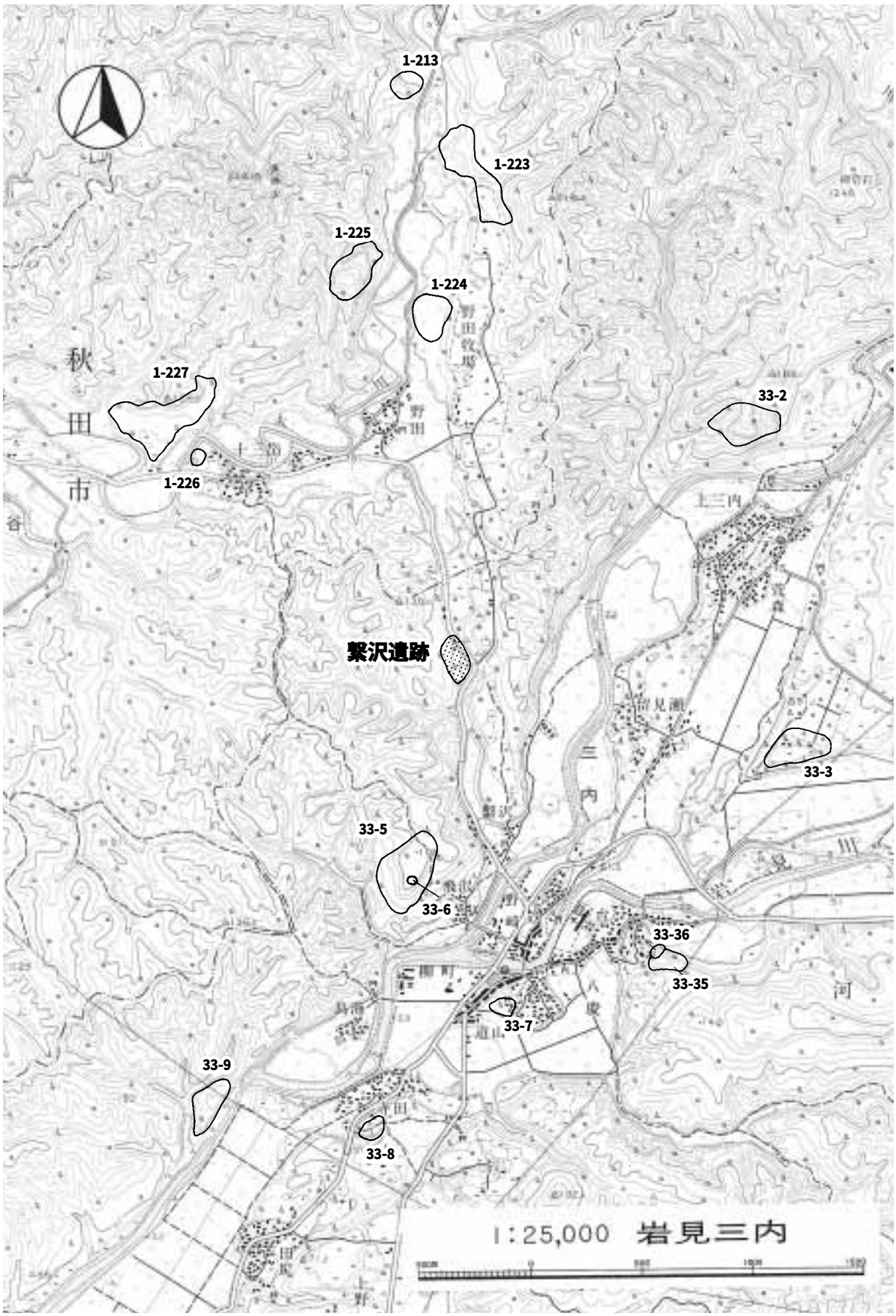
特に繋沢遺跡から約10km下流の岩見川南側にある七曲台や、さらに約５km下流の北側にある御所野台地では、ニュータウン構想などの開発に伴って行われた発掘調査により、旧石器時代から古代まで幅広い発掘成果が得られている。

旧石器時代の遺跡としては、七曲台の風無台Ⅱ遺跡や松木台Ⅱ遺跡、御所野台地の下堤Ｇ遺跡等がある。風無台Ⅱ遺跡や松木台Ⅱ遺跡では台形様石器を主とする石器群と多くの接合事例が、下堤Ｇ遺跡では米ヶ森形台形石器を主とする石器群が発見されており、遺跡間で石器組成の違いが見られる。

縄文時代の遺跡は前期から晩期まで数多く見つかっており、主に台地・丘陵地の縁辺部に立地している。中でも縄文時代中期の遺跡は最も多く、大部分を占めるのは中期後半だが、繋沢遺跡と同時期である中期前半の遺構も見つかっている。七曲台の風無台Ⅰ遺跡で検出した56号竪穴住居跡は床面から円筒上層ａ式土器が出土しており、住居の規模は長軸７ｍ、短軸５ｍの楕円形と推定され、中央に地床炉がある。中期中頃から後半の遺構ではあるが土器埋設炉を伴う竪穴住居跡も複数検出されている。御所野台地の下堤Ａ遺跡、下堤Ｇ遺跡、坂の上Ｆ遺跡でも、中期前半の遺構が検出されている。下堤Ａ遺跡では、大木７ａ式から大木10式までの竪穴住居跡が検出されており、平面形は楕円形を主とし、長径５～６ｍのものが最も多い。炉は、大木７ａ・７ｂ式期以降は地床炉が見られなくなり、土器埋設炉から石囲土器埋設炉を経て、大木10式期には複式炉へ移行している。坂ノ上Ｆ遺跡では、中期初頭の竪穴住居跡が６軒検出されており、これらはいずれも地床炉を伴う。このうちの８号住居跡は長径19mの隅丸長方形の大型住居跡であり、15・16号住居跡は床が二段構造を有するという特徴を持つ。

弥生時代以降の遺跡の数は少ないが、御所野丘陵地の地蔵田Ｂ遺跡では柵で囲まれた集落が見つかり、国の史跡として指定を受けている。古代では、風無台Ⅰ遺跡で掘立柱建物跡、松木台Ⅱ遺跡で土坑墓と須恵器の杯が発見されたにとどまる。中世では、館跡である虚空蔵大台滝遺跡が、御所野台地から南東の岩見川右岸にあり、平成16年に発掘調査され、空堀や土塁などの館の構造が明らかとなった。

繋沢遺跡の近辺では発掘調査事例は少ないものの、岩見川・三内川・太平川沿いの台地や丘陵地で遺跡が発見されており、古くから石器や土器が採集できる場所も知られている。縄文時代の遺跡では、岩見川北岸の萱森野遺跡（33－3）や、太平川沿いの谷ノ山Ⅰ遺跡（1－213）・谷ノ山Ⅱ遺跡（1－223）・首戸遺跡（1－224）・十三岱Ⅰ遺跡（1－226）、十三岱Ⅱ遺跡（1－227）など、河川沿いの丘陵地の縁辺部に遺物包含地が見つかっている。また、古代では岩見川南岸の祇園台遺跡（33－8）から須恵器が出土しており、中世では白岩館（33－2）・野田館（1－225）など、現況で廓や土塁を確認できる館跡が見つかっている。繋沢遺跡の周辺は山林が多く確認が困難なため、現在周知されている遺跡数は少ないものの、河川沿いの丘陵地・台地等これまで発見されている遺跡と類似した地形が多く、岩見川流域の歴史を解き明かす遺跡が未発見のまま包蔵されているものと考えられる。


1-213
1-223
1-225
1-224
1-227
1-226
33-2
繋沢遺跡
33-3
33-5
33-6
33-36
33-35
33-7
33-9
33-8
秋
田
市
1:25,000　岩見三内

第４図　周辺の遺跡

地図番号	遺跡名	所在地	種 別	遺構・遺物	備 考
1-213	谷ノ山Ⅰ	秋田市太平山	遺物包含地	石鏃・石器剥片	
1-223	谷ノ山Ⅱ	秋田市太平山	遺物包含地	縄文土器片・石器	
1-224	首　戸	秋田市太平山	遺物包含地	石器剥片・石核	
1-225	野田館	秋田市太平山	館跡	主郭・土塁・空堀・竪堀	『秋田県の中世城館』県教委1981
1-226	十三岱Ⅰ	秋田市太平山	遺物包含地	石器	
1-227	十三岱Ⅱ	秋田市太平山	遺物包含地	石器剥片	
33-2	白岩館	河辺町三内	館跡	腰郭・帯郭・空堀	『秋田県の中世城館』県教委1981　他
33-3	萱森野	河辺町岩見	遺物包含地	縄文土器片・石器	
33-5	長者館	河辺町岩見	館跡	中世陶器片	『秋田県の中世城館』県教委1981　他
33-6	飛　沢	河辺町三内	経塚	須恵器（壺）	
33-7	道山館	河辺町三内	館跡	石器（石鏃）	『秋田県の中世城館』県教委1981　他
33-8	祇園台	河辺町三内	遺物包含地	縄文土器片(後期)･須恵器片･石鏃･石匙	
33-9	館ケ沢	河辺町三内	館跡	土塁・空堀・腰郭・宋銭・石槍	『秋田県の中世城館』県教委1981　他
33-35	岩見館	河辺町岩見	館跡	帯郭・空堀	『秋田県の中世城館』県教委1981　他
33-36	鍛冶屋敷	河辺町岩見	経塚	経石	

第２表　周辺の遺跡一覧

参考文献

秋田県『土地分類基本調査　太平山』1996(平成８)年

秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』1979(昭和56)年

秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（秋田・河辺版)』2004(平成16)年

秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅰ』1986(昭和61)年

秋田県教育委員会『七曲台遺跡群発掘調査報告書』1985(昭和60)年

秋田県教育委員会『松木台Ⅲ遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ－』

2001(平成13)年

秋田市『秋田市史　第六巻　考古　史料編』2002(平成14)年

河辺町『河辺町史』1985(昭和60)年

地質調査所『地域地質研究報告　太平山地域の地質』1981(昭和56)年

地質調査所『地域地質研究報告　秋田地域の地質』1977(昭和52)年

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

繋沢遺跡は、県道秋田岩見船岡線建設事業に伴う分布調査によって確認された新発見の遺跡である。和田丘陵地の東端に位置しており、南東に向かって張り出した丘陵地の縁辺部から、西側を南北に走る浅い沢までの平坦面約5,000m²が遺跡の範囲と推定される。しかし、遺跡の東側は県道28号線建設の際に削平されているため、遺跡のある平坦面は実際にはさらに東側に広がっていたと考えられる。遺跡の地形は、南東方向に向かって緩やかに傾斜しており、南東側では標高約76m、北西側では約82mである。県道28号線を越えて東側には、岩見川水系の一つである繋沢が狭小な谷底低地を形成しており、遺跡のある丘陵地との比高差が約16mある。遺跡のある丘陵地から繋沢を挟んで対岸には、遺跡とほぼ同じ標高の岩見丘陵地を臨むことが出来る。

遺跡の調査前の現況は荒地だが、昭和29年からは耕作地・果樹園として利用されており、調査結果からも地山まで削平を受けている部分が多かった。そのため、確認した遺構の多くが上面に撹乱を受けていた。

調査の対象範囲である工事予定地は、遺跡推定範囲の東側縁辺部にあたり、面積にして遺跡推定範囲の半分を占める。

第２節　調査の方法

調査は確認調査の成果に基づき耕作土である表土の除去を重機によって行い、その後にグリッド杭を打設した。グリッド杭は工事用中心杭No.50を起点とし、南北方向と直交する東西方向を基準軸として４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。起点の杭をMA50とし、グリッド杭には東から西に向かって…・ＬＳ・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ・ＭＣ・…というアルファベットと、南から北に向かって…・48・49・50・51・52・…の二桁の数字を組み合わせた記号を記入し、グリッドの呼称は南東隅（例：ＭＡ50）の記号を用いた。調査対象全域にグリッドを設定することにより、計画的な調査と同時に遺構の平面的な位置の把握に努めた。

遺物の取り上げについては基本的に、遺構外遺物には出土グリッド・層位・出土年月日を、遺構内遺物には出土遺構名・遺構内層位・出土年月日をラベルに記入し、それぞれポリ袋に入れて取り上げた。さらに、出土状況・遺物の内容によっては微細図もしくはドット図を作成し、取り上げ番号を記録して取り上げた場合もある。

遺構は検出順に略記号と01からの通し番号によって個別認識したが、柱穴様ピットのみは101からの番号を付した。遺構は基本的には２分法、４分法を用いて精査を行い、平面図及び土層断面図は20分の１で作成し、住居内の炉、土器埋設遺構は10分の１で作成した。

記録用の写真は、35mm判を使用し、フィルムはモノクロ・リバーサルを併用して撮影し、必要に応じてネガカラーフィルムによる撮影も行った。また調査終了時には、委託による空中写真撮影を行い、

撮影成果は35mm判のモノクロ・リバーサル・６×６判のリバーサルフィルムとTIFF及びJ-PEGデータでCD-ROMに保存している。

第３節　調査の経過

発掘調査の経過は次の通りである。

８月18日　重機による表土除去作業開始。
８月20日　重機による表土除去作業終了。
９月１日　調査初日。作業員への作業手順の説明、発掘調査機材の搬入、環境整備を行う。
９月２日　調査区北側から遺構検出作業開始。
９月９日　ベルトコンベア設置、配線作業。
９月11日　ＳＸ01検出。
９月18日　基本土層図を作成。ＳＩ03・ＳＫ02を検出。
９月24日　ＳＲ08を検出。ＳＫ02から、礫3点出土。
９月30日　ＳＩ03・ＳＲ08・ＳＫ02の全体写真を撮影。
10月１日　ＳＮ09・10の確認写真撮影。ＳＲ11、ＳＱ12を検出。
10月４日　ＳＤ27を検出。
10月６日　ＳＲ29を検出。
10月８日　ＳＩ40を検出。ＳＲ08の精査で、土器が入れ子状態であることを確認。
10月10日　ＳＲ46を検出。
10月21日　ＳＲ53・54を検出。
10月24日　ＳＩ61を検出。
10月27日　ＳＫ65を検出。円筒上層式と大木式の土器片が多量に出土した。
11月10日　ＳＩ98・ＳＲ97を検出。
11月11日　ＳＲ100を検出。
11月13日　ＳＲ100精査終了。空中写真撮影を実施。
11月14日　調査最終日。調査区の引き渡しと、発掘調査機材の搬出等撤収作業を行った。

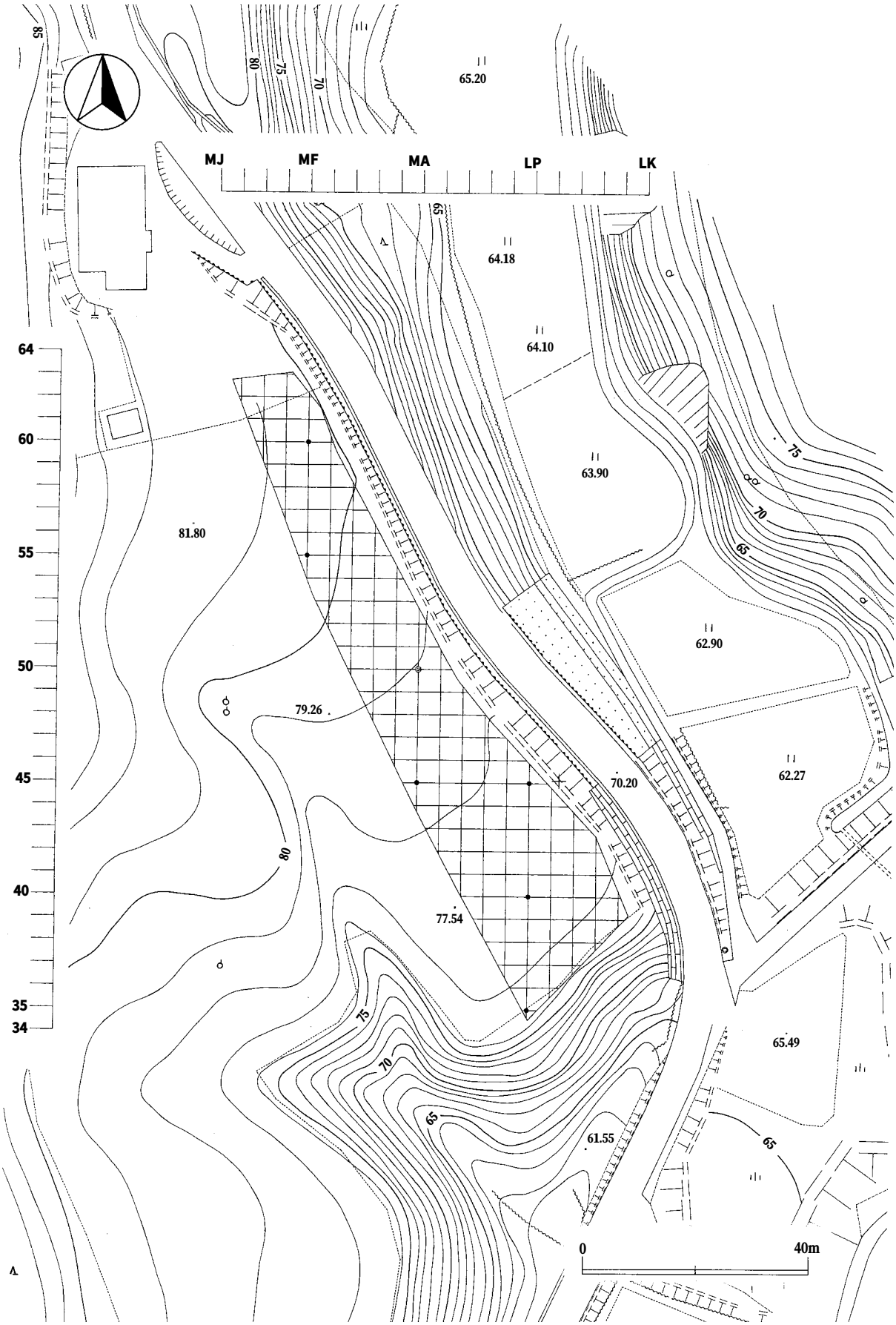
第４節　整理作業の方法と経過

遺構は、調査終了後に平面図・断面図を点検・修正して第２原図を作成し、これをトレースした。柱穴様ピットについては、一覧表をもって個別図の代わりとした。

遺物は、発掘調査と平行して洗浄を行い、調査終了後に注記・接合・復元作業を行った。その後、報告書掲載遺物を分類し、実測・採拓を行った。

これらと並行して、遺構内から出土した炭化物の放射性年代測定と、土器埋設遺構と土坑から採取した土のリン酸・カルシウム分析を委託した。

以上の経過を経て、原稿を作成し編集作業を行った。


MJ
MF
MA
LP
LK
64
60
55
50
45
40
35
34
85
80
75
70
65
65.20
64.18
64.10
63.90
62.90
62.27
81.80
79.26
70.20
77.54
65.49
61.55
0
40m

第５図　グリッド配置図

第４章　調査の記録

第１節　基本層序

調査区は繋沢右岸にある丘陵地の南東側縁辺部に立地している。調査区の標高は北西端のＭＨ62グリッドでは約80.5m、南東端のＬＫ39グリッドでは約76.5mと全体に南東方向へ向かって緩やかに傾斜しており、層序は均一な堆積状況を示している。調査区内の現況は荒地だが、昭和30年代から耕作地や果樹園として利用されていたため、地山に至る削平を受けている部分が多い。

基本土層の観察は、確認調査で遺構の残りが良好だったＬＭ43－ＬＲ38の間に土層観察用のベルトを設定して行い、その結果表土から地山までを４層に分層した。Ⅰ層は現在の表土、Ⅱ層は調査区を耕作地として利用していた際の耕作土であり、遺物の混入が見られる。Ⅲ層は縄文時代の遺物包含層であり、縄文時代の遺構の覆土は主にこの層に由来する。耕作の際に削平されているために堆積は薄く、この上面で確認された遺構は撹乱を受けている。ＬＳ～ＭＡ49・50グリッドは旧地形の窪地であるため若干厚く残っており、上部で多くの遺物が出土した。Ⅳ層は地山である。

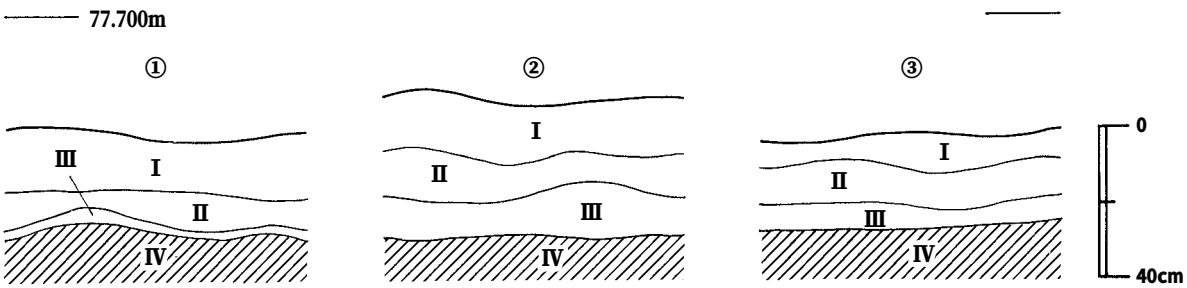
Ⅳ層の下には、段丘堆積物である砂礫層が堆積している。調査区北西のＭＣ55グリッドで深堀を行った結果、Ⅳ層上面から砂礫層上面まで1.3m以上の深さがあったが、標高が低くなるに従ってⅣ層の堆積は薄くなっており、丘陵地の縁辺部にあたる調査区最南東端ではⅡ層の直下に砂礫層が見られた。

Ⅰ層　　黒褐色シルト土（2.5YR3/2）　表土。しまり強　粘性中
　　地山粒子が混入しており、非常に乾きやすい。

Ⅱ層　　黒褐色シルト土（10YR3/2）　旧耕作土。しまり中　粘性中
　　地山粒子が少量混入している。

Ⅲ層　　褐色粘土（10YR4/4）　遺物包含層。しまり強　粘性強
　　場所によってやや明暗があり、色調がにぶい黄褐色・暗褐色の部分もある。

Ⅳ層　　明黄褐色粘土（10YR6/6）　地山。しまり強　粘性強



※①～③は、付図の遺構配置図中の①～③に対応する。

第６図　基本土層図

第２節　検出遺構

今回の調査で検出された遺構は以下の通りである。

竪穴住居跡	４軒	土器埋設遺構	８基	土坑	30基	焼土遺構	18基
溝状遺構	８条	集石遺構	３基	石器集中遺構	１基	柱穴様ピット	205基

これらの多くは、縄文土器・石器が出土することや覆土がⅢ層に由来することから縄文時代のものと判断される。ただし溝状遺構など基本土層では確認できない暗褐色～黒褐色土を覆土とする遺構もあり、それらの覆土は本来Ⅲ層の上に堆積しており耕作の際に削平された土層に由来すると考えられることから、縄文時代より新しいと判断される。

遺物は、土器・土製品・石器の各々に遺構内外通じて１から通し番号を振って掲載しており、文中では遺物をこの番号で呼称している。

１　竪穴住居跡

４軒の竪穴住居跡のうち、ＳＩ03・ＳＩ40は丘陵地の縁辺部に、ＳＩ61・ＳＩ98は縁辺部からやや離れた丘陵地内側に位置している。

ＳＩ03（第７・21・30・33図、図版１－２、６－１、８－２、９－３）

ＭＦ・ＭＧ61・62グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＫ02・ＳＲ08・ＳＫＰ103～105・111と重複しており、すべて本住居跡より新しい。覆土が地山と非常に近似した色調だったため、当初自然の落ち込みであると考えたが、柱穴や焼土面を確認し竪穴住居跡であることが判明した。住居の周囲の地形が東に向かってわずかに傾斜しているため、東側では壁が確認されなかった。

住居の平面形は楕円形で、規模は長軸7.96m、短軸5.14m、確認面から床面までの深さは12cmである。床面は軟らかく平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴は12基が検出され、Pit１～３・６・８～10・12の８基は住居内の壁際、Pit４は住居の壁の外側に接して、Pit５・７・11の３基は壁から離れた内側に位置している。

炉は土器埋設炉で、住居中央からやや北側に位置する。直径約70cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく明赤褐色で、中央に土器を埋設した掘り形がある。埋設土器は大部分が破損し被熱面上面に散乱して出土したが、小破片が掘り形内から直立した状態で出土した。炉の埋設土器１は直径約20cmの深鉢形土器の胴部上半である。口縁部は隆帯によって胴部と区画されて文様が施され、隆帯の上にはＬ原体による側面圧痕が刻み目状に施される。口縁部の隆帯の間は、Ｒ原体による横位の側面圧痕と半裁竹管による刺突で充填され、胴部にはＬＲ原体の横位回転による綾絡文が施されている。

住居の覆土はⅢ層に由来する褐色土で、しまりが強く混入物がほとんど見られない。

遺物は、住居中央床面から縄文土器２・３が、南西部床面から石槍１・二次加工のある剥片・剥片が、北西部では床面からわずかに浮いて台石が出土し、覆土から縄文土器４・５・石鏃２・石篦３・二次加工のある剥片・剥片・磨石26・敲き石27・28が、Pit１～３・10の覆土から少量の剥片が、Pit11から縄文土器の破片が出土した。

縄文土器２は深鉢形土器で、口縁部は外反し、口縁には頂部が二股に分かれる山形状の突起がつく。

口縁部の文様の施文方法は１とほぼ同様だが、隆帯の間は半裁竹管ではなく断面が長方形の工具による刺突で充填される。３は浅鉢形土器で、底部から胴部まで直線的に開き、口縁部で緩やかに内湾し、平縁である。口唇は肥厚しており、口縁部に横位の隆帯とＸ字形の隆帯が貼り付けられ、胴部ではＹ字形の隆帯が垂下する。すべての隆帯に沿ってＬ原体による側面圧痕が施され、胴部にはＲＬ原体の縦位回転による縄文が施されている。４・５は深鉢形土器で、器形と口縁部の施文方法は２とほぼ同様で、胴部に結束羽状縄文が横位に施される。４の隆帯の間は棒状工具で刺突される代わりに、Ｒ原体による爪形の側面圧痕で充填される。

剥片石器・剥片のうち、覆土から出土した黒曜石の剥片を除いて、すべて素材は頁岩である。石槍１は有茎と考えられるが基部が欠損しており、表裏全面に二次加工が施される。石鏃２は凸基有茎鏃であり、側縁部にのみ二次加工を施している。石篦３は短冊型で刃部は丸く、表裏全面に二次加工が施されている。磨石26・敲き石27・28は拳大で扁平な楕円形の礫を利用している。26は、表面の中央部分が摩耗してわずかに窪んでおり、裏面には敲打痕がある。27・28は、長軸の両端や側面に敲打痕がある。台石は、人頭大で平面形が三角形の扁平な礫を使用しており、上面に磨り面がある。

本竪穴住居跡の時期は、炉に埋設されていた土器と床面から出土した土器から、縄文時代中期前半（円筒上層ｃ式期）と判断される。

ＳＩ40（第７・21・22・30・33・34図、図版２－１、２、６－２、９－３）

ＭＢ54・55グリッドのⅣ層上面で検出されたが、東側は調査区外にある。

住居の平面形は円形と推定され、規模は直径5.16m、確認面から床面までの深さは16cmである。床面は軟らかく平坦で、壁は外傾して立ち上がる。柱穴は９基検出され、Pit１は住居の壁の外側に接して、Pit２・４～６は住居内の壁際、Pit３・７～９は壁から離れた内側に位置する。

炉は土器埋設炉で、住居のほぼ中央に位置する。直径約40cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく明赤褐色である。被熱面の南側に、土器埋設のための掘り形があり、規模は直径40cm、住居床面から底面までの深さは約12cmで、掘り形の中央に深鉢形土器が正位で埋設されている。炉の埋設土器６は深鉢形土器で、胴部上半が欠損している。底部はやや上げ底で外面に網代痕があり、胴部はほぼ垂直に立ち上がっており、器厚は比較的厚い。胴部には結束羽状縄文が横位に施されている。胎土は砂粒をやや多く含むが緻密で、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

住居の覆土は３層に分層される。１層はⅡ層に由来する黒褐色土で、後世に堆積した層である。２・３層はⅢ層に由来する褐色土と地山ブロックが混合した覆土で、５～10cm大の木炭が混入しており、埋め戻されている。３層から出土したクリの炭化材（遺構図中ＲＣ）の^{14}C年代測定では、4,500±40年前という結果が得られている。

遺物は、土器埋設炉の東側の床面から頁岩の剥片が１点、覆土２層上面から縄文土器７～11、土器埋設炉の西側の２層上位から台石が２点、覆土中から二次加工のある剥片・剥片・半円状扁平打製石器34・磨石29・30・敲き石31～33が、Pit９の覆土から二次加工のある剥片４・剥片が出土した。

縄文土器７～９は深鉢形土器である。７の口縁部は外反し、波状口縁と考えられる。隆帯と、Ｒ原体による３条の波形の側面圧痕が施され、無文部分が広く残される。口唇や隆帯の上にはＲ原体による側面圧痕が刻み目状に施される。胎土は多量の砂粒を含むが緻密で、焼成も良好で、色調は赤褐色である。８・９の口縁部は内湾しながら開き、口縁には山形状の突起がつく。口縁部は地文としてＬ

Ｒ縄文が施され、２条の側面圧痕によって胴部と区画され、山形状の突起の頂部から２条の波形の隆帯が垂下する。９の口縁部には、垂下する隆帯を起点として弧状の隆帯と、隆帯に沿ってＬＲ原体による側面圧痕が施され、胴部には結束羽状縄文が縦位に施されている。10・11は浅鉢形土器で、底部から胴部までは直線的に開き、口縁部で緩やかに内湾し、平縁である。口縁部に横位で施された２条の隆帯の間にＸ字形の隆帯が貼り付けられ、その下にはＹ字形の隆帯が垂下する。隆帯に沿ってＲ原体による側面圧痕が施され、胴部にはＬＲ原体の縦位回転による縄文が施される。11はボタン状の貼付文を挟んで、対弧線状の隆帯が施される。

二次加工のある剥片・剥片の素材はいずれも頁岩である。二次加工のある剥片４は素材剥片の打点部分が欠損しており、剥片の側縁部に二次加工が施され三角形に整形されている。半円状扁平打製石器34は扁平な楕円形の礫の長辺に表裏から二次加工が施され、二次加工された部分には磨り面が、表面には敲打痕がある。磨石29・30は拳大で扁平な円形の河原石を利用しており、表面に磨り面がある。敲き石31は拳大で扁平な楕円形の頁岩で、長軸の一端を主として周縁に敲打痕がある。敲き石32・33は拳大で扁平な楕円形の礫で、長軸の一端と側面に敲打痕がある。台石２点は、人頭大の扁平な礫を使用しており、上部に磨り面がある。

本竪穴住居跡の時期は、炉の埋設土器と^{14}C年代測定の結果から、縄文時代中期前半（円筒上層ｃ式期）と判断される。

ＳＩ61（第８・22・35図）

ＬＮ・ＬＯ39・40グリッドのⅣ層上面で検出された。当初、ＳＮ09・ＳＮ10を伴う住居であることが想定されたが、床面が下位で確認されたためＳＮ09・ＳＮ10より古い住居と判断された。その他重複する遺構のうち住居より新しい遺構は、ＳＫ23・ＳＮ24・ＳＫＰ133・163・290である。住居の床面で土坑２基と柱穴様ピット28基が確認されたが、壁際もしくは長軸線上に位置し、覆土が住居の覆土と一致する柱穴様ピット８基が住居に伴う柱穴、それ以外が住居より古い遺構と判断された。住居より古い遺構は、ＳＫ95・ＳＫ96・ＳＫＰ283～289・291～298・300・301・303～309・311・312・314・321・322である。住居の南西側は倒木痕によって壊されており、南東側は植物の根による撹乱が多く壁の位置が不明であった。

住居の平面形は楕円形で、規模は長軸が7.5m、短軸が５mと推定され、確認面から床面までの深さは12cmである。床面は軟らかく平坦で、壁は北側では緩やかに立ち上がるが、南側では立ち上がりが明確ではない。柱穴は、Pit１・３～５・７の５基は壁際、Pit２・６・８は壁から離れた内側にある。炉は検出されなかった。

住居の覆土はⅢ層に由来する褐色土だが、上面から植物の根による撹乱を受け、黒褐色土が混入している。覆土中から出土したクリの炭化材（遺構図中ＲＣ）の^{14}C年代測定では、4,450±50年という結果が得られている。

覆土中から縄文土器12・13・二次加工のある剥片・剥片・台石41が、Pit６の覆土から二次加工のある剥片・剥片が、Pit８から縄文土器14が出土した。

縄文土器12・13は、深鉢形土器である。12の底部は上げ底で、胴部はほぼ垂直に立ち上がっており、結束羽状縄文が横位に施されている。胎土は多量の砂粒を含むが、焼成は良好で、色調は赤褐色である。13は深鉢形土器の口縁につく山形状の突起の頂部であり、貼り付けられた隆帯の上にＬ原体によ

る側面圧痕が刻み目状に施され、隆帯の間にＬ原体による側面圧痕が横位に施される。胎土は多量の砂粒を含むが緻密で、焼成も良好で、色調は暗褐色である。14は鉢形土器の口縁部で、口唇は面取りされている。半円形の隆帯が貼り付けられ、半裁竹管による刺突が口縁に沿う位置では横位に、胴部では縦位に連続して施される。胎土は粗く多量の砂粒を含み、焼成は不十分で色調は暗褐色である。

二次加工のある剥片・剥片は、覆土から出土した黒曜石の剥片１点を除いて、すべて素材は頁岩である。台石41は人頭大の扁平な礫を利用しており、上面に敲打痕がある。

本竪穴住居跡の時期は、出土遺物と^{14}C年代測定の結果から、縄文時代中期前半と判断される。

ＳＩ98（第８・30図）

ＭＡ・ＬＴ49・50グリッドのⅣ層上面で検出されたが、東側をＳＫ65によって切られている。

住居の平面形は円形で、規模は直径3.5mと推定され、確認面から床面までの深さは10cmである。床面は平坦で、幅30～40cmの壁溝が巡っている。住居の床面と壁溝の底面から柱穴５基が検出された。また、ＳＫ65の底面から見つかったPit６は、覆土が住居内の柱穴と類似し、壁溝の中に位置したと推定されることから住居に伴う柱穴と判断される。炉は検出されなかった。

住居の覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、地山ブロックが混入しており、埋め戻されている。住居覆土から出土したクリの炭化材の^{14}C年代測定では、4,380±40年前という結果が得られている。

覆土中から、少量の縄文土器・石匙６・二次加工のある剥片５・剥片が出土した。

石器の素材はすべて頁岩である。石匙６は横型であり、表裏面の側縁部に二次加工を施しているが、つまみ部分を作り出すための抉りが不十分で、未成品と考えられる。二次加工のある剥片５は素材剥片の打点部分が欠損しており、表面の縁辺部に二次加工が施されている。

本竪穴住居跡の時期は、出土遺物・覆土・^{14}C年代測定の結果から、縄文時代中期前半と判断される。

２　土器埋設遺構

土器埋設遺構８基のうちＳＲ08・11・29・53・97・100は、丘陵地縁辺部に沿って分布している。ＳＲ46・54は、他の土器埋設遺構と比較して縁辺部から離れた丘陵地内側に位置する。

ＳＲ08（第９・22・23・30図、図版２－３～５、５－１、７－１、８－２）

ＭＧ62グリッドのＳＩ03床面で、深鉢形土器の口縁部と掘り形が検出された。ＳＩ03の床面より埋設されている土器の口縁部が高いことから、実際の掘り形はＳＩ03の覆土上面から掘られていたと考えられ、ＳＩ03より新しい遺構と判断される。北西側をＳＫＰ103に切られている。

２個体の深鉢形土器が入れ子になって埋設されており、掘り形の規模は、長軸42cm、短軸37cm、確認面から底部までの深さは51cmで、断面形は下半が狭くなっている。外側の土器は正位で埋設されており、底部が掘り形の底面から11cm浮いている。内側の土器も正位で、胴部の破片が内部に落ち込んでおり、胴部の破片の下には内側の土器の底部の破片が逆位で入っていた。埋設される際には底部が破損しており、胴部の中に入れられたと判断される。外側の土器15・内側の土器16は共に、底部はやや上げ底で外面に網代痕が残っており、胴部は開いて立ち上がり、口縁部は外反しながらゆるやかにふくらむ。15は、口径約40cm、底径15cm、器高40cmで、口縁には頂部が二股に分かれる山形状の突起が４単位つく。口縁部は貼り付けられた隆帯によって胴部と区画され、山形状の突起の頂部から垂下する隆帯を起点として、左右に弧状の文様が描かれる。すべての隆帯に沿ってＬＲ原体によ

る側面圧痕が施される。胴部にはＬＲ原体の縦位回転による綾絡文が施される。16は口径30cm、底径12cm、器高41cmで、平縁である。全体にＬＲ原体の横位回転による縄文が施されており、口縁部はＬＲ原体による２条の側面圧痕で胴部と区画され、鋸歯状の文様が描かれる。

覆土は２層に分層される。１・２層共にⅢ層に由来する土を主体としており、１層は土器内の覆土で、黄褐色土に炭化物が少量混入する。２層は掘り形の覆土で、にぶい黄褐色土に地山ブロックが多く混入している。覆土のリン酸・カルシウム分析では、遺構周辺の土と比較して差は認められず、遺体が埋納されているとは断定出来ないという結果が得られている。

１層中位から石鏃７・剥片が出土しており、いずれも素材は頁岩である。

石鏃７は凸基有茎鏃で、厚さ２mmの薄い剥片を利用しており、側縁部に二次加工が施される。

本遺構の時期は、埋設されていた土器から縄文時代中期前半（大木７ｂ式期）と判断される。

ＳＲ11（第９・23図、図版７－１）

ＬM38グリッドのⅢ層上面で土器片の分布、Ⅳ層上面で埋設されている土器と掘り形が検出された。土器の胴部半ばまで耕作による撹乱を受けていた。

掘り形は直径28cm、確認面から底面までの深さ16cmである。土器は掘り形の底面から４cm浮いて、正位で埋設されていた。埋設されていた土器17は深鉢形土器で、底径10cm、器高は残存値で23cmである。底部から胴部半ばまでは開き、上半では垂直に立ち上がる。口縁部は破損しているがわずかに内湾している。口縁は平縁で折り返され、口縁部には貼り付けられた縦位の隆帯を起点として、R原体による側面圧痕が横位に２条、弧状に２条施される。胴部にはＲＬ原体の縦位回転による綾絡文が施されている。

覆土は３層に分層され、１・２層が土器内の、３層が掘り形の覆土であり、Ⅲ層に由来する黄褐色土やにぶい黄褐色土を主体とする。２層には炭化物が、１・３層には地山ブロックが混入している。

遺構の時期は、埋設されていた土器から縄文時代中期前半と判断される。

ＳＲ29（第９・23図）

ＬＬ41グリッドのⅢ層上面で土器片の分布と、Ⅳ層上面で埋設されている土器と掘り形が検出された。土器の底部付近まで耕作によって撹乱されている。

掘り形は直径約35cm、確認面から底面までの深さは13cmである。土器は掘り形の底面から７cm浮いて、正位で埋設されていた。埋設されていた土器18は深鉢形土器で、口縁部から底部付近まで欠損しており、底径13cm、器高は残存値で６cmである。底部外面は平坦で木葉痕があり、胴部は底部から胴部下半は外反して立ち上がる。胴部の残存する部分は無文である。胎土には多量の砂粒を含むが緻密で、焼成は良好で、色調は橙色である。

覆土は２層に分層される。１層が土器内の覆土、２層が掘り形の覆土であり、両者ともⅢ層に由来する褐色土を主体とする。１層には多量の地山ブロックが、２層には炭化物と焼土が混入する。

本遺構の時期は、埋設されていた土器から縄文時代中期前半と判断される。

ＳＲ46（第９・24図）

ＬQ39グリッドのⅢ層で土器片の分布、Ⅳ層上面で埋設されている土器と掘り形が検出された。土器の胴部下半まで撹乱されており、検出された時点で土器内部には覆土が残っていなかった。

掘り形の規模は直径約30cm、確認面から底面までの深さは５cmである。土器は掘り形底面か

ら１cm浮いて、正位で埋設されていた。

埋設されていた土器19は深鉢形土器で、口縁部から胴部下半まで欠損している。底部からわずかに外反して立ち上がる。胴部下端は無文で、その上部にはＬＲ原体の横位回転による縄文が施されている。胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成も良好で、色調は明黄褐色である。

掘り形の覆土はⅢ層よりやや暗い砂質の暗褐色土で、撹乱を受けている。

本遺構の時期は、縄文時代中期前半と判断される。

ＳＲ53（第９・24図、図版３－１、５－２）

ＭＢ54グリッドのⅣ層上面で、埋設された土器が検出された。南西側は植樹によって、上面は耕作によって撹乱されている。

掘り形の規模は直径26cm、確認面から底面までの深さは24cmで、土器は正位で埋設されている。埋設されていた土器20は深鉢形土器で、口径24cm、底径10cm、器高28cmである。胴部は開いて立ち上がり、口縁部はわずかに内湾しながら開く。口縁には山形状の突起が４単位つく。口縁部は隆帯によって胴部と区画され、山形状の突起の下には逆台形の隆帯が貼り付けられる。隆帯の上にはＬＲ原体とＲＬ原体による側面圧痕が施され、隆帯の間は、ＬＲ原体による横位の側面圧痕と断面が長方形の工具による刺突が施される。胴部にはＬＲ原体の横位回転による縄文が施され、表面に炭化物の付着が見られる。

覆土は３層に分層される。１・２層が土器内の覆土、３層が掘り形の覆土で、いずれもⅢ層に由来する黄褐色土や褐色土を主体とする。２層は、炭化物を少量含む。

覆土中から少量の頁岩の剥片が出土している。

本遺構の時期は、埋設されていた土器から縄文時代中期前半（円筒上層ｃ式期）と判断される。

ＳＲ54（第９・24図）

ＭＡ49グリッドのⅢ層上面で、埋設されている土器と掘り形が検出された。上面は耕作により撹乱されていたため、土器は大部分が欠損していた。

掘り形の規模は直径約35cm、確認面から底面までの深さは８cmである。土器は胴部の破片が掘り形の底面から５cm浮いて直立した状態で出土し、底部を除去された土器が正位で埋設されていたと判断された。埋設されていた土器21は深鉢形土器で、胴部の直径は約20cmと推定される。器面には結束羽状縄文が横位に施されている。胎土は砂粒をやや多く含むが緻密で、焼成も良好で、色調は浅黄色である。内面に炭化物が付着している。

覆土は２層に分層される。１層は土器内部、２層は掘り形の覆土だが、上面から撹乱を受けていずれも暗褐色土のブロックを含んでいる。

本遺構の時期は、埋設されていた土器が円筒上層式と考えられることから、縄文時代中期前半（円筒上層式期）と判断される。

ＳＲ97（第９・24図、図版５－３）

ＬＳ49グリッドのⅣ層上面で、埋設された土器の口縁部が検出された。

掘り形の規模は長軸37cm、短軸26cm、確認面から底面までの深さは15cmである。土器は底部が欠損しており、掘り形底面から４cm浮いて、正位で埋設されていた。

埋設されていた土器22は深鉢形土器で、口径13cm、器高は残存値で12cmである。胴部から口縁部

に向かってわずかに開き、平縁である。口縁から１条の細い隆帯が垂下し、隆帯の上にはＬＲ縄文が施される。器面にはＬＲ原体の縦位回転による綾絡文が施されている。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は良好で、色調は浅黄色である。器厚は薄く、内面はよく磨かれており、表面に炭化物が付着している。

覆土は２層に分層される。１層が土器内の覆土、２層が掘り形の覆土である。いずれもⅢ層に由来するブロック状のにぶい黄褐色土や褐色土を主体とするが、１層には炭化物と焼土が、２層には炭化物と地山ブロックが混入している。

本遺構の時期は、埋設されていた土器から縄文時代中期前半と判断される。

ＳＲ100（第９・24図、図版３－２、５－４）

ＬＳ49グリッドのⅢ層上面で礫２点、半裁により礫の下で埋設された土器と掘り形が検出された。

掘り形の規模は、上面の長軸が54cm、短軸が45cmと推定され、底面が長軸44cm、短軸34cm、確認面から床面までの深さは48cmで、壁は垂直に立ち上がる。土器は掘り形の底面から22cm浮いて、正位で埋設されている。上面に配置された礫２点は人頭大の扁平な円形の礫で、使用痕はない。北側の礫は立てられ、南側の礫は土器の直上に配置されており、わずかに北に向かって傾斜している。埋設されている土器が歪んでいるため、礫の重みで押されたものと考えられる。埋設されていた土器23は深鉢形土器で、口径20cm、底径10cm、器高25cmである。器形は、胴部下半では開き、上半では垂直に立ち上がり、口縁部で外反する。口縁の山形状の突起は、頂部が折り返されて、内側にＣ字形の沈線が施される。口縁部は隆帯によって胴部と区画され、山形状の突起の頂部から垂下する隆帯を起点として、左右へ弧を描く隆帯が貼り付けられる。隆帯の上にはＬＲ原体による縦位の側面圧痕が刻み目状に施される。隆帯の間には、ＬＲ原体による側面圧痕が横位に施される。胴部にはＬＲ原体の横位回転による綾絡文が施され、表面には炭化物が付着している。

覆土は２層に分層される。１層が土器内の覆土、２層が掘り形の覆土で、１・２層共にⅢ層に由来する褐色土に炭化物と地山ブロックが混入している。２層の方が地山ブロックの混入量が多い。

覆土２層から、土器23とは別個体の縄文土器の底部破片と少量の頁岩の剥片が出土した。

本遺構の時期は、埋設されていた土器から縄文時代中期前半（円筒上層ｃ式期）と判断される。

３　土坑

土坑30基のうち、23基が縄文時代であり、７基が縄文時代より新しい。土坑は丘陵地縁辺部からやや離れた内側に位置している。

ＳＫ02（第10・30図、図版３－３）

ＭＦ61グリッドのＳＩ03の覆土上面で検出し、ＳＩ03より新しい。

平面形は楕円形で、規模は長軸94cm、短軸84cm、確認面から底面までの深さは34cmである。底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土は３層に分層され、１層は黒褐色土である。２・３層はⅢ層に由来する褐色土で、２層には地山ブロックが、３層には炭化物と地山ブロックが混入している。３層の上面から人頭大の角礫が３点出土し、いずれも使用痕はない。この礫が配置されたと見られることから、３層は人為的に埋め戻され、後に上面が沈み込んで１・２層が堆積したと考えられる。３層から出土したクリ・ブナ属の炭化

材の^{14}C年代測定では、4,520±40年という結果が得られている。覆土のリン酸・カルシウム分析では、遺構外の土と比較して差は認められず、遺体が埋納されているとは断定出来ないという結果が得られている。

遺物は、１層から少量の剥片が、３層から少量の縄文土器、石鏃８、石篦９、剥片が出土している。縄文土器のうち１点は、ＳＩ03覆土中から出土した土器破片と接合したが、埋め戻しの際に覆土に混入したもので、本来はＳＩ03の覆土中の土器と判断される。

剥片石器・剥片の素材は、剥片２点が黒曜石、その他はいずれも頁岩である。８は凸基有茎鏃の未成品と考えられ、剥片の側縁部に二次加工が施されている。９は撥形の石篦で、刃部から左側縁部が欠損している。表裏全面に二次加工が施されている。

本土坑は、リン酸・カルシウム分析からは断定出来なかったものの、礫の出土状況・土坑の形状・覆土から土坑墓と判断される。時期はＳＩ03よりも新しいが、２・３層の覆土がⅢ層に由来することや、^{14}C年代測定の結果から、他の縄文時代の遺構と時期差は少なく、縄文時代中期前半～中頃と判断される。

ＳＫ05（第10図）

ＬＮ42グリッドのⅢ層上面で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸111cm、短軸80cm、確認面から底面までの深さは44cmである。底面には段差があり、北側が南側より12cm低くなっている。壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層に分層される。１・２層共にⅢ層に由来する褐色土に、多量の地山ブロックが混入しており埋め戻されている。覆土から少量の縄文土器と頁岩の剥片が出土した。

本土坑の時期は、出土遺物と覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ07（第10図）

ＭＥ59・60グリッドのⅢ層上面で検出された。平面形は円形で、規模は直径63cm、確認面から底面までの深さは24cmで、底面は丸みがあり壁は外傾して立ちあがる。覆土は、Ⅲ層に由来する褐色土で、地山と黒褐色土のブロックが混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土に黒褐色土が混入していることから、縄文時代より新しいと判断される。

ＳＫ14（第10図）

ＭＤ・ＭＥ57グリッドのⅢ層上面で検出された。ＳＫＰ114に切られている。平面形は楕円形で、規模は長軸110cm、短軸94cm、確認面から底面までの深さは20cmである。底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層に分層され、１層は暗褐色土を主体とする。２層はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土を主体とし、多量の地山ブロックと炭化物・焼土が混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、２層の覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ23（第10・24・34図、図版３－４）

ＬＯ38・39グリッドのⅡ層下位で敲き石とその下に縄文土器の破片があり、半裁により土坑が検出された。ＳＩ61と重複しており、ＳＩ61より新しい。

平面形は隅丸方形で、規模は長軸32cm、短軸28cm、確認面から底面までの深さは16cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土はⅢ層に由来する暗褐色土で、炭化物が混入している。覆土中に混入して多量の縄文土器が出土し、敲き石35は土器片の上に置かれた状態で出土した。

出土した土器はほとんどが摩滅しており、24・25の深鉢形土器２点のみを図示した。24は口縁部か

ら胴部の破片で、口縁部と胴部の境で外反する。縄文が施されているが、摩滅していて原体は不明である。胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成は良好で、色調は黄橙色である。25は平縁の口縁部の破片で、わずかに内湾しており、ＬＲ原体の横位回転による縄文が施される。口唇は平らに整形され、整形の際に寄った粘土が波形に盛り上がっている。胎土は石英が目立ち、焼成は良好で、色調は灰黄褐色である。35は拳大で楕円形の礫で、長軸の一端に敲打痕がある。

本土坑の時期は、出土した土器から縄文時代中期前半と判断される。

ＳＫ28（第10図）

ＭＤ56グリッドのⅢ層上面で検出された。平面形は円形で、規模は直径75cm、確認面から底面までの深さは 8 cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、炭化物が少量混入する。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ36（第10図）

ＬＭ38グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＤ37に切られている。平面形は楕円形で、規模は長軸118cm、短軸約70cm、確認面から底面までの深さは34cmである。底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。覆土は暗褐色土を主体とし、地山ブロックとグライ化した粘土ブロックが混入している。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＫ43（第10図）

ＬＲ39グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は楕円形で規模は長軸100cm、短軸72cm、確認面から底面までの深さは14cmである。底面は凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。覆土は 2 層に分層される。いずれも黒褐色土を主体として炭化物が混入し、2 層には多量の地山ブロックが混入する。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＫ50（第11図）

ＬＯ・ＬＰ36グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＤ27に切られている。平面形は楕円形で、規模は長軸140cm以上、短軸39cm、確認面から底面までの深さは32cmである。底面は中央が窪み、壁は外傾して立ち上がる。覆土は 3 層に分層される。いずれも黒褐色土を主体としており、底面近くなるに従って地山ブロックの混入量が多くなる。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＫ52（第11図）

ＬＱ38グリッドのⅡ層中位で礫が確認され、周辺の面的精査では土坑のプランは確認されなかったが、半載により礫の下の土坑が検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸42cm、短軸30cm、確認面から底面までの深さは 9 cmで、底面は丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。上面で見つかった礫は直径約30cmの円礫であり、敲打痕や磨り面などの使用痕はない。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、地山ブロックが混入しており埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ62（第11図）

ＬＮ38・39グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸115cm、短軸82cm、確認面から底面までの深さは11cmである。底面は凹凸があり、北側の壁は急角度で立ち上がるが、

南側は緩やかである。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、地山ブロックが多量に混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ63（第11図）

ＬＮ39グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は円形で、規模は直径61cm、確認面から底面までの深さは18cmで、底面は丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はⅢ層に由来する褐色土で、少量の炭化物と地山ブロックが混入している。遺物は覆土から頁岩の剥片が１点出土した。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ64（第11図）

ＬＯ40・41グリッドのⅢ層上面で礫と黒褐色土のプランが検出された。上面に耕作による撹乱を受けている。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸288cm、短軸184cm、確認面から底面までの深さは19cmである。底面は南側がやや低くなっており、南側の壁は急角度で立ち上がるが、北側は緩やかである。上面の礫は20cm大の角礫で、２つに割れた状態で検出している。覆土は３層に分層される。１層は黒褐色土を主体とし、地山ブロックの混入が見られる。２・３層はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土を主体とし、地山ブロックの混入が見られる。２・３層は埋め戻され、１層は後に堆積したと考えられる。遺物は、底面や覆土中から少量の縄文土器が出土している。

本土坑の時期は、出土遺物と２・３層の覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ65（第12・25・26・30・34図、図版３－５、５－５、６、７－２、８－２、９－３）

ＭＡ・ＬＴ49・50グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＩ98・ＳＫＰ214と重複し、ＳＫＰ214より古くＳＩ98より新しい。

平面形は円形で、規模は直径253cm、確認面からの深さは34cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分層される。いずれもⅢ層に由来するにぶい黄褐色土・褐色土を主体とし、炭化物の混入が見られる。２・３層は地山ブロックが多量に混入しており埋め戻されている。２層から出土したエゴノキ属の炭化材の^{14}C年代測定では、4,430±40年前という結果が得られている。床面からナイフ型石器10・剥片が、２層中から二次加工のある剥片・剥片・敲き石36が、２層上面から多量の縄文土器26～36が出土した。

縄文土器26・28～34・36は深鉢形土器、27・35は浅鉢形土器で、完形に復元することが出来たのは26の１点のみである。26は底部から胴部中央まではわずかに開き、胴部上半では直立し、口縁部で外反しており、平縁である。口縁部は隆帯によって胴部と区画され、三角形や四角形に区切られる。すべての隆帯の上にはＲ原体による側面圧痕が刻み目状に施される。隆帯の間はＲ原体による横位の側面圧痕と爪形の側面圧痕によって充填される。胴部には結束羽状縄文が横位に施されている。表面に煤の付着が見られ、口縁部には焼成前に施された補修のための２個１対の穿孔がある。27は底部から胴部まで直線的に開き、口縁部でわずかに内湾する。口縁は肥厚しており、口縁部には波形の隆帯が横位に施され、口縁と隆帯の間に４単位のＸ字形の隆帯が貼り付けられる。Ｘ字形の隆帯の下には大きいＸ字形かＫ字形の隆帯が貼り付けられる。横位の隆帯に沿ってＬＲ原体による側面圧痕が施される。28は底部から胴部までわずかに開いて直線的に立ち上がっており、口縁には小さな山形状の突起がつくと推定される。口縁は肥厚しており、口縁部に１条の隆帯が横位に施され、山形状の突起の頂

部から垂下する縦位の隆帯と十字に交わる。肥厚した口縁と隆帯に沿ってＬＲ原体による側面圧痕が施され、隆帯が交わる部分ではＹ字形に垂下する。27・28の胴部は結束羽状縄文が縦位に施されている。29～33は口唇や貼り付けられた隆帯に無節か単節の原体による側面圧痕が刻み目状に施される。29の胴部は垂直に立ち上がり、口縁部で外反し、平縁である。口縁部と横位に巡る隆帯の間は無文で、胴部にＬＲ原体の横位回転による縄文が施される。胎土は大粒で多量の砂粒を含むが、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。30～33は、無節か単節の原体による爪形の側面圧痕が施されている。30・31は、胴部に結束羽状縄文が横位に施されている。32・33は平縁で、隆帯の間に、Ｒ原体をＬ原体で挟んだ３条の側面圧痕が施されている。34は口縁部と胴部の境に隆帯が横位に貼り付けられ、隆帯の上には半裁竹管によって刺突が施され、胴部にはＬＲ原体の縦位回転による縄文が施されている。胎土は砂粒をやや多く含むが緻密で、焼成は良好で、色調は明黄褐色である。35は口縁部でわずかに内湾しており、平縁である。口縁は肥厚しており、口縁部には１条の隆帯が横位に貼り付けられ、口縁と隆帯の間にＬ原体による側面圧痕が横位に施され、胴部には結束羽状縄文が縦位に施される。36は口縁が内側に折り返されており、平縁である。ＬＲ原体の横位回転による縄文が施され、半裁竹管によって横位と斜位の沈線が施されており、鋸歯状文が描かれていると推定される。

石器の素材はいずれも頁岩である。10は縦長剥片を用いており、長さ5.1cm、幅１cm、厚さ0.4cmの柳葉形で、先端部はわずかに欠損している。主要剥離の打点側に設けられた基部には、裏面から急斜度の刃潰し加工が施されており、左側縁に使用痕が認められる。36は直径約10cmで扁平な円形の礫で、側面に敲打痕がある。

本土坑は、土器が多量に出土したことから土坑墓の可能性が考えられる。時期は、出土遺物や^{14}C年代測定の結果から、縄文時代中期前半（円筒上層ｃ式期）の遺構と判断される。

ＳＫ66（第12・26・30図、図版５－７、７－２、８－２）

ＬＳ・ＬＴ49グリッドのⅢ層中位で深鉢形土器の破片と褐色土のプランが検出された。ＳＫＰ255を切っている。

平面形は楕円形で、規模は長軸129cm、短軸93cm、確認面から底面までの深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、西側では段がつく。覆土は３層に分層される。１・３層はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土と褐色土、２層はⅣ層に由来する明黄褐色土で、地山ブロックなどの混入が見られ、いずれも埋め戻されたものと判断される。遺物は、底面から剥片・二次加工のある剥片が、覆土から多量の縄文土器37～39・石鏃11・石錐12・二次加工のある剥片13・14・剥片が、確認面からは縄文土器40・41が出土した。

縄文土器37は平縁の浅鉢形土器である。口縁部にＲ原体による側面圧痕文と隆帯が横位に貼り付けられ、これらに平行して数条の沈線が施される。胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成は良好で、色調は明黄褐色である。38は胴部破片である。長方形の粘土が縦位に貼り付けられ、先端が丸い工具によって互い違いに２列の刺突が施され、刻みが施された隆帯によって縁取られている。粘土が貼り付けられていない部分にはＬＲ縄文が施されている。39は深鉢形土器で、口縁部は内湾しながら開き、波状口縁と推定される。口縁にはＲ原体による横位の側面圧痕が５条施され、その下位にはＣ字型の隆帯が貼り付けられ、胴部にはＬＲ原体の縦位回転による縄文が施される。40・41は深鉢形土器であり、結束羽状縄文が横位に施されている。40は胴部の破片で、上端に隆帯が貼り付けられ、隆帯の上

にＬ原体による側面圧痕が刻み目状に施され、隆帯に沿ってＲ原体をＬ原体で挟んだ３条の側面圧痕が施される。胎土は多量の砂粒を含むが緻密で、焼成も良好で、色調は赤褐色である。41は内湾しながら開いている口縁部で、胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成も良好で、色調はにぶい黄褐色である。

石器の素材はいずれも頁岩である。11は凸基有茎鏃の未成品と考えられ、表面の上半部と裏面の縁辺部に二次加工が施されいる。12は棒状の石錐で、表裏全面に二次加工が施されている。13・14は欠損しているため全体の形状は不明である。縁辺部に二次加工が施されて刃部を作り出している。

本土坑の時期は、出土遺物から縄文時代中期前半と判断される。

ＳＫ70（第11図）

ＬＴ・ＬＳ49グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＫＰ247・264を切っている。平面形は楕円形で、規模は長軸87cm、短軸64cm、確認面から底面までの深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層に分層される。いずれもⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で地山ブロックが混入しており、底面近い２層では炭化物・焼土が多く、埋め戻されている。遺物は、覆土中から少量の剥片が出土し、素材はいずれも頁岩である。

本土坑の時期は、出土遺物と覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ72（第12図、図版４－１）

ＬＯ44グリッドのⅡ層上位で礫が、半裁により礫の下の土坑が検出された。ＳＫＰ251を切っている。平面形は楕円形で規模は長軸65cm、短軸46cm、確認面から底面までの深さは54cmである。底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。上面の礫は長さ50cm、幅12cm、厚さ16cmの細長い角礫であり、使用痕はない。覆土は２層に分層される。１層はⅠ層に由来する黒褐色土に、地山ブロックが多量に混入している。２層はⅢ層に由来する褐色土を主体とし、地山ブロックと炭化物の混入が見られ、埋め戻されている。１層と２層の層理面の形が礫によって抉られた状況であること、１層の覆土はしまりが弱くⅠ層に由来していることから、礫は本来土坑に埋め込まれて立てられており、後に礫が倒れ、礫が抜けた跡に１層が流れ込んだものと推定される。２層から、少量の縄文土器が出土した。

本土坑の時期は、２層の出土遺物と覆土の状況から、縄文時代と判断される。

ＳＫ73（第12・26図）

ＬＳ40グリッドのⅣ層上面で深鉢形土器の破片とにぶい黄褐色のプランが検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸70cm、短軸56cm、確認面から底面までの深さは10cmで、底面は丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、炭化物・地山ブロックが混入しており、埋め戻されている。覆土中から二次加工のある剥片・剥片が、確認面から縄文土器42が出土した。

縄文土器42は深鉢形土器で、底部から胴部中央まで開きながら立ち上がり、胴部上半は直立し、口縁部で外反している。口縁部は隆帯によって胴部と区画され、２段の鋸歯状の文様が横位に描かれる。隆帯の上にはＬ原体による側面圧痕が刻み目状に施される。隆帯の間は無文で、胴部にはＬＲ原体の横位回転による縄文が施される。胎土は砂粒をやや多く含むが緻密で、焼成も良好で、明黄褐色である。石器の素材はいずれも頁岩である。

本土坑の時期は、出土遺物から縄文時代中期前半（円筒上層ｃ式期）と判断される。

ＳＫ74（第12図）

ＬＱ41グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は円形で、規模は直径85cm、確認面から底面までの深さは18cmである。底面には凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層に分層され、いずれも暗褐色土を主体とし、地山ブロックが混入しており埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＫ75（第11図）

ＬＰ42・43グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸78cm、短軸55cm、確認面から底面までの深さは17cmである。底面は凹凸があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、地山ブロックや炭化物が混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ83（第12図）

ＭＣ56グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は円形で、規模は直径116cm、確認面から底面までの深さは21cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土に地山ブロックと礫が混入しており、埋め戻されている。覆土中から少量の縄文土器が出土した。

本土坑の時期は、出土遺物と覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ84（第13図）

ＭＢ49グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は円形で、規模は直径58cm、確認面から底面までの深さは11cmである。底面は丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土で、１mm角の地山ブロックが混入している。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＫ85（第13図）

ＭＡ48グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸76cm、短軸46cm、確認面から底面までの深さは22cmである。底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、地山ブロックが混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ88（第13図）

ＬＱ45グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸66cm、短軸48cm、確認面から底面までの深さは12cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は２層に分層される。いずれもⅢ層に由来する褐色土を主体とし、１層には黒褐色土ブロックが混入している。

本土坑の時期は、覆土に黒褐色土ブロックが混入しているため、縄文時代より新しいと判断される。

ＳＫ89（第13・34図）

ＬＰ44・45グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸59cm、短軸46cm、確認面から底面までの深さは12cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土はⅢ層に由来する暗褐色土で、少量の地山ブロックと炭化物が混入している。覆土から磨石89が出土した。磨石89は拳大で扁平な円形の礫を利用しており、表裏両面に磨り面があり、表面と側面に敲打痕がある。

本土坑の時期は、出土遺物と覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ92（第13図）

ＭＡ・ＭＢ46・47グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＫ99と重複しているが新旧関係は不明であり、南側は撹乱されている。平面形は楕円形で、規模は長軸110cm以上、短軸約80cmと推定され、確認面から底面までの深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、地山ブロックと炭化物、焼土が混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ93（第13図）

ＭＣ53グリッドのⅣ層上面で検出された。平面形は円形で、規模は直径88cm、確認面から底面までの深さは21cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆度はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土を主体とし、地山ブロックと炭化物が混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

ＳＫ95（第13・34図）

ＬＯ39・40グリッドの、ＳＩ61の床面で検出された。ＳＩ61・ＳＫＰ314と重複し、ＳＩ61より古く、ＳＫＰ314より新しい。平面形は円形で、規模は直径133cm、確認面から底面までの深さは28cmである。底面は丸みをもち、南側の壁は垂直に立ち上がるが、北側は緩やかである。覆土は２層に分層される。いずれもⅢ層に由来する暗褐色土とにぶい黄褐色土で、炭化物が混入しており、埋め戻されている。遺物は、１層から少量の縄文土器・剥片・磨石38が出土している。剥片の素材は頁岩である。磨石38は拳大で扁平な円形の礫を利用しており、表裏に磨り面がある。

本土坑の時期は、出土遺物とＳＩ61との新旧関係と覆土の状況から、縄文時代と考えられる。

ＳＫ96（第13図）

ＬＯ39・40グリッドの、ＳＩ61の床面で検出された。ＳＩ61・ＳＫＰ314と重複し、ＳＩ61より古く、ＳＫＰ314より新しい。平面形は楕円形で、規模は長軸70cm、短軸55cm、確認面から底面までの深さは14cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はⅢ層に由来する暗褐色土で、少量の地山ブロックと炭化物が混入している。

本土坑の時期は、ＳＩ61との新旧関係と覆土の状況から、縄文時代と判断される。

ＳＫ99（第13図）

ＬＯ39グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＫ92と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形で、規模は直径97cm、確認面から底面までの深さは34cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土はⅢ層に由来するにぶい黄褐色土で、地山ブロックが混入しており、埋め戻されている。

本土坑の時期は、覆土の状況から縄文時代と判断される。

４　焼土遺構

焼土遺構は18基検出された。丘陵地の先端部にあたる調査区南側に多く分布する。ほとんどの遺構は詳細な時期を特定できないが、検出時の状況から縄文時代と判断される遺構もある。

ＳＮ09（第14図、図版４－２）

ＬＯ39グリッドのⅡ層中位で礫と焼土ブロックの分布、半裁により礫の下の掘り形が確認された。ＳＩ61と重複し、ＳＩ61より新しい遺構である。20cm大の角礫６点が平行に２列配置されており、

礫の内側が被熱している。下部の掘り形は楕円形で、規模は長径80m、短径60mと推定され、確認面から底面までの深さは20cmである。底面は丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分層され、１層は黒褐色土で焼土と炭化物が混入している。２層はⅢ層に由来する褐色土で地山ブロック・炭化物・焼土が混入している。平面では確認できなかったが、断面から２層の上面がわずかに被熱していることが確認され、炉として使用された後に１層が堆積したと判断される。

本遺構は石囲炉である。周辺の精査では関連する柱穴などは検出されなかった。時期は、縄文時代と判断される。

ＳＮ10（第14図）

ＬＯ39グリッドのⅡ層中位で礫と焼土ブロックの分布、半裁により礫の下の掘り形が確認された。ＳＩ61と重複し、ＳＩ61より新しい遺構である。礫は15～45cm大の角礫で、半円形に配置されており、内側が被熱している。掘り形は楕円形で、規模は長径110cm、短径70cm、確認面から底面までの深さは20cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ちあがる。覆土は２層に分層される。１層はブロック状の焼土で、２層はⅢ層に由来する褐色土を主体として地山ブロックと炭化物が混入している。平面では確認されなかったが、断面では２層の上面がわずかに被熱していることが確認され、炉として使用された後に１層が堆積したと判断される。

本遺構は石囲炉である。周辺の精査では関連する柱穴などは検出されなかった。時期は縄文時代と判断される。

ＳＮ15（第14図）

ＬＯ41グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＫＰ191・192と重複し、これらより新しい。径約90cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色である。東側に２点の礫が南北方向に並べて配置されている。礫は被熱していないが底面の標高が焼土面と一致しており、焼土面に関連している可能性がある。本遺構の時期は、縄文時代と判断される。

ＳＮ17（第14図）

ＬＭ39グリッドのⅢ層上面で検出された。径約100cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色である。

ＳＮ18（第14図）

ＬＭ38・39グリッドのⅢ層上面で検出された。ＳＮ19と重複しているが、新旧関係は不明である。径約110cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色である。上面から頁岩の剥片が出土している。

ＳＮ19（第14図）

ＬＭ38・39グリッドのⅢ層上面で検出された。ＳＮ18と重複しているが、新旧関係は不明である。径約85cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色である。

ＳＮ20（第14図）

ＬＭ38グリッドのⅢ層上面で検出された。径約90cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色である。

ＳＮ21（第14図）

ＬＭ38グリッドのⅢ層上面で検出された。南東側が確認調査のトレンチによって切られている。径

90cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色である。

ＳＮ24（第14図）

ＬＯ38・39グリッドのⅣ層上面で検出された。ＳＩ61と重複しており、ＳＩ61より新しい。径約120cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色である。被熱面の北側で拳大の被熱した礫が出土している。本遺構の時期は、縄文時代と判断される。

ＳＮ31（第15図）

ＬＬ41・42グリッドのⅣ層上面で検出された。径約100cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、明赤褐色である。時期は縄文時代と判断される。

ＳＮ32（第15・34図、図版９－３）

ＬＬ・ＬＭ41・42グリッドのⅡ層中位で磨石、台石が出土し、Ⅲ層上面でブロック状の焼土の分布が検出された。径約180cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく明赤褐色～黄褐色である。被熱面の上面に、硬化した焼土ブロックと炭化物が混入した黒褐色土が堆積している。被熱面の上面から、磨石39と台石が出土し、いずれも被熱している。39は拳大で扁平な円形の礫を利用しており、表面に磨り面があり、表面と側面に敲打痕がある。台石は人頭大の扁平な河原石を利用しており、上面に磨り面がある。

本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代と判断される。

ＳＮ33（第15図）

ＬＮ40グリッドのⅣ層上面で検出された。上面に撹乱を受けている。径約120cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦である。中央部は硬化して赤褐色で、硬化部分の周囲は軟らかく暗赤褐色である。本遺構の時期は、縄文時代と判断される。

ＳＮ34（第15図）

ＬＮ40グリッドのⅢ層上面で検出された。南西側をＳＫＰ319に切られる。径約90cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、にぶい赤褐色である。上面には炭化物が少量分布している。

ＳＮ41（第15図）

ＬＮ37・38グリッドのⅣ層上面で検出された。径約70cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦である。中央部が硬化しており赤褐色で、硬化部分の周辺はにぶい赤褐色である。本遺構の時期は、縄文時代と判断される。

ＳＮ49（第15図）

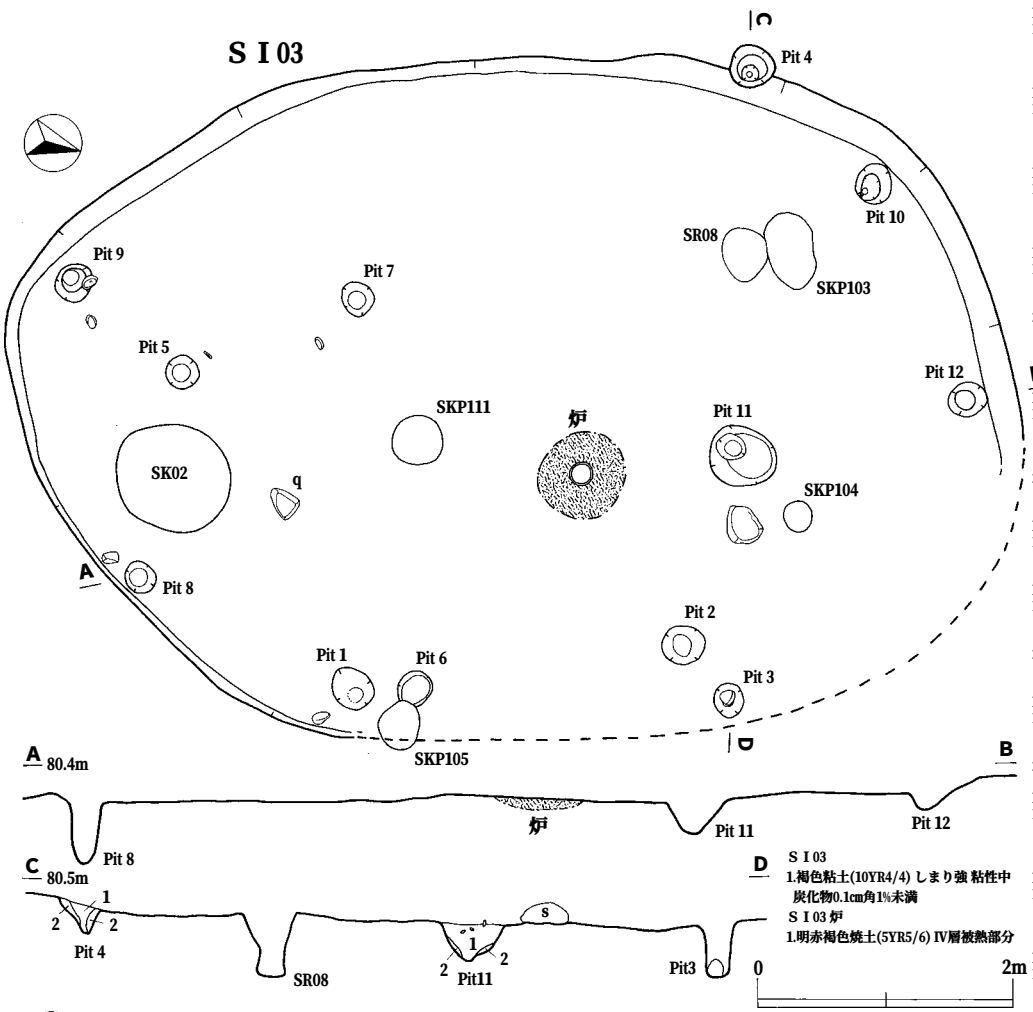
ＬＰ・ＬＱ38グリッドのⅢ層上面で検出されたが、北側は撹乱を受けている。径約80cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で暗赤褐色である。中央部が硬化しており、その周囲は軟らかい。

ＳＮ67（第15図）

ＭＢ54グリッドのⅢ層上面で検出されたが、上面から撹乱を受けている。径約60cmの範囲が被熱しており、硬化して赤褐色である。撹乱により被熱面には凹凸がある。

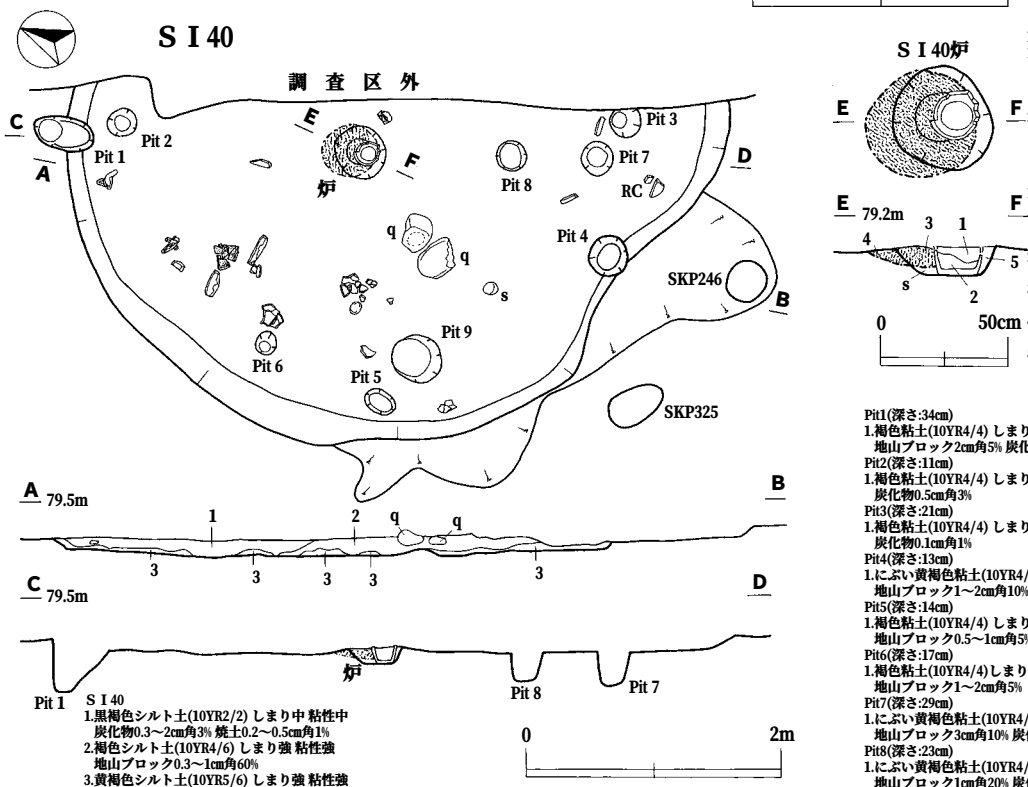
ＳＮ68（第15・27図、図版４－３・４）

ＭＢ54グリッドのⅣ層上面で、被熱面と埋設された土器が検出された。上面は撹乱を受けており、埋設されていた土器は胴部半ばまで破損していた。径58cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、褐色～にぶい褐色である。被熱面の中央に土器埋設のための掘り形があり、規模は長軸



Ｓ Ｉ 03
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
炭化物0.1cm角1%未満
Ｓ Ｉ 03 炉
1.明赤褐色焼土(5YR5/6) Ⅳ層被熱部分

Pit 1 (深さ:16cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)
しまり強 粘性強
地山ブロック1cm角3%
炭化物0.5cm角1%未満
Pit 2 (深さ:34cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)
しまり強 粘性強
地山ブロック1cm角3%
炭化物0.5cm角1%
Pit 3 (深さ:40cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)
しまり強 粘性強
地山ブロック0.5cm角5%
炭化物0.5cm角1%
Pit 4 (深さ:22cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)
しまり強 粘性中
地山ブロック0.5cm角1% 柱痕
2.灰黄褐色シルト土(10YR4/2)
しまり強 粘性中
地山ブロック1～3cm角20%
Pit 5 (深さ:20cm)
1.褐色粘土(10YR4/4)
しまり強 粘性中
炭化物0.1cm角1%未満
焼土0.1cm角1%未満 柱痕
2.黄褐色粘土(10YR5/6)
しまり強 粘性強
炭化物0.1cm角1%未満
Pit 6 (深さ:10cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)
しまり強 粘性中
地山ブロック0.5cm角1%
Pit 7 (深さ:24cm)
1.褐色粘土(10YR4/4)
しまり強 粘性中
炭化物0.1cm角1%未満 柱痕
2.黄褐色粘土(10YR5/6)
しまり強 粘性強
炭化物0.1cm角1%未満
Pit 8 (深さ:53cm)
1.明褐色粘土(10YR5/6)
しまり強 粘性中
炭化物0.1cm角1%
2.明褐色粘土(10YR6/6)
しまり強 粘性中
Pit 9 (深さ:22cm)
1.黄褐色粘土(10YR5/6)
しまり強 粘性中
焼土0.5cm角5%
炭化物0.2cm角1%
Pit10(深さ:10cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)
しまり強 粘性中
地山ブロック0.5cm角3%
炭化物0.1cm角1%未満
Pit11(深さ:28cm)
1.黄褐色粘土(10YR5/6)
しまり強 粘性中
地山ブロック2cm角5%
炭化物0.1～0.5cm角1%
Pit12(深さ:14cm)
1.褐色粘土(10YR4/3)
しまり強 粘性中
地山ブロック0.5cm角10%
炭化物0.1cm角1%未満
2.褐色粘土(10YR4/3)
しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角30%

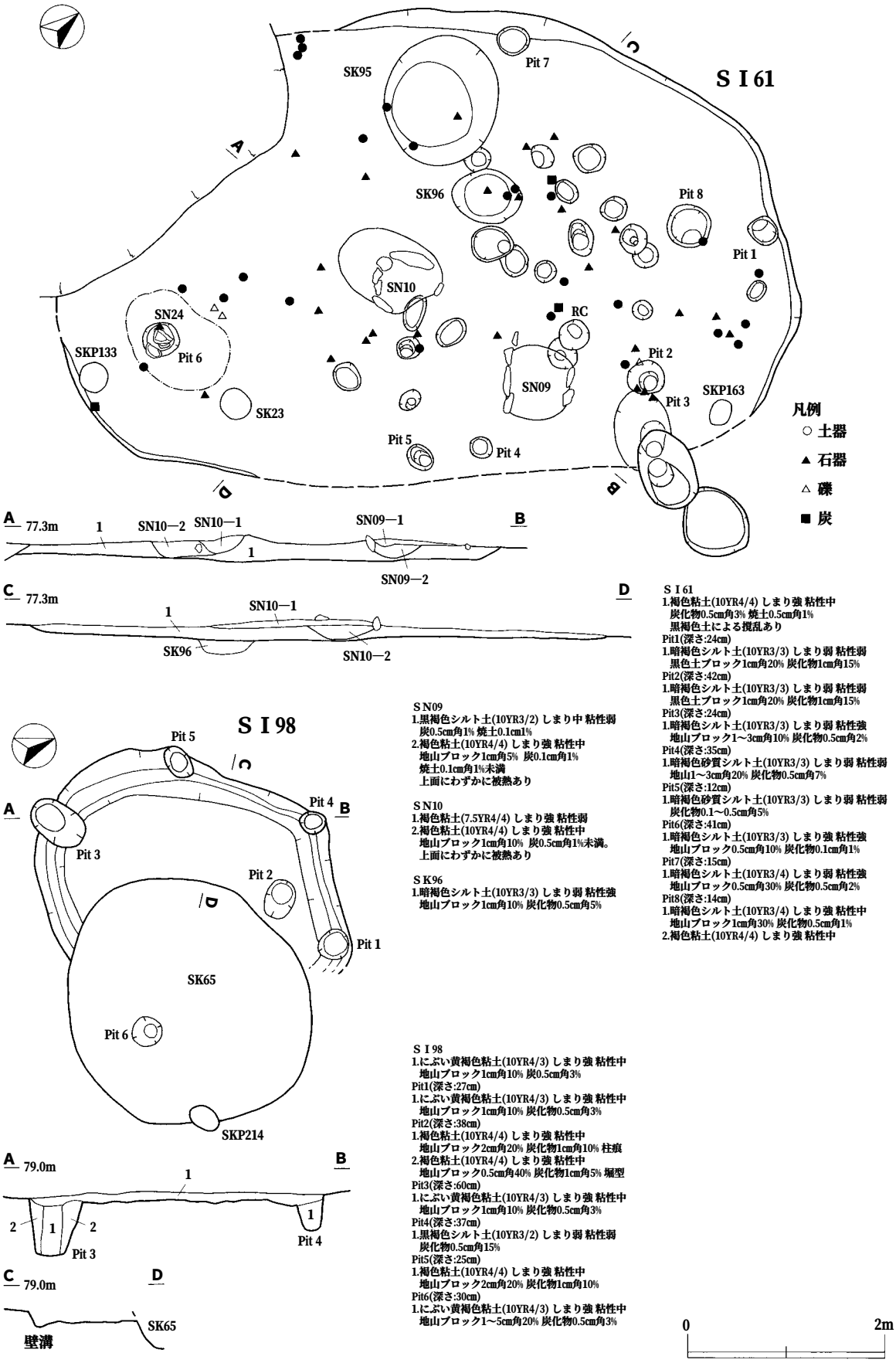


Ｓ Ｉ 40
1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり中 粘性中
炭化物0.3～2cm角3% 焼土0.2～0.5cm角1%
2.褐色シルト土(10YR4/6) しまり強 粘性強
地山ブロック0.3～1cm角60%
3.黄褐色シルト土(10YR5/6) しまり強 粘性強
褐色土ブロック0.3～0.5cm角10%

Ｓ Ｉ 40 炉
1.黒褐色シルト土(10YR3/2)
しまり強 粘性強
炭化物0.5cm角1%
焼土0.1cm角1%未満
2.褐色粘土(10YR4/4)
しまり強 粘性強
3.褐色焼土(7.5Y4/4)
5層被熱部分
4.明赤褐色焼土(5YR5/6)
Ⅳ層被熱部分
5.褐色粘土(10YR4/4)
しまり強 粘性強
地山ブロック1cm角20%
炭化物0.5cm角1%

Pit1(深さ:34cm)
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強
地山ブロック2cm角5% 炭化物0.5cm角1%
Pit2(深さ:11cm)
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強
炭化物0.5cm角3%
Pit3(深さ:21cm)
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強
炭化物0.1cm角1%
Pit4(深さ:13cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1～2cm角10% 炭化物0.5cm角1%
Pit5(深さ:14cm)
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック0.5～1cm角5% 炭化物0.5cm角3%
Pit6(深さ:17cm)
1.褐色粘土(10YR4/4)しまり強 粘性中
地山ブロック1～2cm角5% 炭化物0.5cm角1%
Pit7(深さ:29cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強
地山ブロック3cm角10% 炭化物0.5cm角1%
Pit8(深さ:23cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強
地山ブロック1cm角20% 炭化物0.5cm角1%
Pit9(深さ:36cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1～2cm角5% 炭化物0.5cm角1%

第７図　竪穴住居跡（ＳＩ03・40）



ＳＩ61
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
炭化物0.5cm角3% 焼土0.5cm角1%
黒褐色土による攪乱あり
Pit1(深さ:24cm)
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱
黒色土ブロック1cm角20% 炭化物1cm角15%
Pit2(深さ:42cm)
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱
黒色土ブロック1cm角20% 炭化物1cm角15%
Pit3(深さ:24cm)
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強
地山ブロック1～3cm角10% 炭化物0.5cm角2%
Pit4(深さ:35cm)
1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱
地山1～3cm角20% 炭化物0.5cm角7%
Pit5(深さ:12cm)
1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱
炭化物0.1～0.5cm角5%
Pit6(深さ:41cm)
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強
地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.1cm角1%
Pit7(深さ:15cm)
1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり弱 粘性強
地山ブロック0.5cm角30% 炭化物0.5cm角2%
Pit8(深さ:14cm)
1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角30% 炭化物0.5cm角1%
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中

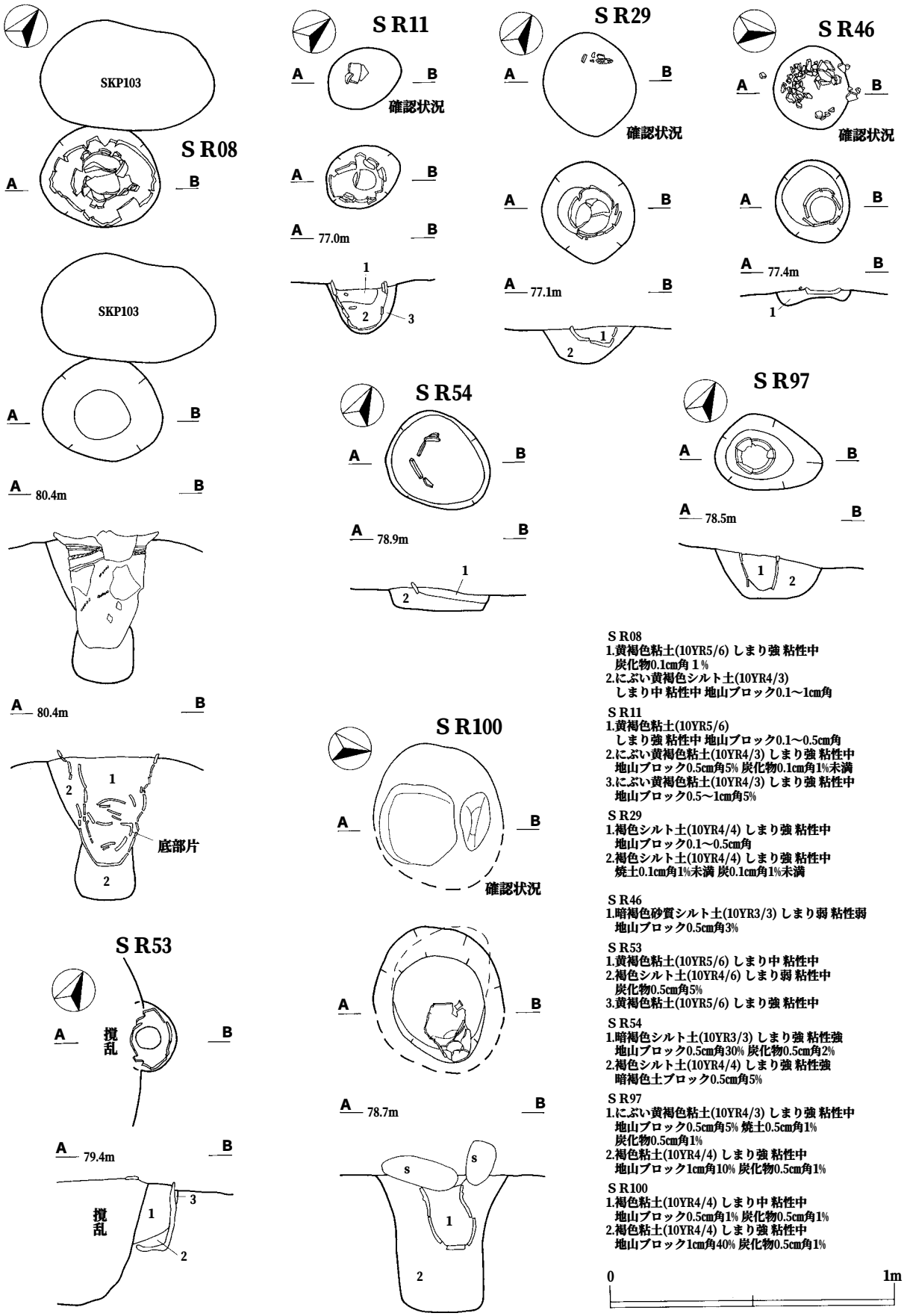
ＳＮ09
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性弱
炭0.5cm角1% 焼土0.1cm1%
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角5% 炭0.1cm角1%
焼土0.1cm角1%未満
上面にわずかに被熱あり

ＳＮ10
1.褐色粘土(7.5YR4/4) しまり強 粘性弱
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 炭0.5cm角1%未満。
上面にわずかに被熱あり

ＳＫ96
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角5%

ＳＩ98
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 炭0.5cm角3%
Pit1(深さ:27cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角3%
Pit2(深さ:38cm)
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック2cm角20% 炭化物1cm角10% 柱痕
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック0.5cm角40% 炭化物1cm角5% 堀型
Pit3(深さ:60cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角3%
Pit4(深さ:37cm)
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性弱
炭化物0.5cm角15%
Pit5(深さ:25cm)
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック2cm角20% 炭化物1cm角10%
Pit6(深さ:30cm)
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1～5cm角20% 炭化物0.5cm角3%

第８図　竪穴住居跡（ＳＩ61・98）



S R08
1.黄褐色粘土(10YR5/6) しまり強 粘性中
　炭化物0.1cm角 1 %
2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3)
　しまり中 粘性中 地山ブロック0.1～1cm角

S R11
1.黄褐色粘土(10YR5/6)
　しまり強 粘性中 地山ブロック0.1～0.5cm角
2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
　地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.1cm角1%未満
3.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
　地山ブロック0.5～1cm角5%

S R29
1.褐色シルト土(10YR4/4) しまり強 粘性中
　地山ブロック0.1～0.5cm角
2.褐色シルト土(10YR4/4) しまり強 粘性中
　焼土0.1cm角1%未満 炭0.1cm角1%未満

S R46
1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱
　地山ブロック0.5cm角3%

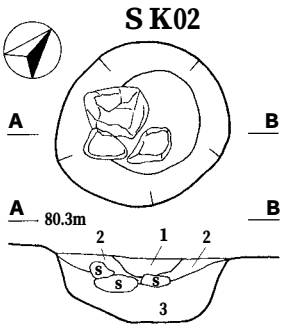
S R53
1.黄褐色粘土(10YR5/6) しまり中 粘性中
2.褐色シルト土(10YR4/6) しまり弱 粘性中
　炭化物0.5cm角5%
3.黄褐色粘土(10YR5/6) しまり強 粘性中

S R54
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強
　地山ブロック0.5cm角30% 炭化物0.5cm角2%
2.褐色シルト土(10YR4/4) しまり強 粘性強
　暗褐色土ブロック0.5cm角5%

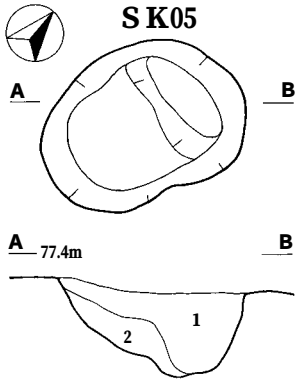
S R97
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
　地山ブロック0.5cm角5% 焼土0.5cm角1%
　炭化物0.5cm角1%
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
　地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%

S R100
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり中 粘性中
　地山ブロック0.5cm角1% 炭化物0.5cm角1%
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
　地山ブロック1cm角40% 炭化物0.5cm角1%

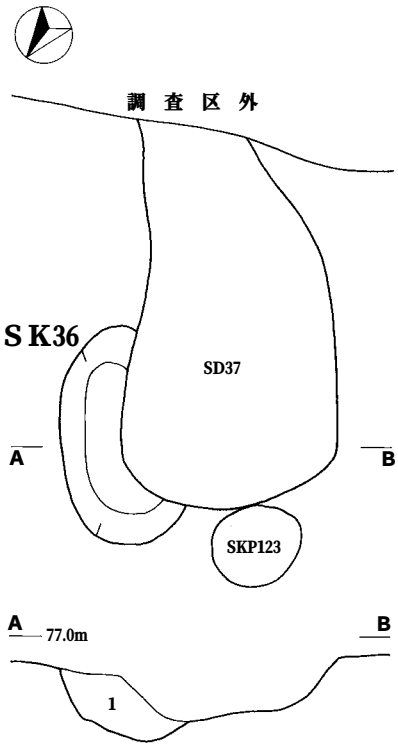
第９図　土器埋設遺構（S R08・11・29・46・53・54・97・100）



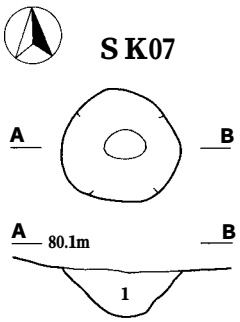
ＳＫ02
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性弱
　焼土0.1cm角1%未満 炭化物0.1cm角1%未満
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり中 粘性中
　地山ブロック0.1～0.5cm20%
3.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性弱
　炭化物0.5～1cm角1% 地山ブロック0.5cm角1%



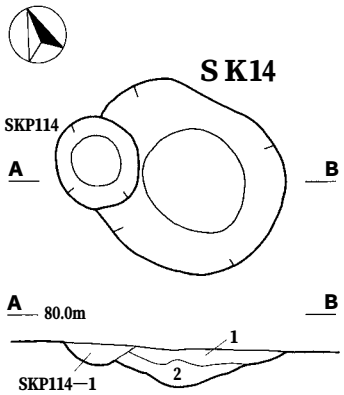
ＳＫ05
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
　地山ブロック0.5～1cm角40% 炭化物0.5cm角1%
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
　地山ブロック0.5～1cm角50% 炭化物0.5cm角1%



ＳＫ36
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強
　地山ブロック0.5cm角10%
　グライ化ブロック0.5cm角10%

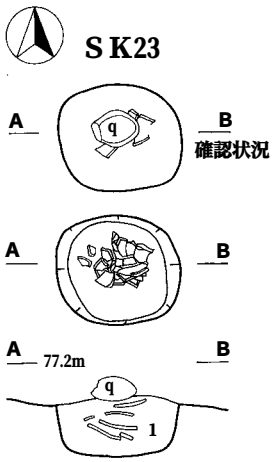


ＳＫ07
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり中 粘性中
　地山ブロック0.5～1cm角30%
　黒褐色土ブロック0.5～1cm角10%

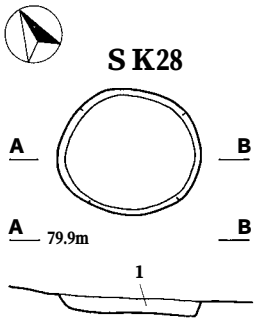


ＳＫ14
1.暗褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性中
　地山ブロック0.1～0.5cm角5%
2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3)
　しまり強 粘性中
　地山ブロック0.1～0.5cm角20%
　焼土0.1cm角1%未満 炭化物0.1cm角1%未満

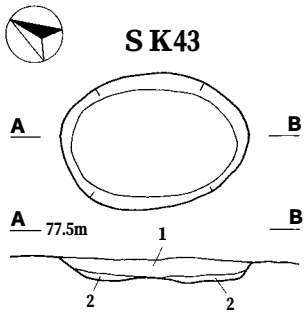
ＳＫＰ114
1.暗褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性中
　地山ブロック0.1～0.5cm角5%



ＳＲ23
1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強
　炭化物0.1cm角1%



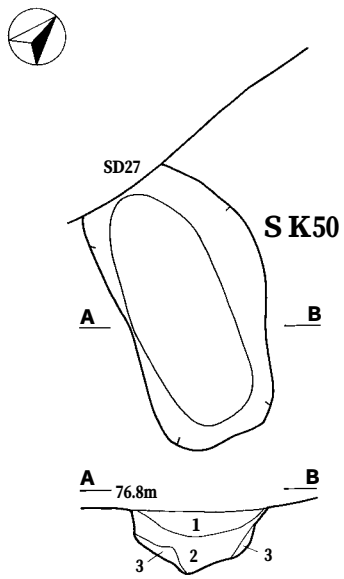
ＳＫ28
1.にぶい黄褐色粘土(10YR5/4) しまり強 粘性中
　炭化物0.5cm角以下1%未満



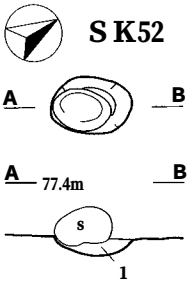
ＳＫ43
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中
　炭化物0.1cm角1%未満
2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中
　地山ブロック粉状～1cm40%
　炭化物0.1cm角1%未満

0　1m　　0　2m

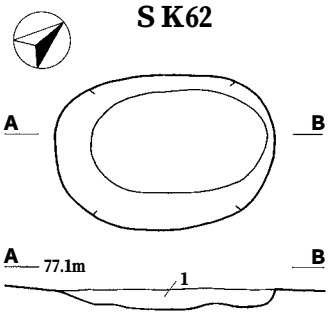
第10図　土坑（ＳＫ02・05・07・14・23・28・36・43）



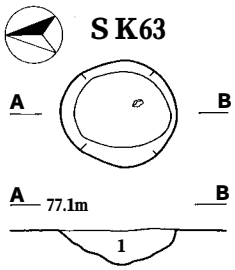
ＳK50
1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱
炭化物0.5cm角5% 地山ブロック0.5cm角2%
2.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱
炭化物0.5cm角5% 地山ブロック0.5cm角10%
3.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱
炭化物0.5cm角5% 地山ブロック0.5cm角25%



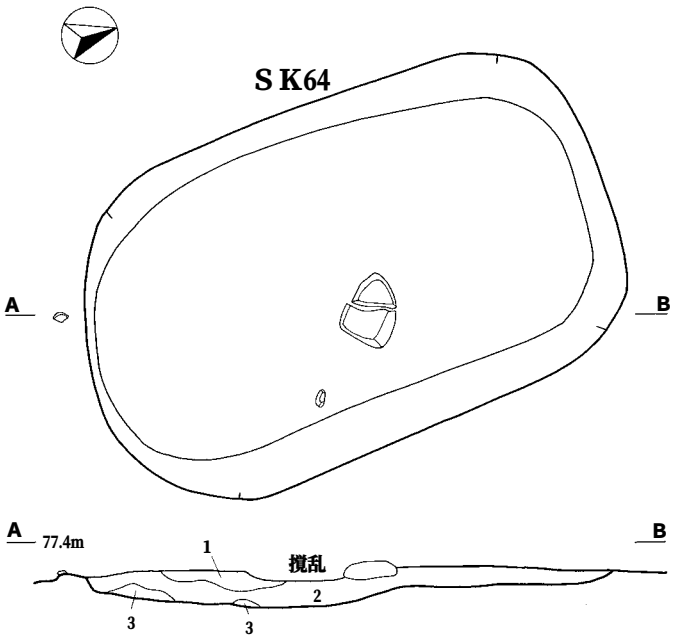
ＳK52
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性強
地山ブロック1cm角5%



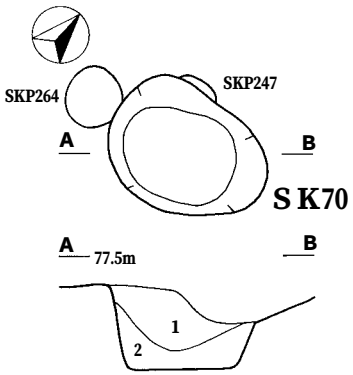
ＳK62
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性中
地山ブロック0.1cm角20%



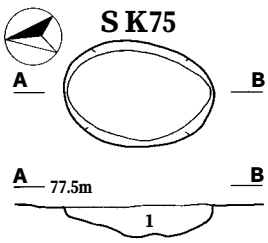
ＳK63
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角1%



ＳK64
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性弱
地山ブロック0.1cm角5% 炭化物0.5cm角1%
2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック0.5cm角ブロック状30%
炭化物0.5cm角1%
3.にぶい黄褐色粘土(10YR5/4) しまり強 粘性弱
地山ブロック1cm角30% 炭化物0.5cm角1%未満

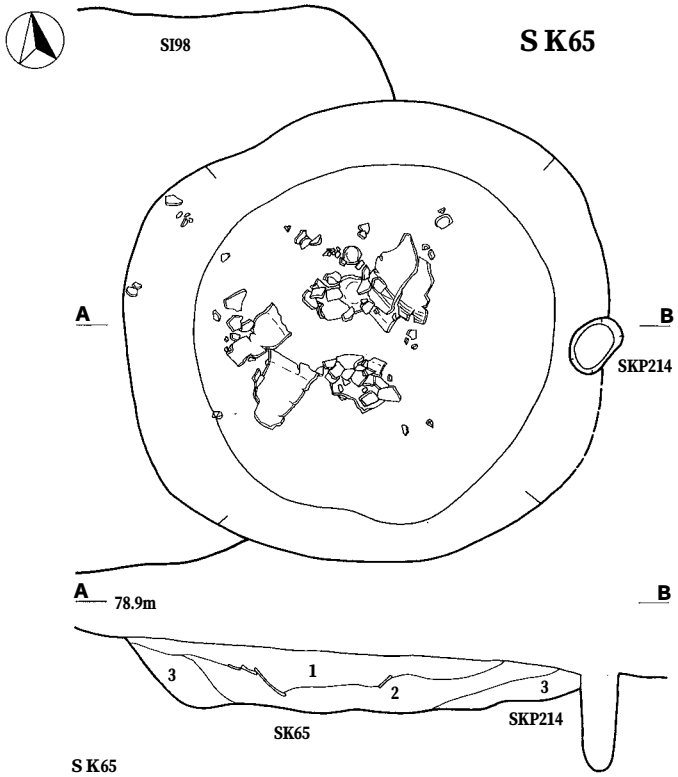


ＳK70
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5～1cm角5%
焼土0.5～1cm角1%
2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 焼土1～3cm角10%
炭化物1～2cm角10%

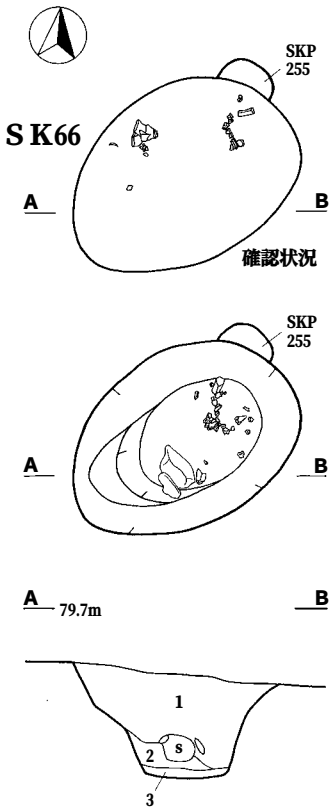


ＳK75
1.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1～2cm角10% 炭化物0.5cm角1%

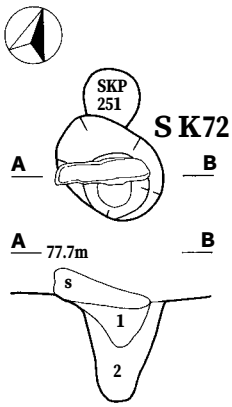
第11図　土坑（ＳK50・52・62・63・64・70・75）



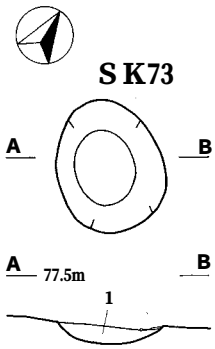
ＳＫ65
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
　炭化物0.5cm角1%
2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
　地山ブロック1cm角5% 炭化物0.5～1cm角5%
　焼土1cm角1%
3.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強
　地山ブロック2～3cm角30% 炭化物0.5cm角1%



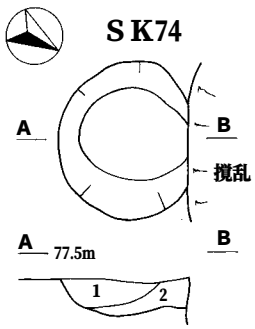
ＳＫ66
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
　地山ブロック2cm角3% 炭化物0.5cm角3%
　焼土0.5cm角1%
2.明黄褐色粘土(10YR6/6) しまり強 粘性中
　炭化物0.5cm角1%未満
3.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
　地山ブロック2cm角20%



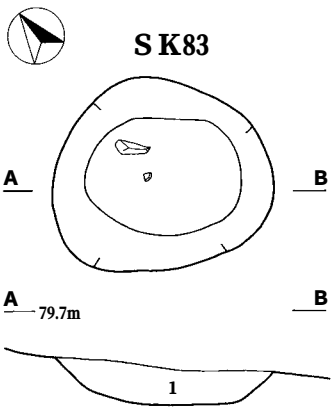
ＳＫ72
1.黒褐色シルト土(2.5YR3/2) しまり弱 粘性弱
　地山ブロック2～3cm角30%
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強
　地山ブロック2cm角以下10% 炭化物0.5cm角3%



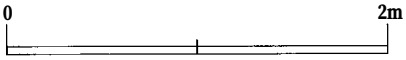
ＳＫ73
1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3)
　しまり強 粘性中 地山ブロック0.5～2cm角10%
　炭化物0.5cm角1%



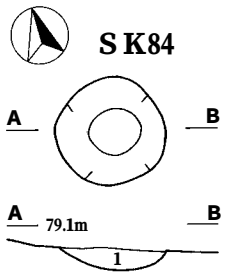
ＳＫ74
1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり弱 粘性強
　地山ブロック1cm角7% 黒色土1cm角5%
2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強
　地山ブロック1～3cm角30%



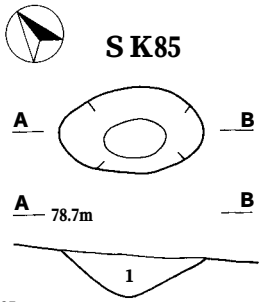
ＳＫ83
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
　地山ブロック1cm角5% 炭化物0.5cm角1%未満



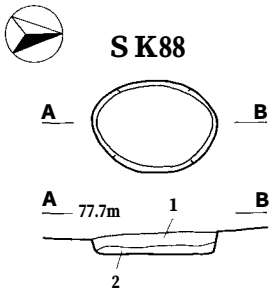
第12図　土坑（ＳＫ65・66・72・73・74・83）



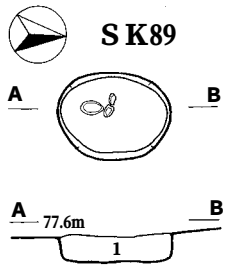
ＳＫ84
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性弱
地山ブロック0.1cm角10%



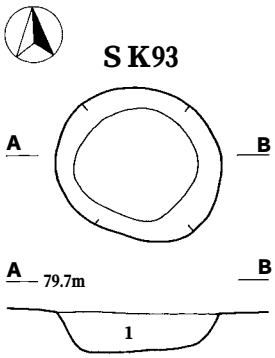
ＳＫ85
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性中
地山ブロック1cm角10%



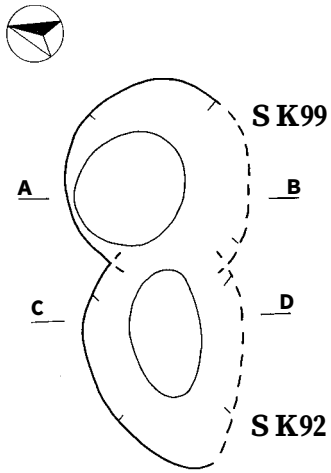
ＳＫ88
1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強
暗褐色土0.1cm角5%　炭化物0.5cm角2%
2.褐色粘土(10YR4/6) しまり強 粘性強

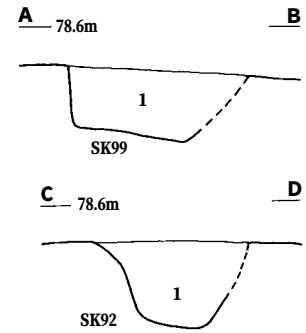


ＳＫ89
1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強
地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角1%



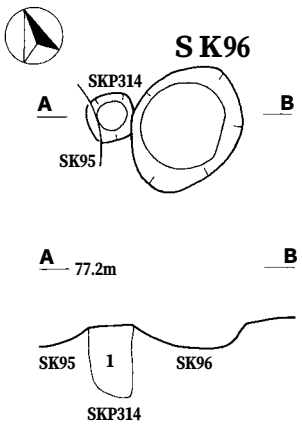
ＳＫ93
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%





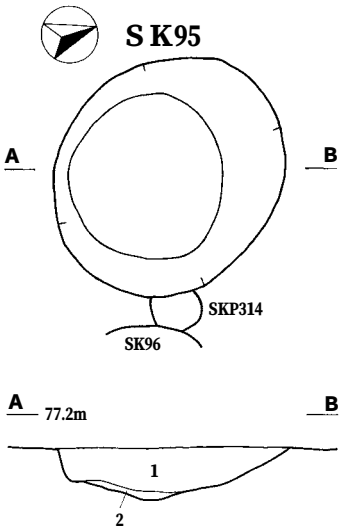
ＳＫ92
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角5% 焼土ブロック0.5cm角1%
炭化物0.5cm角1%

ＳＫ99
1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角5%



ＳＫ96
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角5%

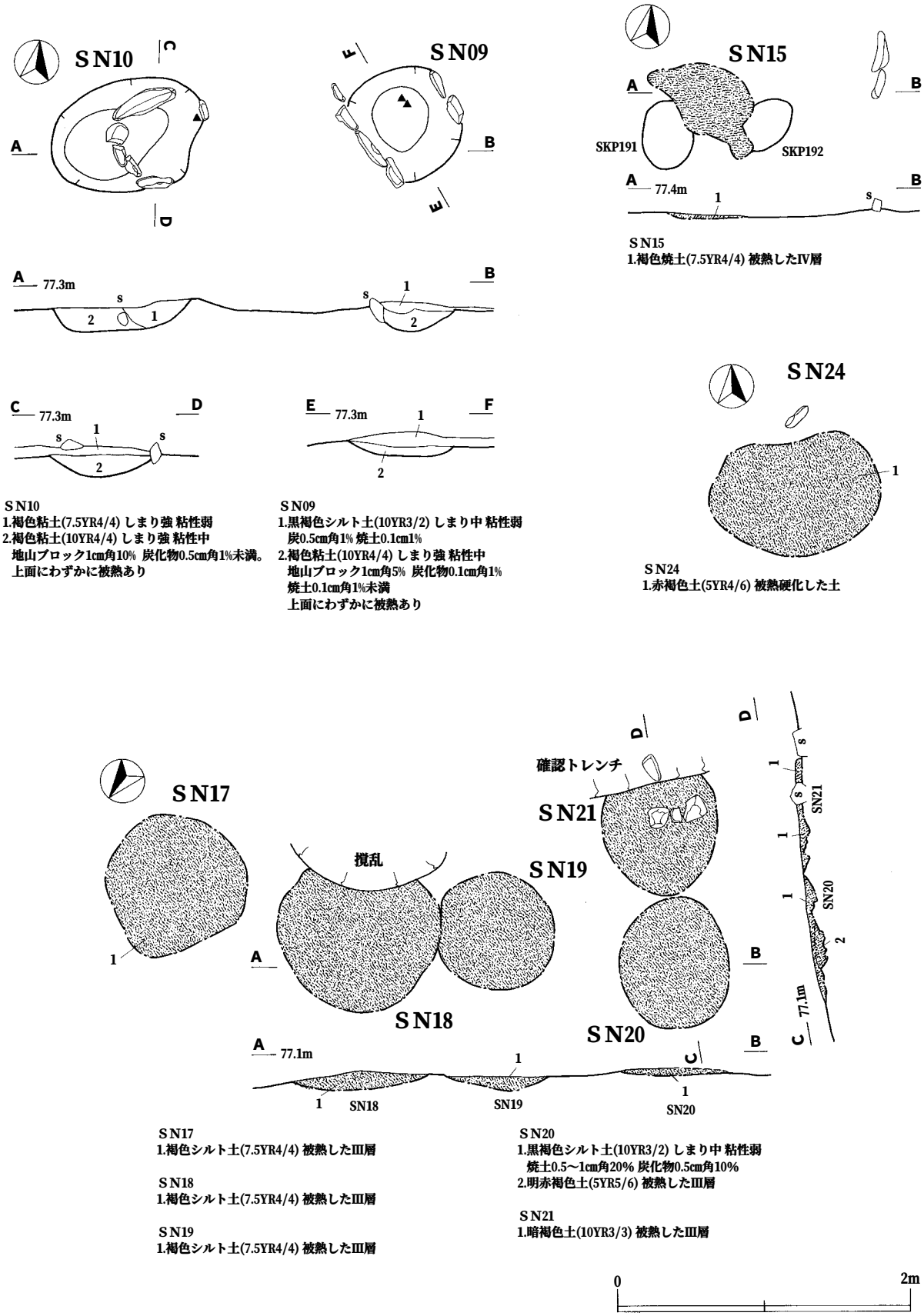
ＳＫＰ314
1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角5%



ＳＫ95
1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性弱
地山ブロック0.5cm角15% 炭化物0.5cm角7%
2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3)
しまり強 粘性中 暗褐色土1cm角20%

0　2m

第13図　土坑（ＳＫ84・85・88・89・92・93・95・96・99）



SN10
1.褐色粘土(7.5YR4/4) しまり強 粘性弱
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%未満。
上面にわずかに被熱あり

SN09
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性弱
炭0.5cm角1% 焼土0.1cm1%
2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中
地山ブロック1cm角5% 炭化物0.1cm角1%
焼土0.1cm角1%未満
上面にわずかに被熱あり

SN15
1.褐色焼土(7.5YR4/4) 被熱したIV層

SN24
1.赤褐色土(5YR4/6) 被熱硬化した土

SN17
1.褐色シルト土(7.5YR4/4) 被熱したIII層

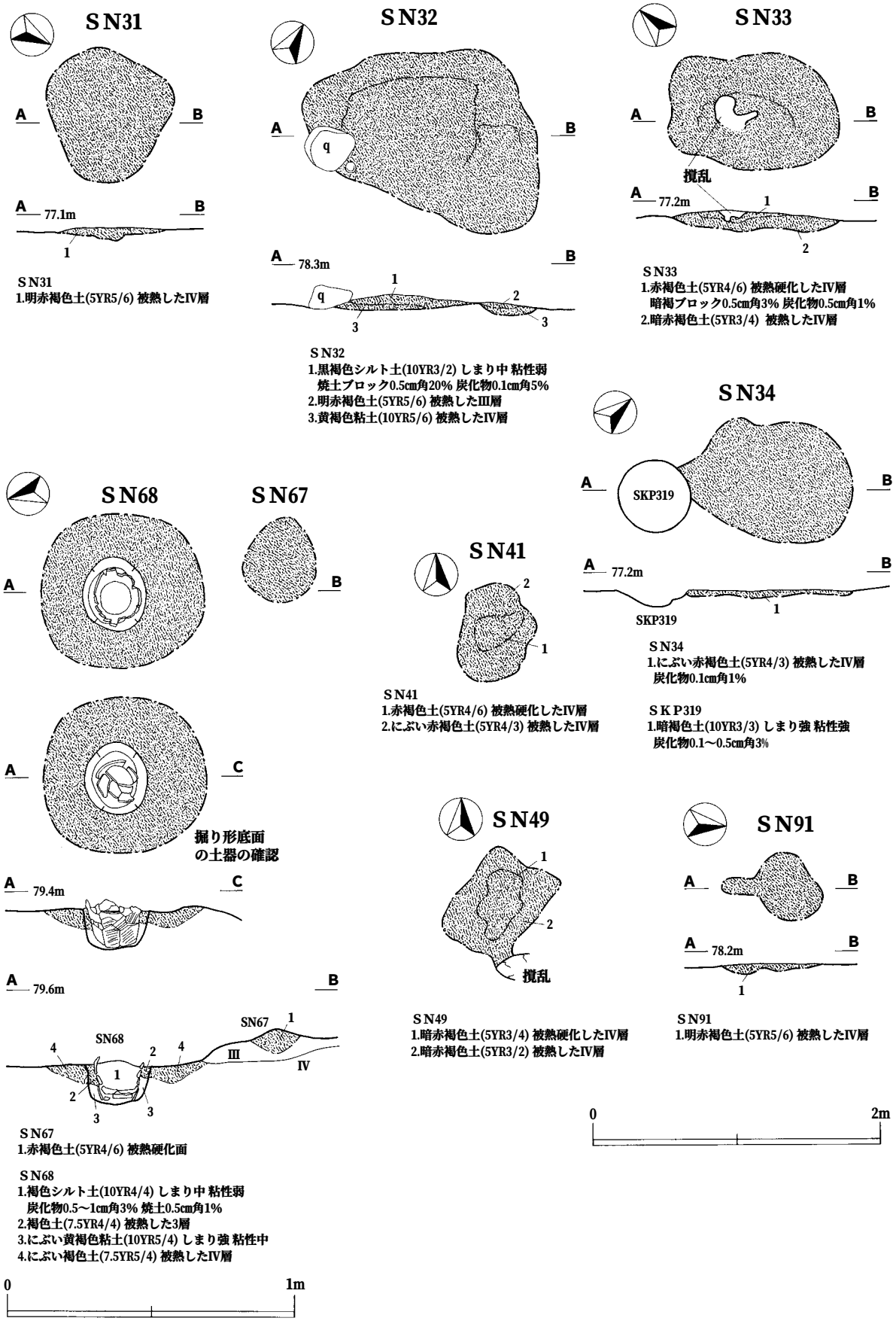
SN18
1.褐色シルト土(7.5YR4/4) 被熱したIII層

SN19
1.褐色シルト土(7.5YR4/4) 被熱したIII層

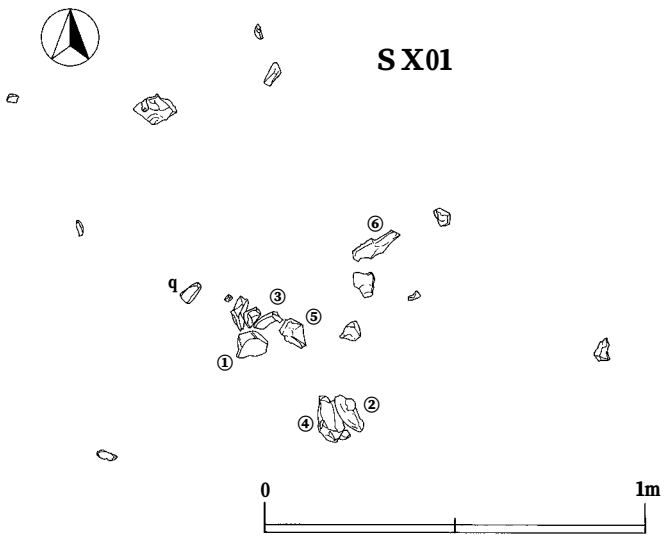
SN20
1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性弱
焼土0.5～1cm角20% 炭化物0.5cm角10%
2.明赤褐色土(5YR5/6) 被熱したIII層

SN21
1.暗褐色土(10YR3/3) 被熱したIII層

第14図　焼土遺構（SN09・10・15・17・18・19・20・21・24）



第15図　焼土遺構（ＳＮ31・32・33・34・41・49・67・68・91）



第16図　石器集中遺構（ＳＸ01）

26cm、短軸22cm、確認面から底面までの深さは14cmである。縄文土器43は正位で埋設されており、埋設された土器の下からは、43とは別個体の土器の破片44が内面を上に向けた状態で出土した。

43は深鉢形土器で、口縁部から胴部半ばまで欠損しており、器面は摩耗している。胴部の破片には、ＬＲ原体の横位回転による縄文と横位の沈線が施されている。胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成も良好であり、色調は明黄褐色である。44は深鉢形土器の胴部である。周縁が打ち欠かれ、43の底面の形に合わせて直径約13cmの円形に整えられている。器面にはＬＲ縄文が施され、胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成も良好で、色調は明黄褐色である。

遺構断面の土層は４層に分層される。１層は土器内の覆土で、Ⅲ層に由来する褐色土で、炭化物と焼土が混入している。２層は３層が被熱して赤化した部分、３層は掘り形の覆土で、Ⅲ層に由来するにぶい黄褐色土で、４層はⅣ層が被熱により焼土化した部分である。

本遺構は土器埋設炉である。周辺の精査では柱穴や竪穴住居の壁は検出されなかったが、ＳＩ03・ＳＩ40が土器埋設炉を伴うため、住居に伴う炉と考えられる。時期は埋設されていた土器から縄文時代中期前半と判断される。

ＳＮ91（第15図）

ＬＳ46グリッドのⅣ層上面で検出された。径約70cmの範囲が被熱しており、被熱面は平坦で軟らかく、明赤褐色である。本遺構の時期は、縄文時代と判断される。

５　石器集中遺構

ＳＸ01（第16・30・31・32図、図版４－５、８－２、９－１・２）

ＬM43グリッドのⅢ層上部で、直径約150cmの範囲に、石篦１点、剥片22点が集中して出土した。

石器及び剥片の素材はすべて頁岩である。石篦18は撥形で刃部は丸く、表裏全面に二次加工が施されている。剥片は、22点のうち６点が接合した。接合した剥片20～25（接合状態19）は、作業面は同一のまま、打面を変更しながら剥片20→25の順に剥離されており、24と25の間に剥離された剥片は出土していない。石篦、接合した剥片、接合しなかった剥片の16点中７点は、剥離面の色調が黒色で風

化部分はやや灰色がかっていること、剥離面の風化度などが類似しており、同一母岩の可能性がある。先に剥離された剥片21が後に剥離された剥片23の上から出土しており、剥離を行った場所から廃棄のために動かされたと考えられる。

本遺構の時期は、出土した遺物から、縄文時代と判断される。

６　集石遺構

集石遺構３基は、遺跡南側の丘陵地縁辺部に位置する。そのため周辺の地形は、全体に丘陵地内部よりも急角度で南東方向へ傾斜している。

ＳＱ12（第17図、図版４－６）

ＬＫ・ＬＬ39・40のⅡ層下位からⅢ層上面にかけて、礫が集中して出土した。礫の集中部分の中央が、果樹の植樹により撹乱を受けている。集石の下に土坑などの遺構はなかった。礫は約４ｍの範囲に集中して出土し、重なっている部分がある。拳大から人頭大まで300個以上が出土し、地山の下位に堆積している砂礫層に由来すると考えられる。

本遺構の時期は、検出層位から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＱ51（第18・34・35図、図版９－３）

ＬＭ～ＬＯ36～38グリッドのⅢ層上面で、礫の分布が確認された。礫の下からＳＤ38が検出されている。礫は径約10m以上の範囲に分布しており、特にＬＮ36グリッドの北側からＬＮ37グリッドの南側までの径約３ｍの範囲にやや多い。拳大から人頭大まで約150個が出土し、地山の下位に堆積している砂礫層に由来すると考えられる。半円状扁平打製石器40と、台石42が出土している。40は、扁平な楕円形の礫の、長辺１辺を打ち欠いており、打ち欠かれた部分に磨り面がある。反対側の長辺の一部には敲打痕がある。42は人頭大の扁平な礫であり、表面に線条痕がある。

本遺構の時期は、検出層位から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＱ55（第17図）

ＬＬ38のⅢ層上面で、礫が集中して出土した。東側でＳＤ30と重複しているが、新旧関係は不明である。集石の下には土坑などの遺構はなかった。礫は約2.4mの範囲で、集中して出土している。拳大の礫が約50個出土し、地山の下位に堆積している砂礫層に由来すると考えられる。

本遺構の時期は、検出層位から縄文時代より新しいと判断される。

７　溝状遺構

溝状遺構８基のうちＳＤ27・30・37～39は、遺跡南東の丘陵地縁辺部に位置しており、周辺地形は丘陵地内部よりも急角度に南東方向へ向かって傾斜している。ＳＤ80～82は丘陵地内部の平坦部分に位置している。

ＳＤ27（第19・30図、図版４－７）

ＬＯ・ＬＰ35～38グリッドのⅢ層上面で検出された。ＳＫ50・ＳＫＰ135・155と重複し、ＳＫ50・ＳＫＰ155より新しく、ＳＫＰ135より古い。南西側は調査区外へ延びており、北東側は倒木痕によって撹乱を受けている。ＬＰ36グリッドに、植樹によって撹乱を受けている部分がある。

南西から北東方向に弧を描いて延びており、長さは13m以上である。南西側では幅約５ｍ、確認面

から底面までの深さは約60cmで、北東へ行くにつれて狭く浅くなり、北端は幅約80cm、確認面から底面までの深さは約30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。北側の底面から柱穴14基が検出され、規模は直径約40cm、溝の底面から柱穴底面までの深さは約10cmで、柱穴底面は固くしまってグライ化している。柱穴同士で重複しているものがあり、建て替えが行われたと判断される。

覆土は７層に分層される。１～３層は黒褐色土を主体とし、地山ブロックが混入している。２層は地山ブロックの混入量が多く、３層はグライ化した地山ブロックが混入し、底面近くでは筋状に酸化鉄が見られる。覆土中から、石鏃15・剥片が出土した。

石器の素材はいずれも頁岩である。15は、凸基有茎鏃の未成品と考えられ、素材剥片の側縁部に二次加工を施している。

本遺構は、柵もしくは塀を巡らせた痕跡と考えられ、柱穴が重複していることから建て替えられたと考えられる。時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＤ30（第17図）

ＬＬ38・39グリッドのⅢ層上面で検出された。ＳＱ51と重複しているが、新旧関係は不明である。南東側は調査区外へ延びており、北西側は浅くなって不明瞭になっている。また、全体に上面から撹乱を受けている。北西・南東方向へ延びており、長さ3.5m以上、幅約60cm、確認面から底面までの深さは16cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。北西側の底面で５基、溝の延長線上で１基の柱穴が検出された。規模は直径40～50cm、溝の底面もしくは確認面からの深さは６～12cmである。南東側では溝の底面が砂礫層まで達している。覆土は２層に分層された。いずれも黒褐色土で、２層には地山ブロックが混入している。

本遺構は、柵もしくは塀を巡らせた痕跡と考えられる。時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＤ37（第20図）

ＬＭ37・38グリッドのⅢ層上面で検出された。ＳＫ36・ＳＫＰ123と重複しており、ＳＫ36より新しく、ＳＫＰ123より古い。南東側は調査区外に延びる。北西・南東方向に延びており、規模は長さ２m以上、幅1.2m、確認面から底面までの深さは21cmで、底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層に分層され、１層は黒色土を主体としている。２層は暗褐色土を主体としており、一部が褐灰色にグライ化した地山ブロックが多量に混入している。

本遺構の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＤ38（第20図）

ＬＭ・ＬＮ36グリッドのⅢ層上面で検出された。ＳＱ51と重複し、ＳＱ51より古い。南東側は調査区外へ延びており、北西側は浅くなって不明瞭になっている。北西・南東方向に延びており、規模は長さ2.3m以上、幅65cm、確認面から底面までの深さ12cmである。底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。覆土は黒褐色土で、少量の地山ブロックと炭化物が混入する。

本遺構の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＤ39（第19図、図版４－８）

ＬＯ35～37グリッドのⅢ層上面で検出された。南西側は調査区外に位置し、北東側は浅くなっている。南西・北東方向に弧を描いて延びており、長さ９m以上である。南西側では幅300cm、確認面か

ら底面まで深さ48cmだが、北東へ行くに従って狭く浅くなり、北東側では幅約55cm、確認面から底面までの深さ約25cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。北東側の底面から柱穴が１基検出された。直径24cm、溝の底面から柱穴底面までの深さ８cmである。柱穴の底面は丸みがあり、壁は外傾して立ち上がる。南西側では溝の底面が地山下の砂礫層まで達している。覆土は２層に分層され、いずれも黒褐色土を主体とするが、２層は地山ブロックの混入量が多い。柱穴の覆土は２層と同一である。

本遺構の時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

ＳＤ80（第20図）

ＭＢ・ＭＣ48・49グリッドのⅣ層上面で検出されたが、確認面直上まで耕作による撹乱を受けている。北西側は調査区外にあり、南東側は浅くなり、端部は不明瞭になる。

北西・南東方向に延びており、規模は6.5m以上、幅約45cm、確認面から底面までの深さ16cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。底面にはわずかにグライ化している部分がある。覆土は２層に分層される。いずれも黒褐色土を主体としており、１層は２層に比べてややしまりが弱く、２層は地山ブロックが多く混入している。

本遺構の時期は、覆土が黒褐色土を主体とすることから、縄文時代より新しいと判断される。

ＳＤ81（第20図）

ＬＲ～ＭＣ45～48グリッドのⅣ層上面で検出されたが、確認面直上まで耕作による撹乱を受けている。北西側は調査区外へ延びており、ＬＳ41グリッドでは撹乱により部分的に失われており、南東側では浅くなり、端部は不明瞭になる。

北西・南東方向に延びており、規模は長さ24m以上、幅65cm、確認面から底面までの深さは16cmで、断面は半円形である。ＬＱ・ＬＲ44・45の底面から柱穴が12基検出された。柱穴の規模は、直径約30cm、溝の底面から柱穴底面までの深さ約５cmで、柱穴底面は丸みがあってグライ化しており、壁は外傾して立ち上がる。ＬＴ・ＬＡ47・48では柱穴は検出されなかったものの、グライ化している部分がある。覆土は黒褐色土で、地山ブロックと炭化物の混入が見られる。

本遺構は、柵か塀を巡らせた痕跡と考えられる。時期は、覆土が黒褐色土を主体とすることから、縄文時代より新しいと判断される。

ＳＤ82（第20図）

ＬＱ・ＬＲ44・45グリッドのⅣ層上面で検出された。確認面直上まで耕作による撹乱を受けている。北西側と南東側は浅くなっている。北西・南東方向に延びており、長さ４m以上、幅約30cm、確認面からの深さは約５cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。南側の溝の底面から柱穴８基が検出された。柱穴の規模は直径約35cm、確認面からの深さ約10cmで、底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。覆土はグライ化したオリーブ黒色土である。

本遺構は柵か塀を巡らせた痕跡と考えられる。時期は、覆土の状況から縄文時代より新しいと判断される。

８　柱穴様ピット（付図、第27・29・30図、図版５－８、８－１・２）

柱穴様ピット205基は丘陵地内側の平坦面全体に分布する。上面形は円形がほとんどだが楕円形・方形・長方形・不整形もあり、径は最小18cm、最大85cmだが、25～50cmのものが多い。確認面から

底面までの深さは最も浅いもので 3 cm、最も深いもので62cmだが、10～40cmが多い。確認面・断面・底面の観察から柱痕跡が確認できる遺構がある。遺構の時期について、覆土がⅢ層に由来する暗褐色・褐色・にぶい黄褐色土の遺構は縄文時代であると判断され、ＳＫＰ186の 2 層の黄褐色土から出土したクリの炭化材の^{14}C年代測定では、4,500±40年前という結果が得られている。覆土が暗褐色～黒褐色土の遺構は、縄文時代より新しいと判断される。

遺物は、縄文土器45～49・土製品１・石鏃16・17・二次加工のある剥片・剥片が出土した遺構があるが、いずれも覆土中に混入したものである。

縄文土器45はＳＫＰ193から出土した深鉢形土器で、口縁は頂部が二股に分かれる山形状の突起がつき、口唇にはＲ原体による側面圧痕が刻み目状に施される。口縁部には山形状の突起の頂部から垂下する 2 条の隆帯が剥落した痕跡がある。隆帯の間はＲ原体による側面圧痕と、断面が長方形の工具による刺突で充填される。46はＳＫＰ209から出土した深鉢形土器である。底部から開きながら立ち上がり、胴部上半が膨らんで口縁部はほぼ直立し、平縁で折り返されている。口縁部と底部に無文部分があり、胴部には結束羽状縄文が横位に施される。胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成は良好で、色調はにぶい黄褐色である。47はＳＫＰ252から出土した、深鉢形土器の胴部である。半裁竹管で縦位に平行する沈線を描き、縦位の沈線の間に格子状文が施される。胎土は粗く多量の砂粒を含み、焼成は不十分で、器面には細かなひび割れが多い。色調は褐灰色からにぶい黄橙色である。48はＳＫＰ274から出土した深鉢形土器である。胴部は開いて立ち上がり、口縁部はわずかに内湾して開き、口縁は平縁である。口縁部は隆帯によって胴部と区画され、口縁から縦位に垂下する隆帯が施され、隆帯に沿ってＬＲ原体による側面圧痕が施される。隆帯の間には、横位回転によるＬＲ縄文が施され、側面圧痕によって楕円文が描かれる。胴部には結束羽状縄文が縦位に施される。49はＳＫＰ324から出土した深鉢形土器である。底部から開いて立ち上がり、胴部にはＬＲ原体の横位回転による縄文が施される。胎土は砂粒を含むが緻密で、焼成も良好で、色調は橙色である。土製品 1 はＳＫＰ276から出土した筒状土製品で、一端は欠損している。中空でやや反り返っており、欠損していない方の一端の断面形は扁平である。反り返っている内側に、隆帯が縦位に貼り付けられている。胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成は良好で、色調はにぶい黄褐色である。石器の素材は石鏃17が黒曜石で、他はいずれも頁岩である。石鏃16はＳＫＰ324から出土した平基有茎鏃で、両面全体に二次加工を施している。石鏃17はＳＫＰ326から出土した凹基無茎鏃で、両面全体に二次加工を施している。

各々の柱穴様ピットの詳細については付図の柱穴様ピット一覧に記す。

第 3 節　出土遺物

土器・土製品・石器が出土し、ナイフ形石器１点は旧石器時代の、それ以外はすべて縄文時代のものである。遺構内出土遺物については第 2 節で個々の特徴を記述しているが、この節で遺構内で出土したものも含めすべての遺物について分類した。

1　旧石器時代の遺物

ナイフ型石器10はＳＫ65の床面から出土した。10は、縦長剥片の打点側を基部として刃潰し加工が

施される制作方法や、素材が縄文時代の石器より桂化が進んだ頁岩であることから旧石器時代のものと判断した。10の他に旧石器時代のものと判断される石器は出土していない。

2　縄文時代の遺物

（１）縄文土器

縄文土器は、容量18リットルのコンテナに換算して遺構内から16箱、遺構外から５箱出土した。これらは、縄文時代中期前半の円筒上層式と大木式の諸型式の土器である。文様・器形・胎土から、次のとおりに分類した。遺構外で出土した土器はほとんどが小破片であるか摩滅しており、図示できたのは３点のみである。

第Ⅰ群

口縁部は太い隆帯によって胴部と区画されて文様が施され、口唇や隆帯の上には無節か単節の原体による側面圧痕や半裁竹管による刺突が刻み目状に施される土器を一括した。すべて深鉢形土器で、底部から胴部半ばまではやや開き、胴部上半では直立し、口縁部が外反するものが多い。口縁は、平縁か４単位の山形状の突起がつき、山形状の突起の頂部は二又に分かれるものと分かれないものがある。胴部には単節の縄文や結束羽状縄文・綾絡文が原体の横位回転により施される。胎土は砂粒を多く含むが緻密で、焼成は良好である。

１類（７）：口縁部に隆帯とＲ原体をＬ原体で挟んだ３条の原体による波形の側面圧痕が施され、無文部分が広く残される土器である。胎土は多量の砂粒を含むが緻密で、色調は赤褐色である。

２類（４・12・13・18・26・30～33・40・49～51）：隆帯の間がすべて無節か単節の原体による３条の側面圧痕や爪形の側面圧痕で密に充填され、ほとんど無文部分がない土器である。平縁の口縁部や山形状の突起の頂部から２条の隆帯が垂下するものが多い。胎土は多量の砂粒を含むが緻密で、焼成は良好で、色調は赤褐色などで赤みが強いものがほとんどである。

３類（１・２・５・６・20・21・23・29・34・42・45・52）：隆帯の間が無節か単節の原体による側面圧痕と、工具による刺突で充填されているものの、２類に比べてやや疎で無文部分がある土器、もしくは充填される側面圧痕や刺突が省略される土器である。山形状の突起の下に、縦位の隆帯が貼り付けられるものが多い。隆帯の上に刻み目状に施される側面圧痕は、２条１組で施されることがある。胎土は砂粒をやや多く含むが緻密で、色調は橙色やにぶい黄褐色である。

１類は円筒上層ａ式土器、２類は円筒上層ｂ式土器であり、３類は円筒上層ｃ式土器に相当する。

第Ⅱ群

口縁部に細い隆帯や無節か単節の原体による側面圧痕で文様が施される土器を一括した。側面圧痕の代わりに沈線で文様が施されるものもある。深鉢形土器と浅鉢形土器があり、深鉢形土器は主に底部から胴部半ばまでは開き、胴部上半では直立し、口縁部は内湾しながら開く器形である。口縁は平縁か山形状の突起がつき、山形状の突起の頂部は二又に分かれるものと分かれないものがある。浅鉢形土器は底部から胴部まで直線的に開き、口縁部で内湾し、平縁である。深鉢形土器、浅鉢形土器ともに胴部には単節の縄文や結束羽状縄文・綾絡文が縦位に施されるものが多く、口唇は平らに整形されることがある。胎土は少量の砂粒を含むが緻密で、焼成は良好で、色調は明黄褐色などで黄色みが強い。

１類（８・９・15・17・38・39・48）：幅の広い口縁部に、平縁の口縁や山形状の突起の頂部から隆

帯が垂下する土器で、細い隆帯と側面圧痕によって弧状の文様が施されることがある。すべて深鉢形土器で、口縁部と胴部の境が隆帯や側面圧痕によって区画されており、隆帯に沿って側面圧痕が施されることが多い。

２類（３・10・11・27・28・35・37）：幅の狭い口縁部に、横位の細い隆帯とＸ字形もしくはボタン状の貼付を挟む対弧線状の隆帯が貼り付けられる土器である。口縁部の貼付の下には胴部にかけてＹ字形やＸ字形・Ｋ字形の隆帯や側面圧痕が垂下する。隆帯に沿って側面圧痕が施されることが多い。主に浅鉢形土器である。

３類（16・36・43）：隆帯は用いられず、側面圧痕や沈線によって口縁部が胴部と区画され、鋸歯状文が描かれる土器で、すべて深鉢形土器である。

４類（22）：平縁の口縁からＬＲ縄文が施された１条の細い隆帯が垂下する土器である。深鉢形土器で、口縁部はほぼ直立し、口縁部と胴部の境がない。

５類（19・24・41・44・46）：単節の縄文や結束羽状縄文が施されている以外は文様が見られない土器で、すべて深鉢形土器である。

１～３類は大木７ｂ式土器に相当する。

第Ⅲ群（14・47）

半裁竹管によって、連続的な刺突や縦位の平行沈線・格子状文が施される土器である。胎土は粗く多量の砂粒を含み、焼成も不十分である。北陸系の新崎式土器と考えられる。

（２）土製品

筒状土製品（１）：ＳＫＰ276から出土した。

（３）石器

剥片石器・剥片・礫石器が出土し、76点を図示した。

石槍（遺構内：１）

１はＳＩ03から出土し、素材は頁岩である。有茎と考えられるが、基部は欠損している。表裏全面に二次加工が施されている。

石鏃（遺構内：２・７・８・11・15・16・17　遺構外：43～50）

15点が出土し、17・47の素材は黒曜石で、その他はいずれも頁岩である。２・７・８・11・15・43～46は凸基有茎鏃で、側縁部に二次加工が施されるものが多い。16は平基有茎鏃で、表裏全面に二次加工が施されている。50は円基鏃で、側縁部に二次加工が施されている。17・47～49は凹基無茎鏃で、表裏全面に二次加工が施されている。45は基部にアスファルトが付着している。

石錐（遺構内：12　遺構外：51・52）

３点が出土し、素材はいずれも頁岩である。12・51は棒状で、12は表裏全面に二次加工が施されているが、53の裏面は側縁部に二次加工が施され、主要剥離面が大きく残されている。52は表裏全面に二次加工が施されており、下端に錐部がある。

石匙（遺構内：６　遺構外：53・54）

３点が出土し、素材はいずれも頁岩である。６は横型、53・54は縦型で、つまみ部と側縁部に二次加工が施されている。54は素材薄片の打面を残してつまみ部が作られているが、６・53は打面が除去されている。

石箆（遺構内：３・９・18　遺構外：55～66）

14点が出土し、素材はいずれも頁岩で、刃部より基部が狭い撥形（９・18・56・57・61～63）か刃部と基部の幅がほぼ同じ短冊形（３・55・58～60）がある。３・18・55～59は刃部が丸く、表裏ともに全面に二次加工が施され、断面が凸形である。９は表裏全面に二次加工が施されているが、裏面は平坦である。60～63は刃部が直線的で、表面は全面に二次加工が施され断面が凸形だが、裏面は側縁部にのみ二次加工が施されて、主要剥離面が広く残されており平坦である。64～66は欠損しており、全体の形状は不明である。

二次加工のある剥片（遺構内：４・５・13・14　遺構外：67～71）

遺構内から51点、遺構外から52点出土し、11点を図示した。剥片の側縁部に二次加工が施され刃部が作られているが、不定形である。

剥片（遺構内：19～25）

遺構内から860点、遺構外から177点が出土し、素材は４点が黒曜石で、他はいずれも頁岩である。ＳＸ01から出土した20～25は接合した（接合状態19）。

半円状扁平打製石器（遺構内：34・40）

２点が出土した。扁平な楕円形の礫の長辺が表裏両面から打ち欠かれている。40は、打ち欠かれている長辺に磨り面がある。34は表面、40は磨り面の反対側の周縁に敲打痕がある。

磨製石斧（遺構外：72・73）

遺構外から３点が出土し、２点を図示した。72は擦り切り技法によって製作されており、平面形は短冊形で刃部は丸く、片刃である。73の平面形は刃部より基部が狭い撥形で、刃部は丸く片刃であり、刃部・表面・側面に敲打痕がある。

磨石（遺構内：26・29・30・37・38・39）

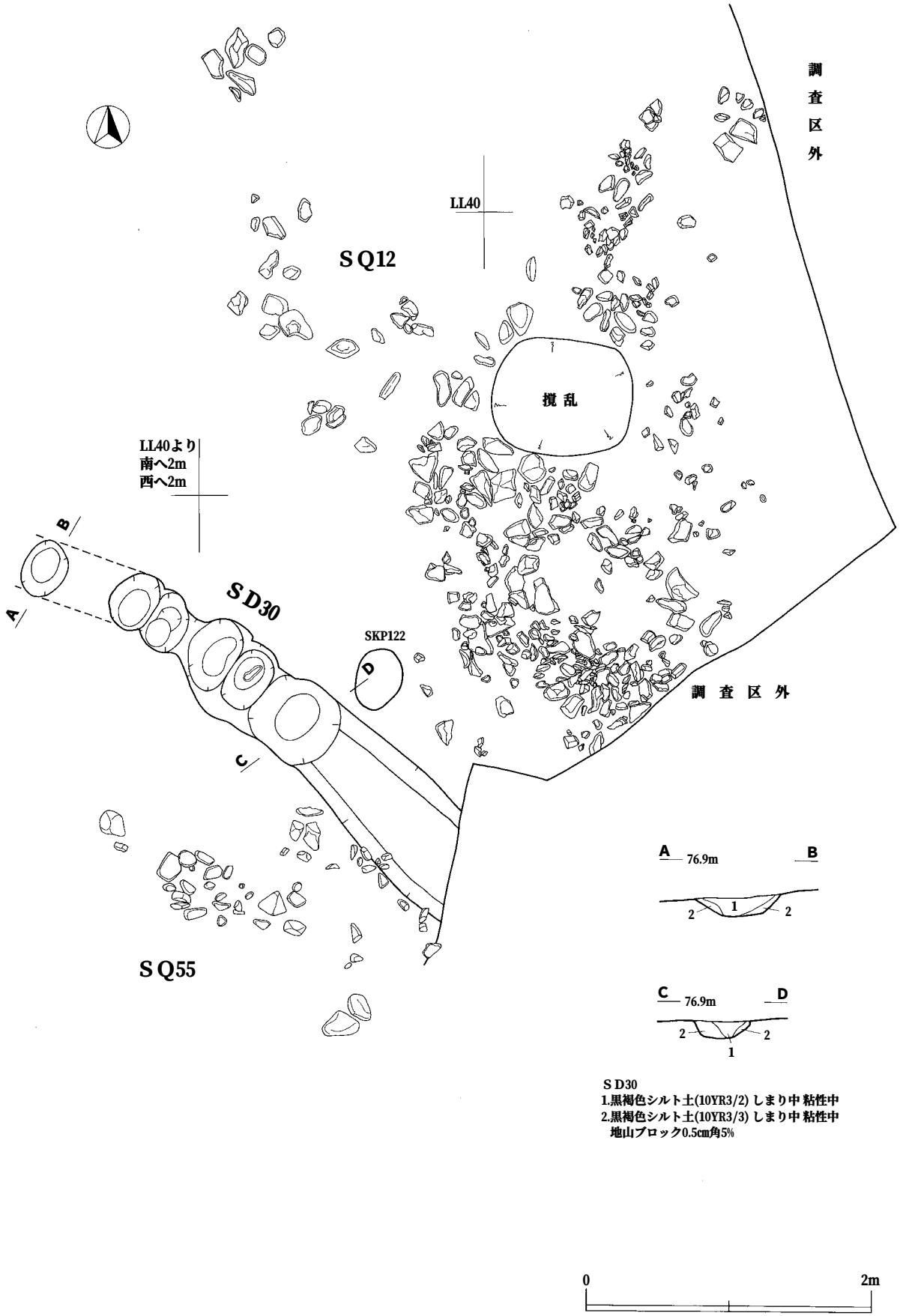
６点が出土した。拳大で扁平な円形もしくは楕円形の礫を使用しており、表面片面もしくは表裏両面に磨り面がある。26・37・39は、表裏面や側面に敲打痕がある。

敲き石（遺構内：27・28・31～33・35・36　遺構外：74～77）

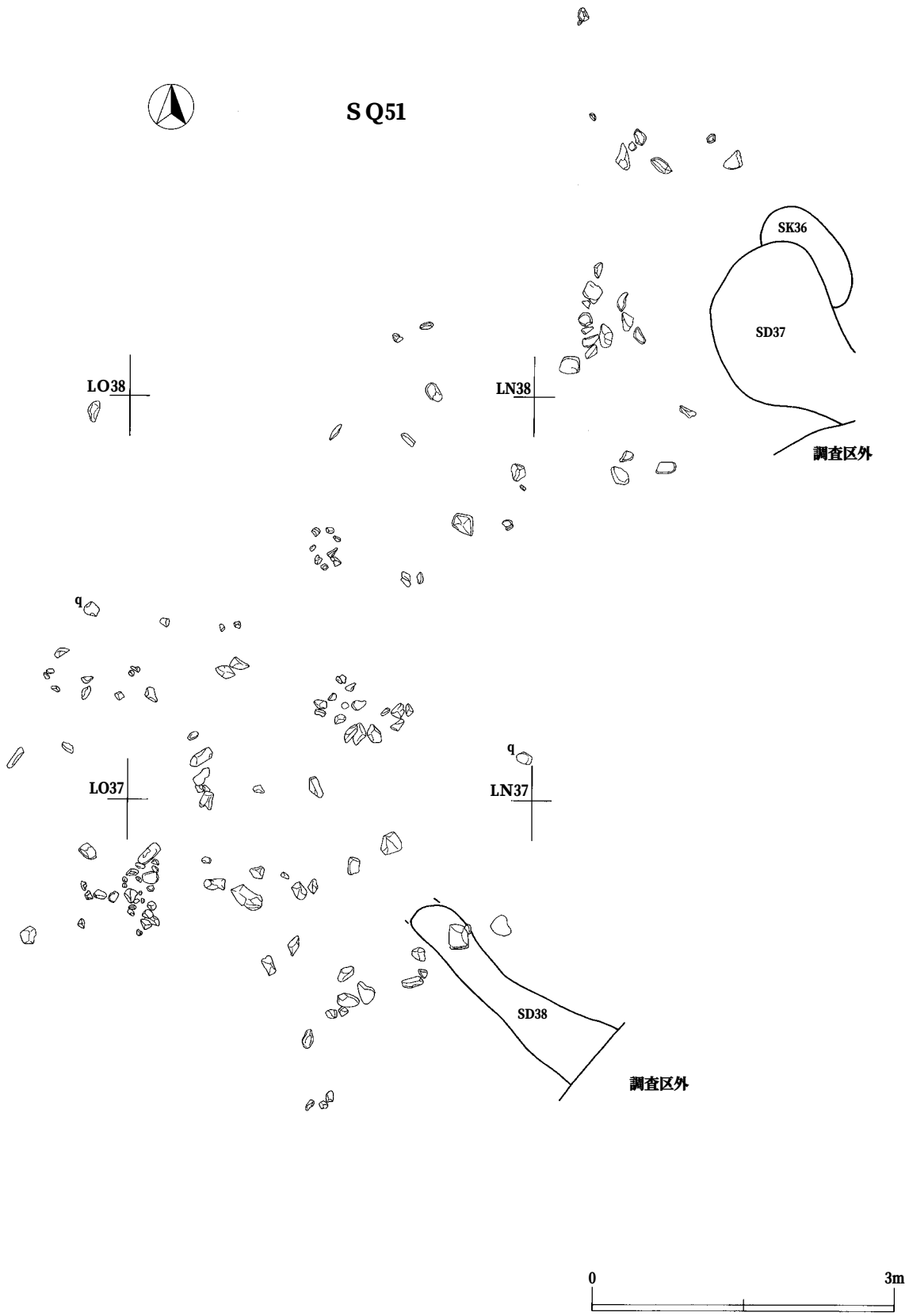
11点が出土した。27・28・31・33・35・74～76は拳大で扁平な楕円形の礫を使用しており、表面・周縁に敲打痕がある。77は棒状の礫で、長軸の両端に敲打痕がある。31・36は頁岩で、周縁に敲打痕があり、敲打による原礫面の剥離が顕著である。

台石（遺構内：41・42）

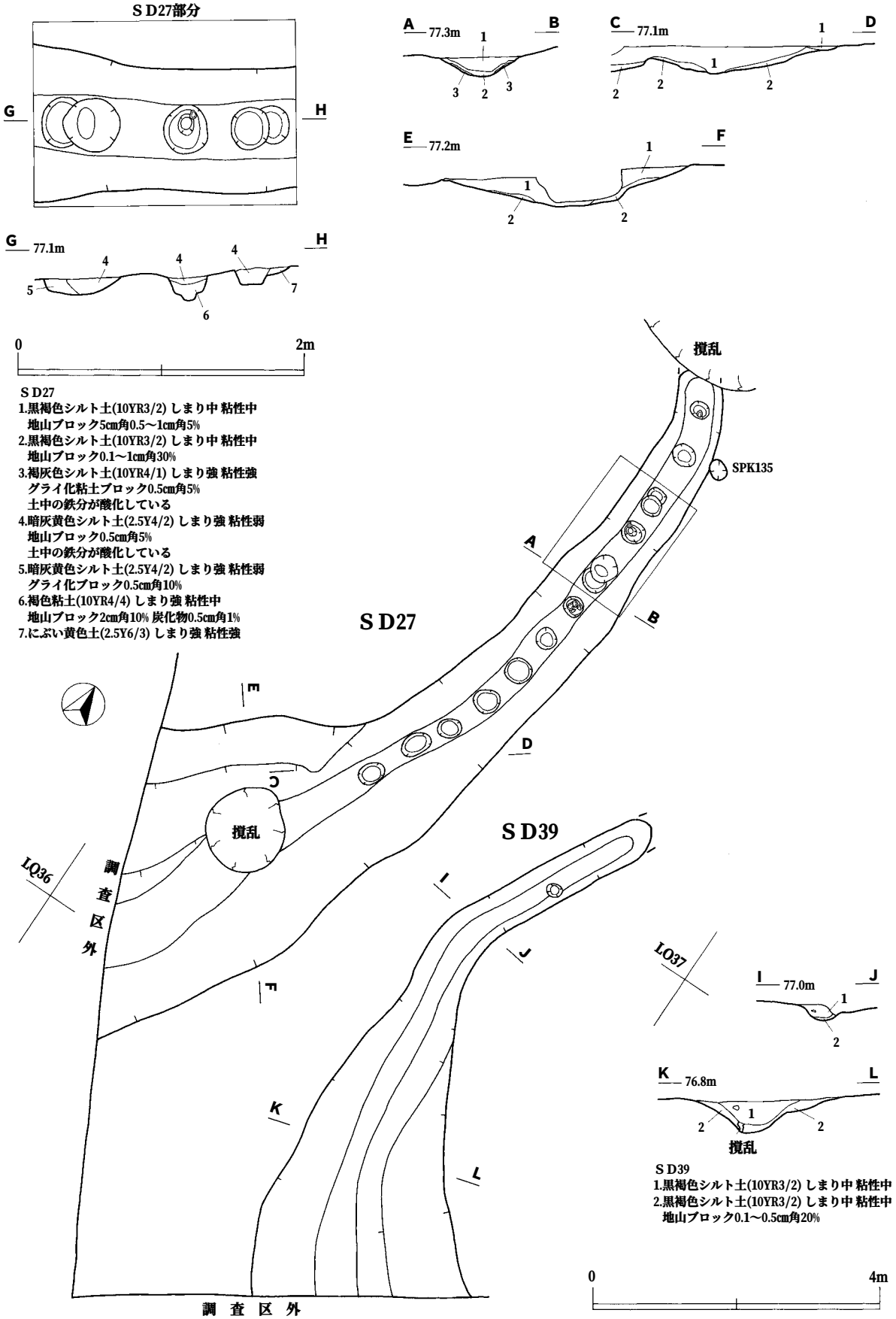
遺構内から６点出土し、２点を図示した。人頭大の扁平な礫で、上面に使用痕がある。４点は磨り面、41は敲打痕、42は線条痕がある。



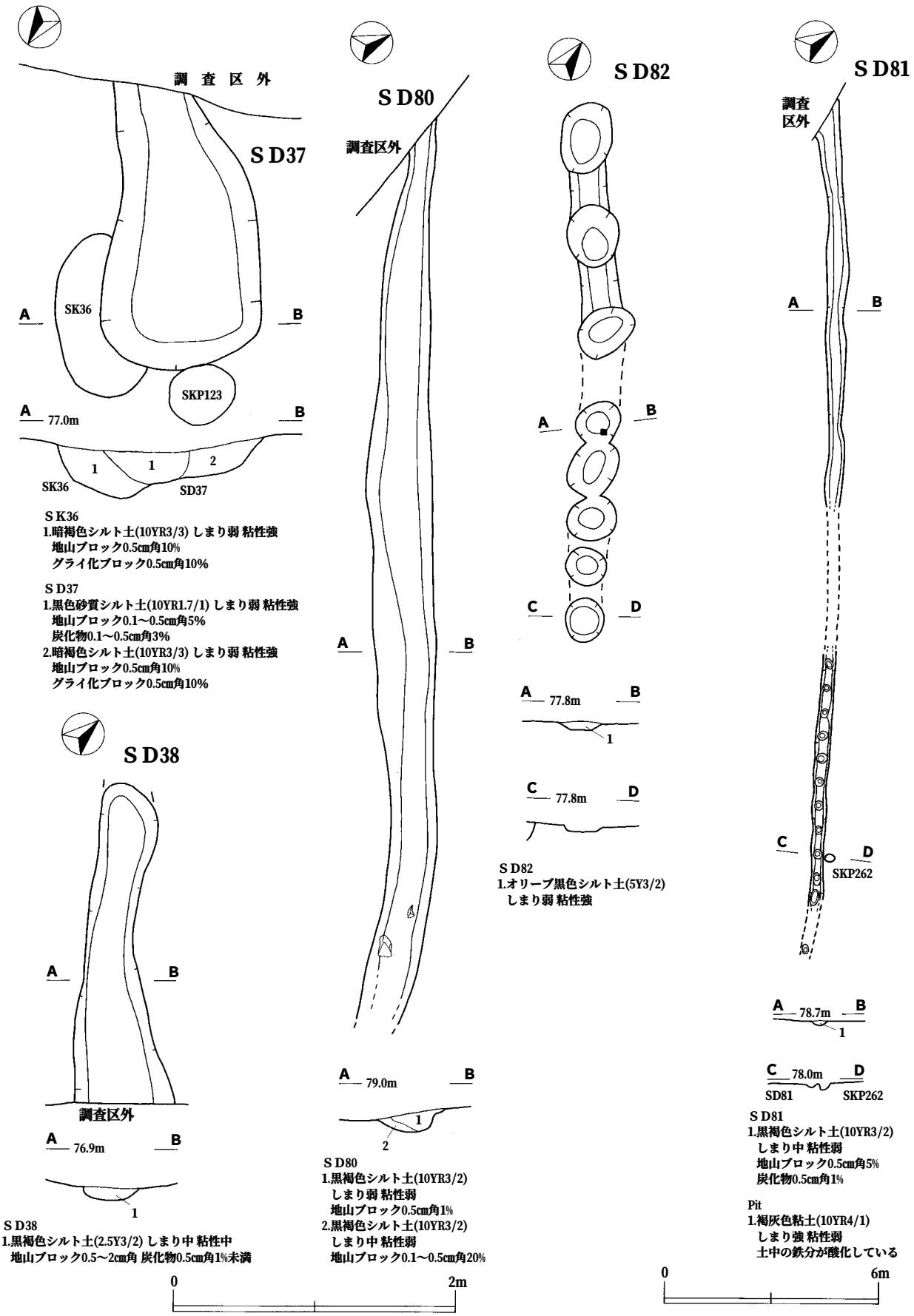
第17図　集石遺構（ＳＱ12・55）・溝状遺構（ＳＤ30）



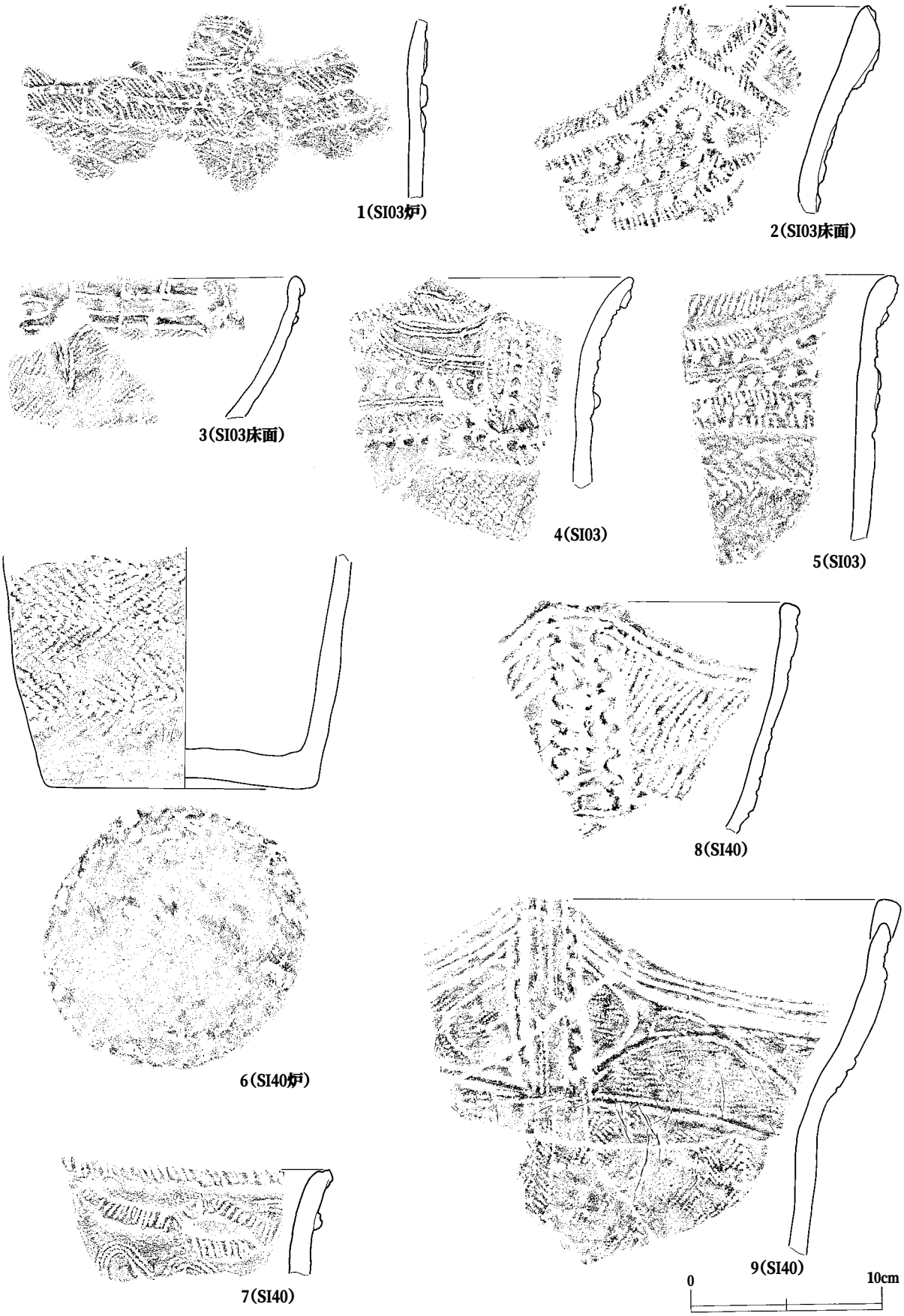
第18図　集石遺構（ＳＱ51）



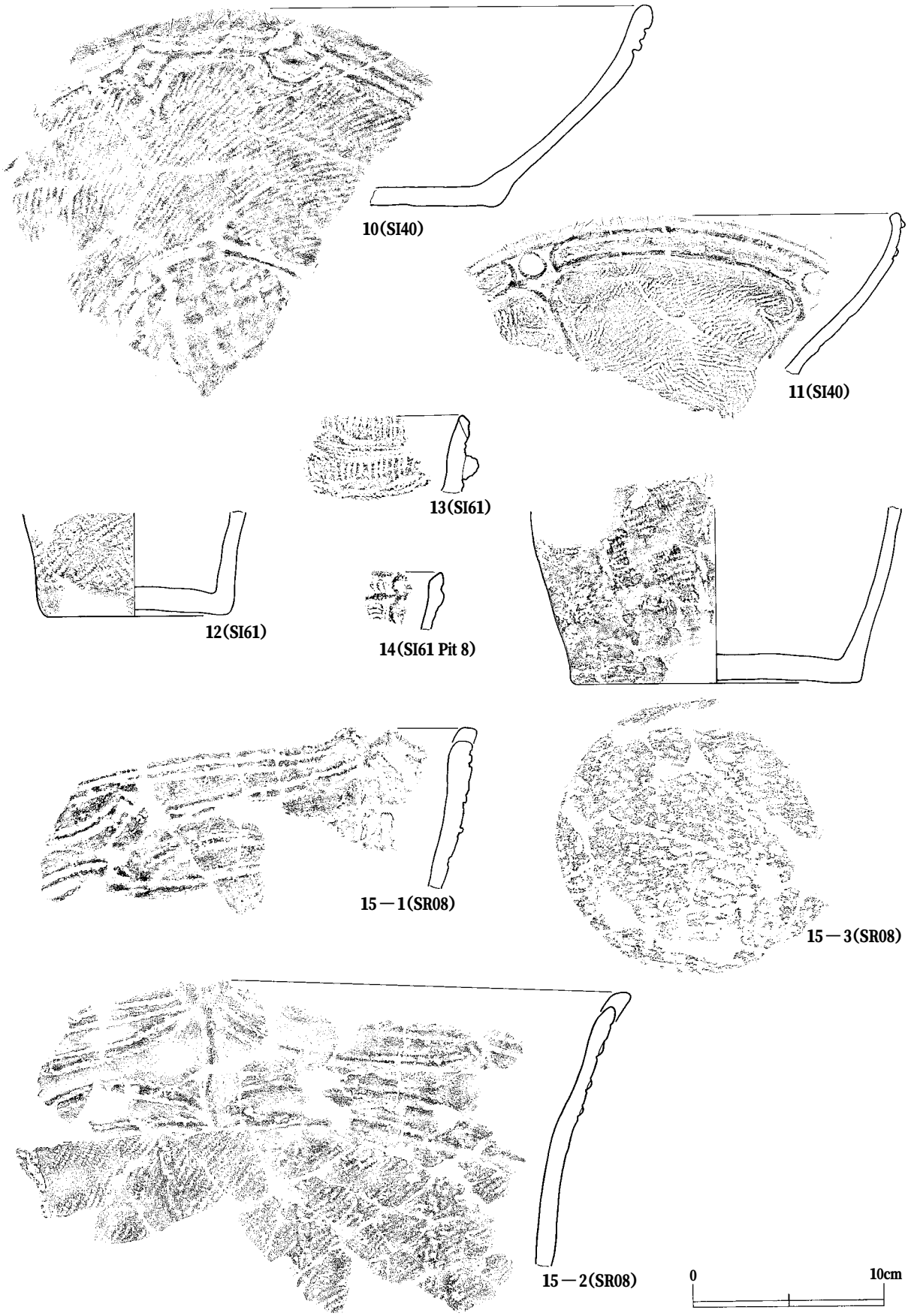
第19図　溝状遺構（ＳＤ27・39）



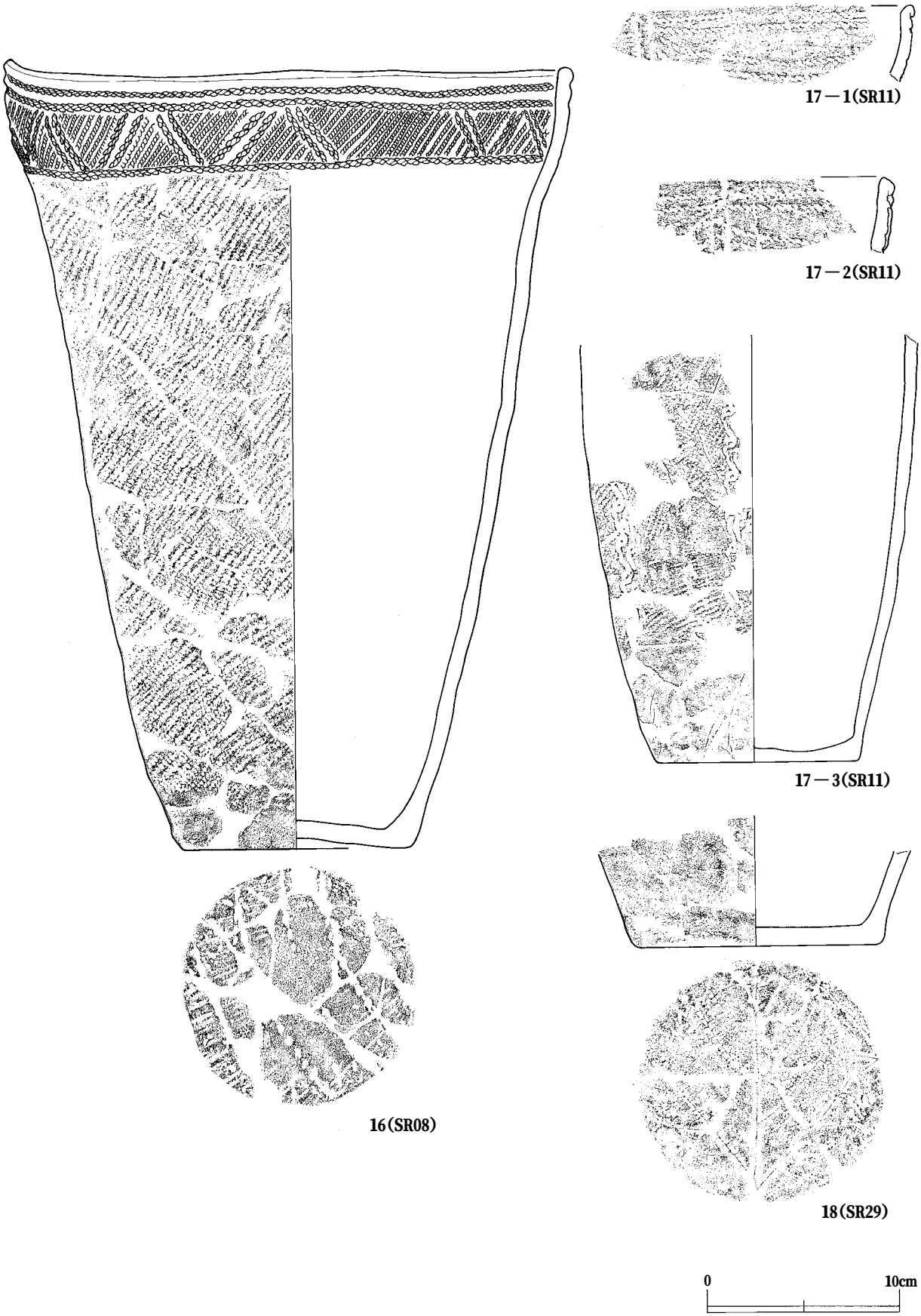
第20図　溝状遺構（ＳＤ37・38・80・81・82）



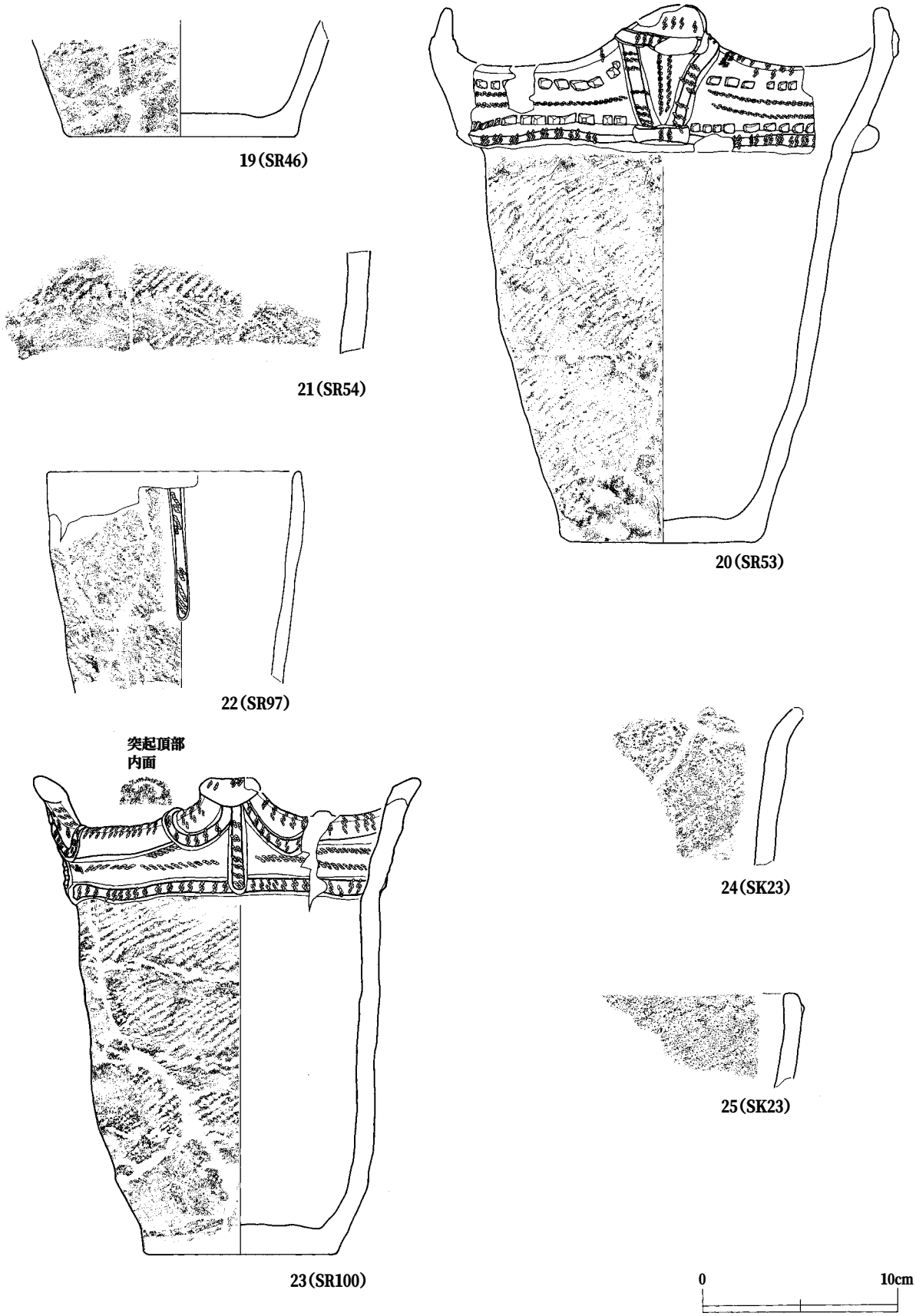
第21図　遺構内出土土器（１）



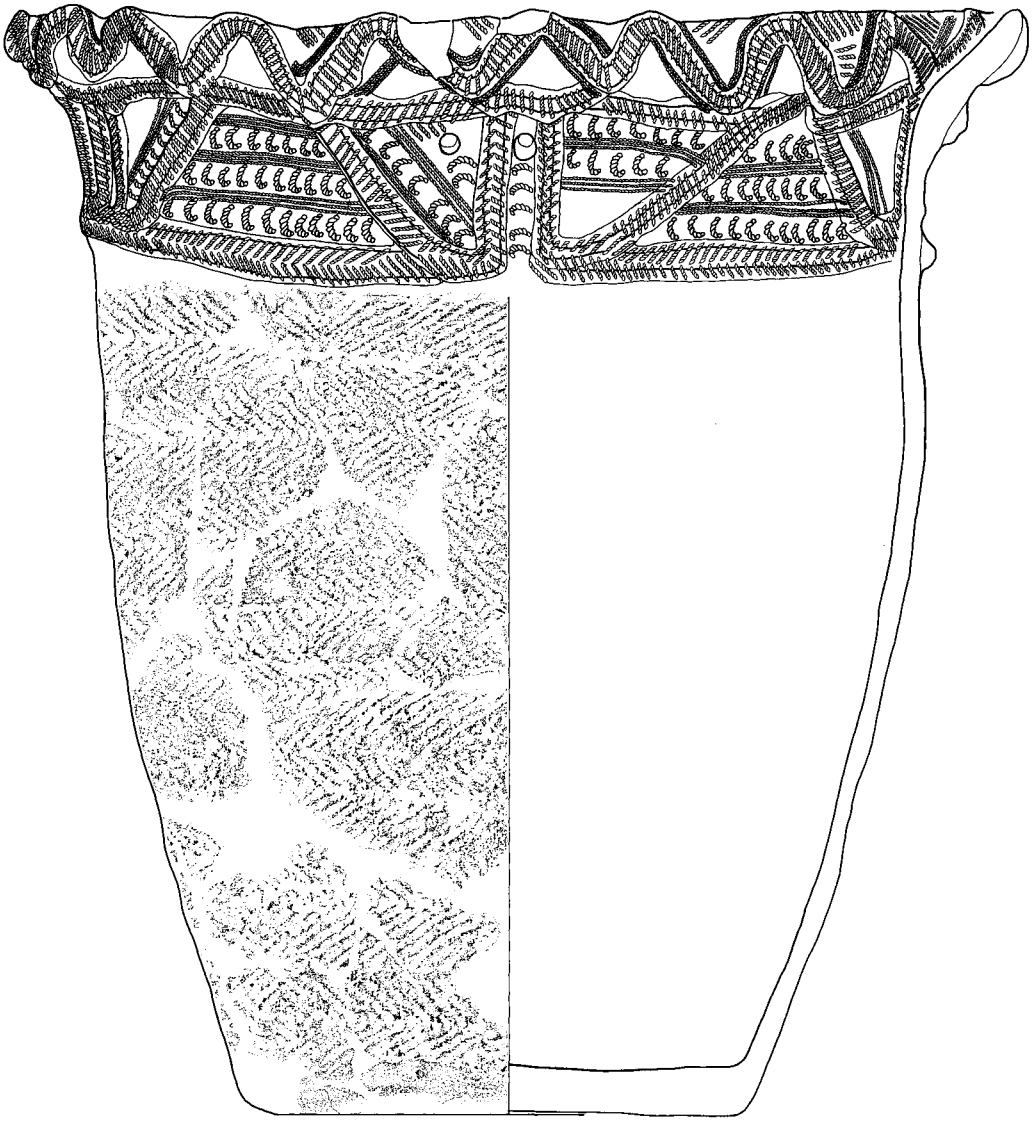
第22図　遺構内出土土器（２）



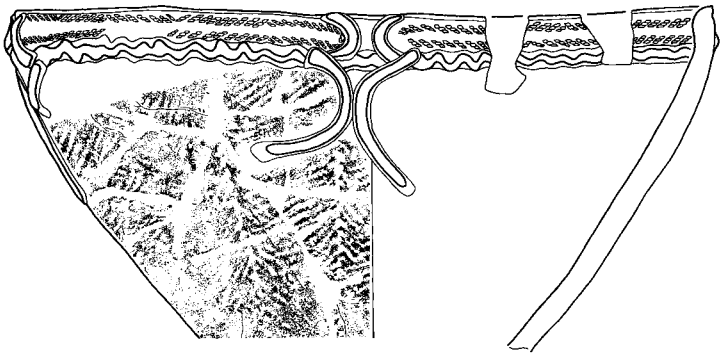
第23図　遺構内出土土器（３）



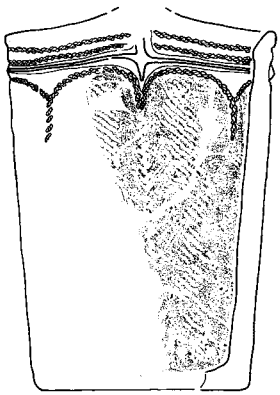
第24図　遺構内出土土器（４）



26(SK65)



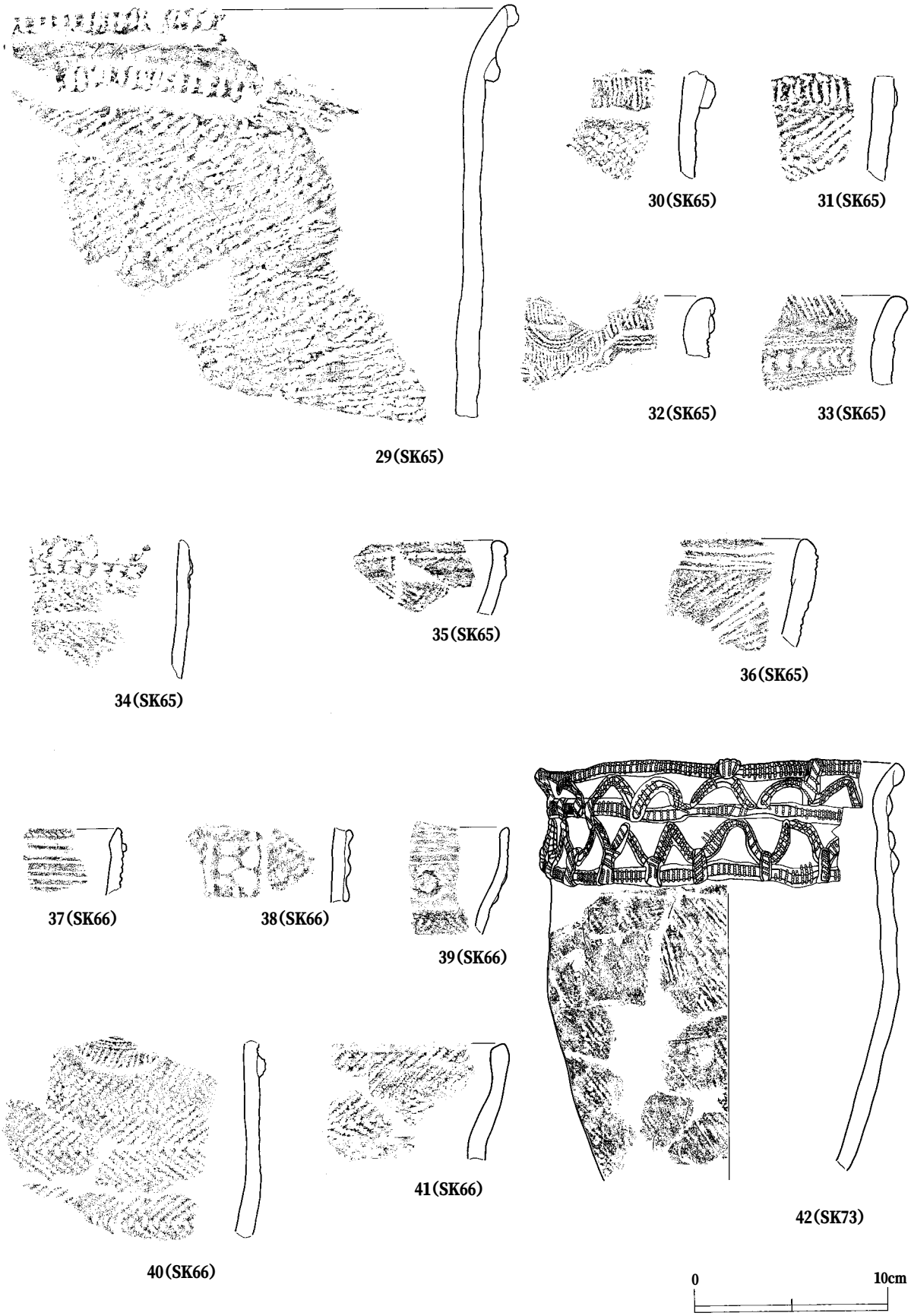
27(SK65)



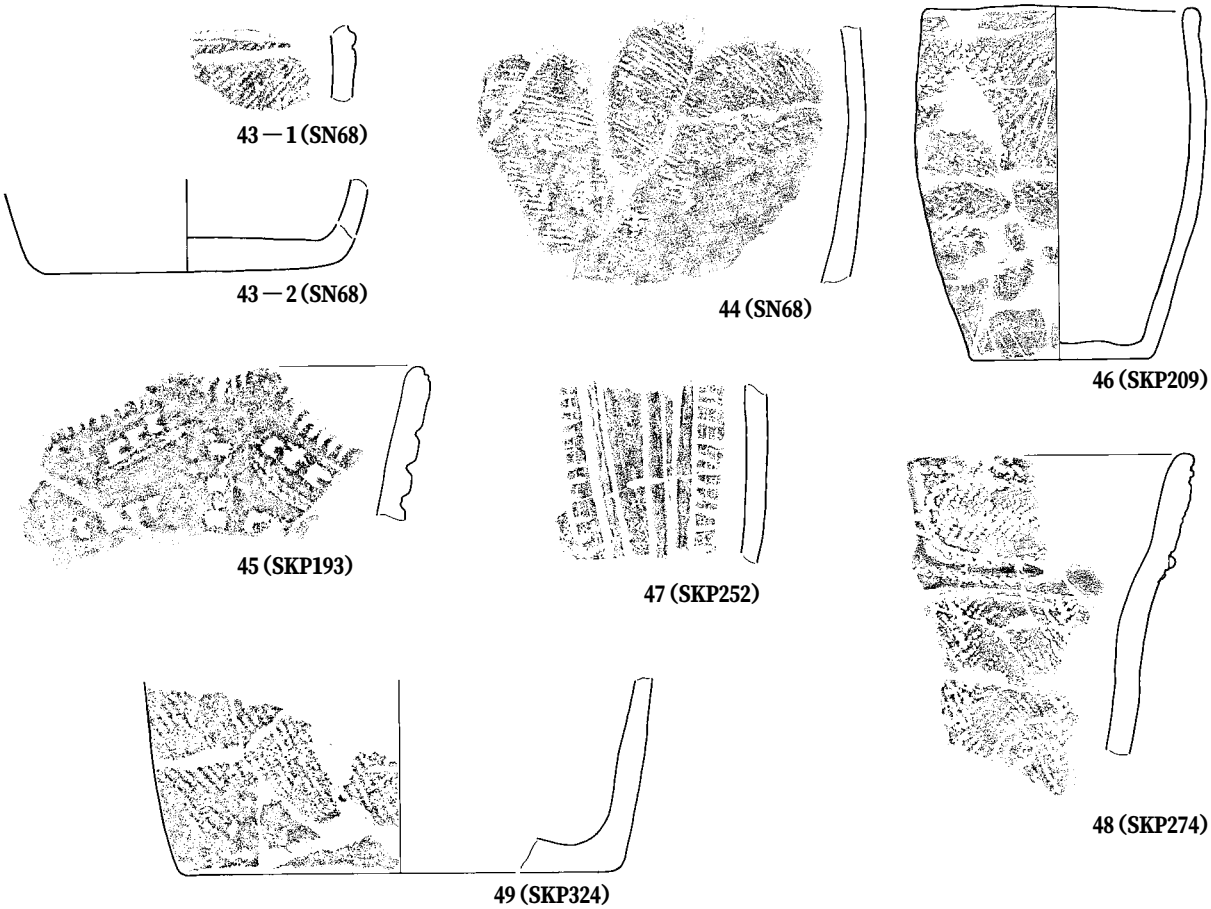
28(SK65)

0　10cm

第25図　遺構内出土土器（５）



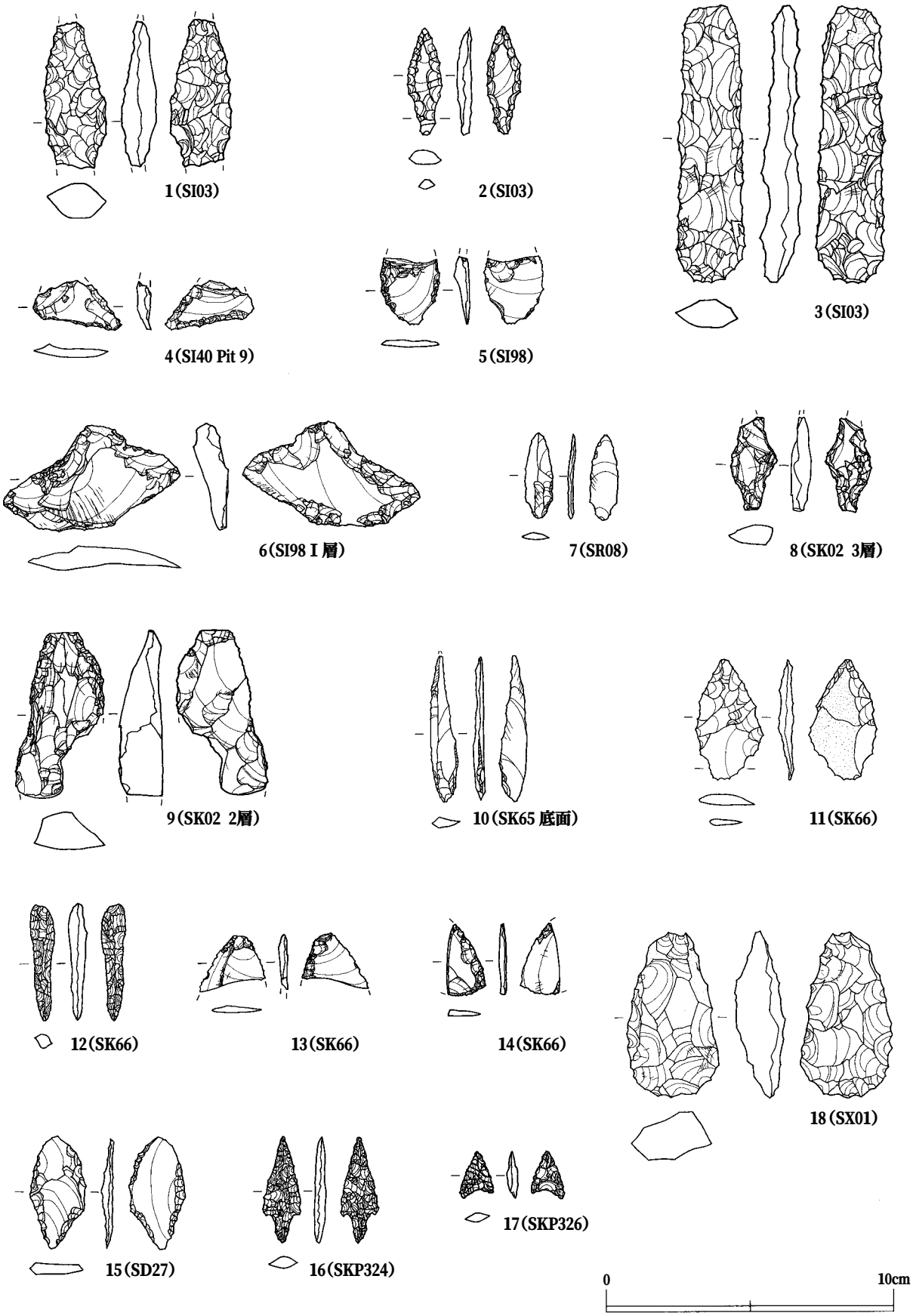
第26図　遺構内出土土器（６）



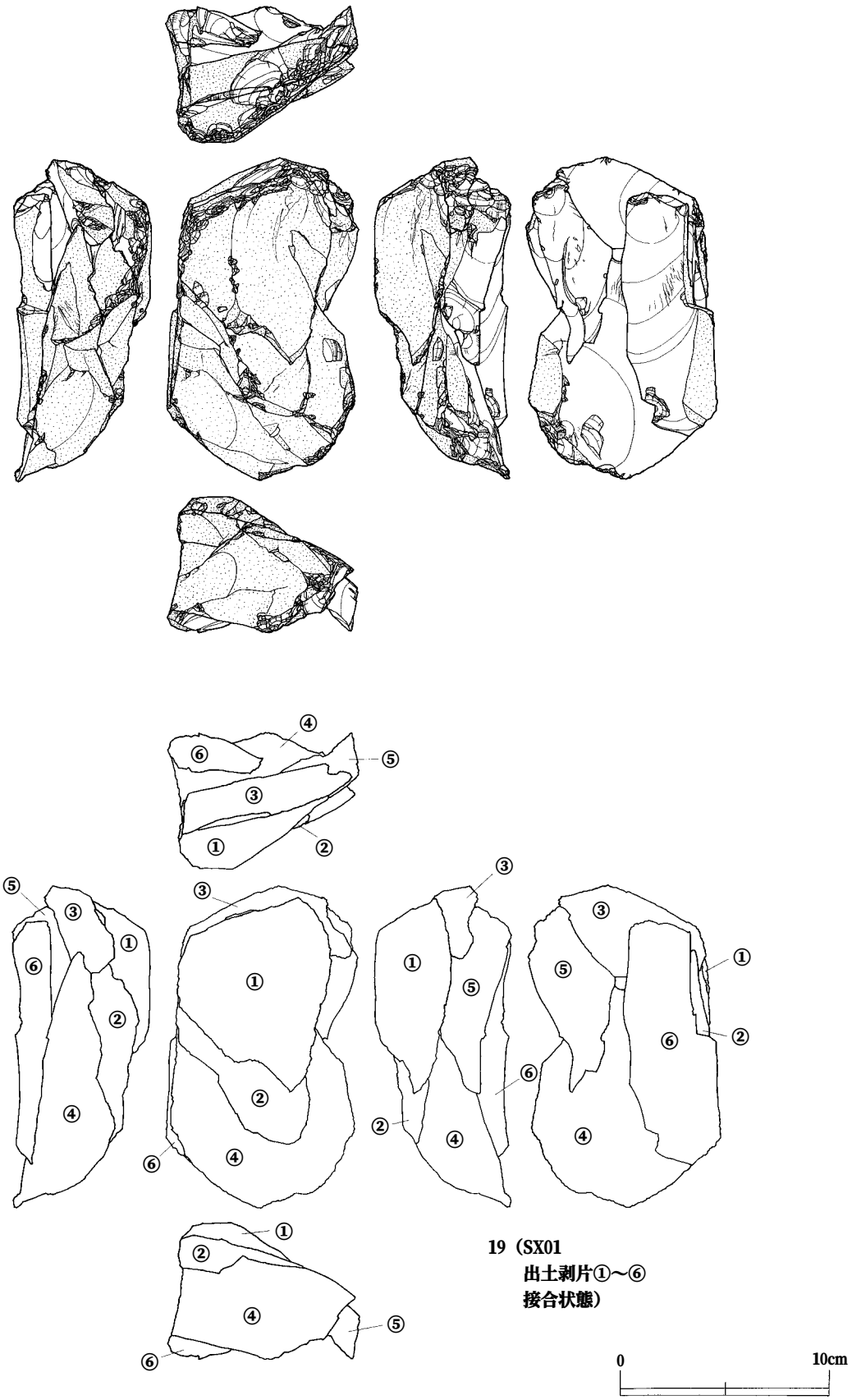
第27図　遺構内出土土器（７）

第28図　遺構外出土土器

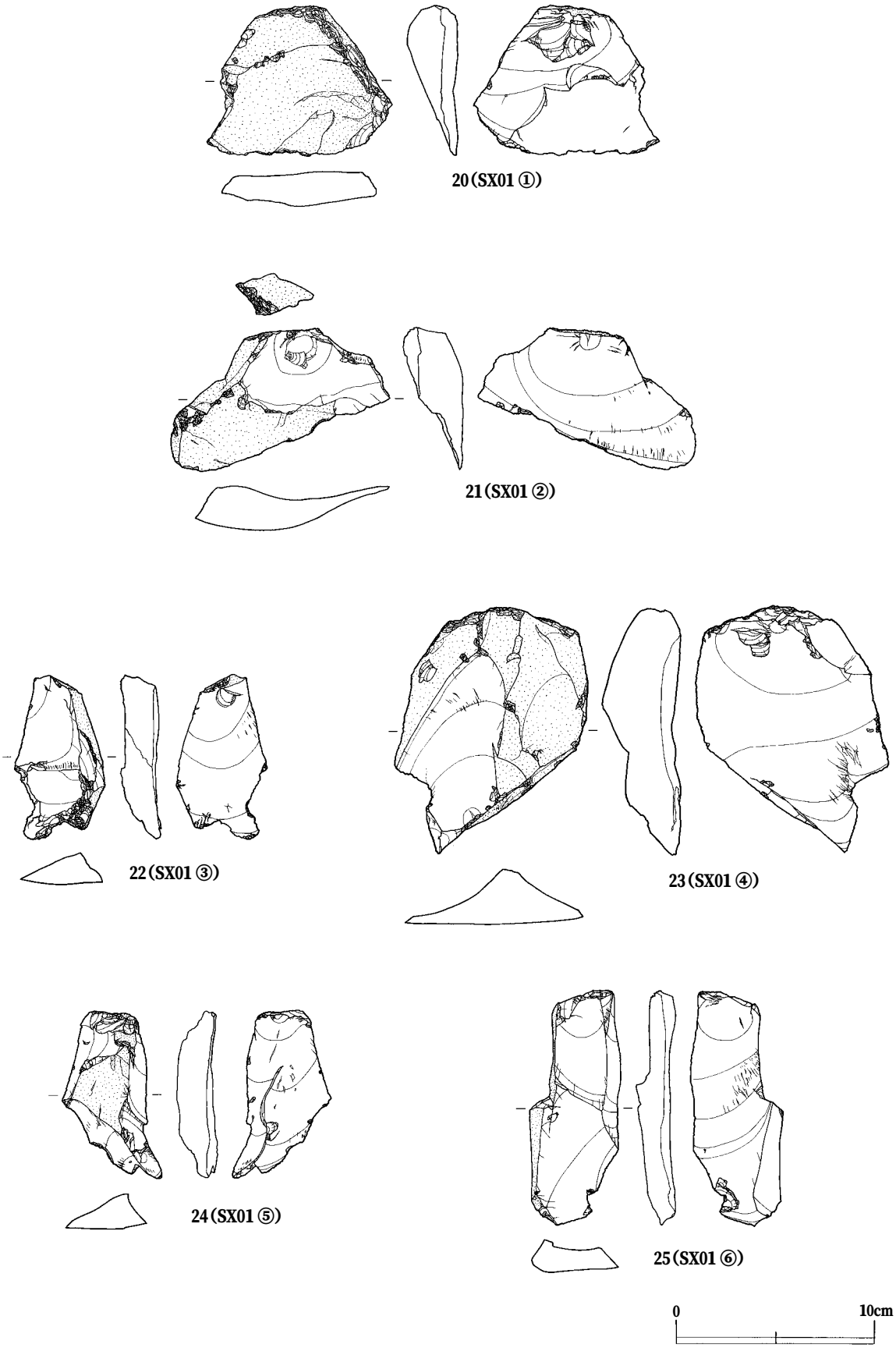
第29図　遺構内出土土製品



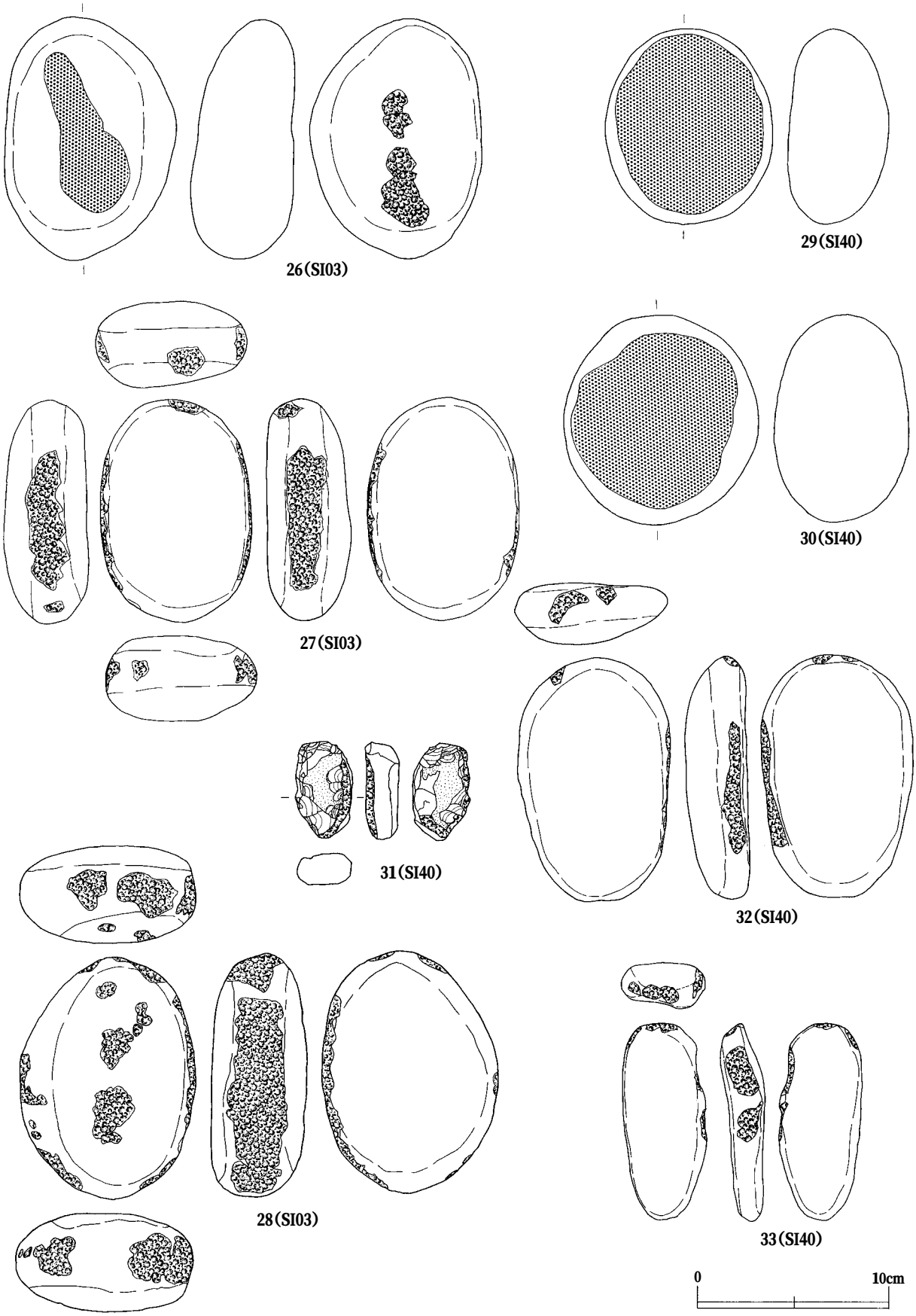
第30図　遺構内出土石器（１）



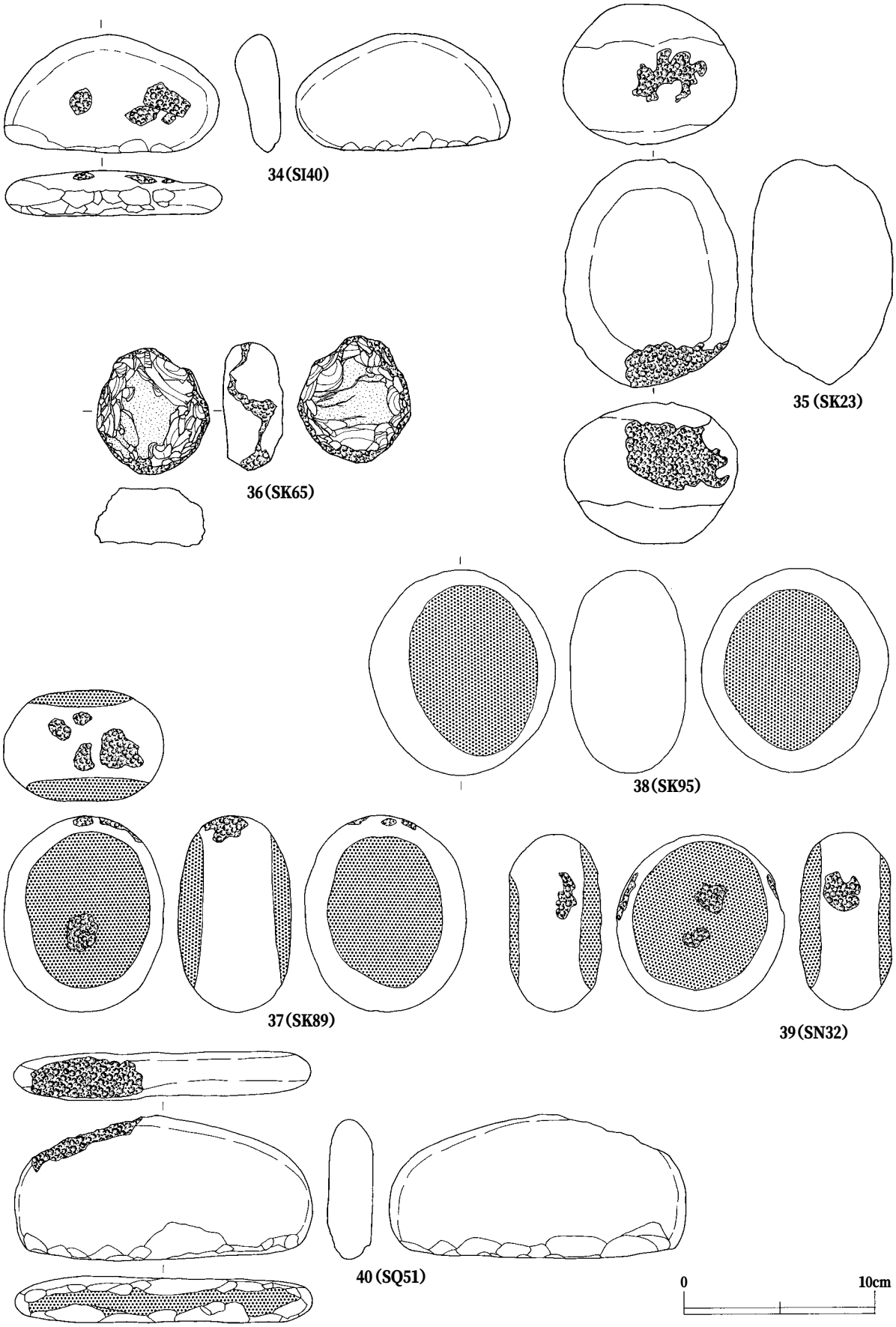
第31図　遺構内出土石器（２）



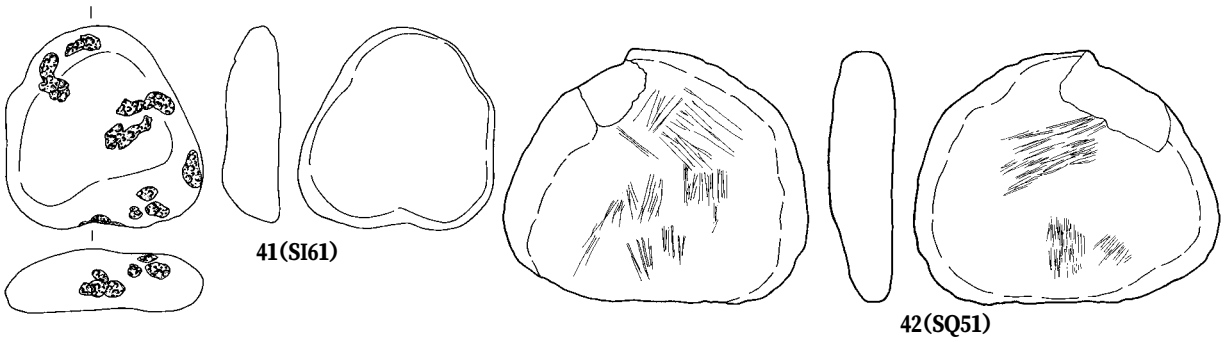
第32図　遺構内出土石器（３）



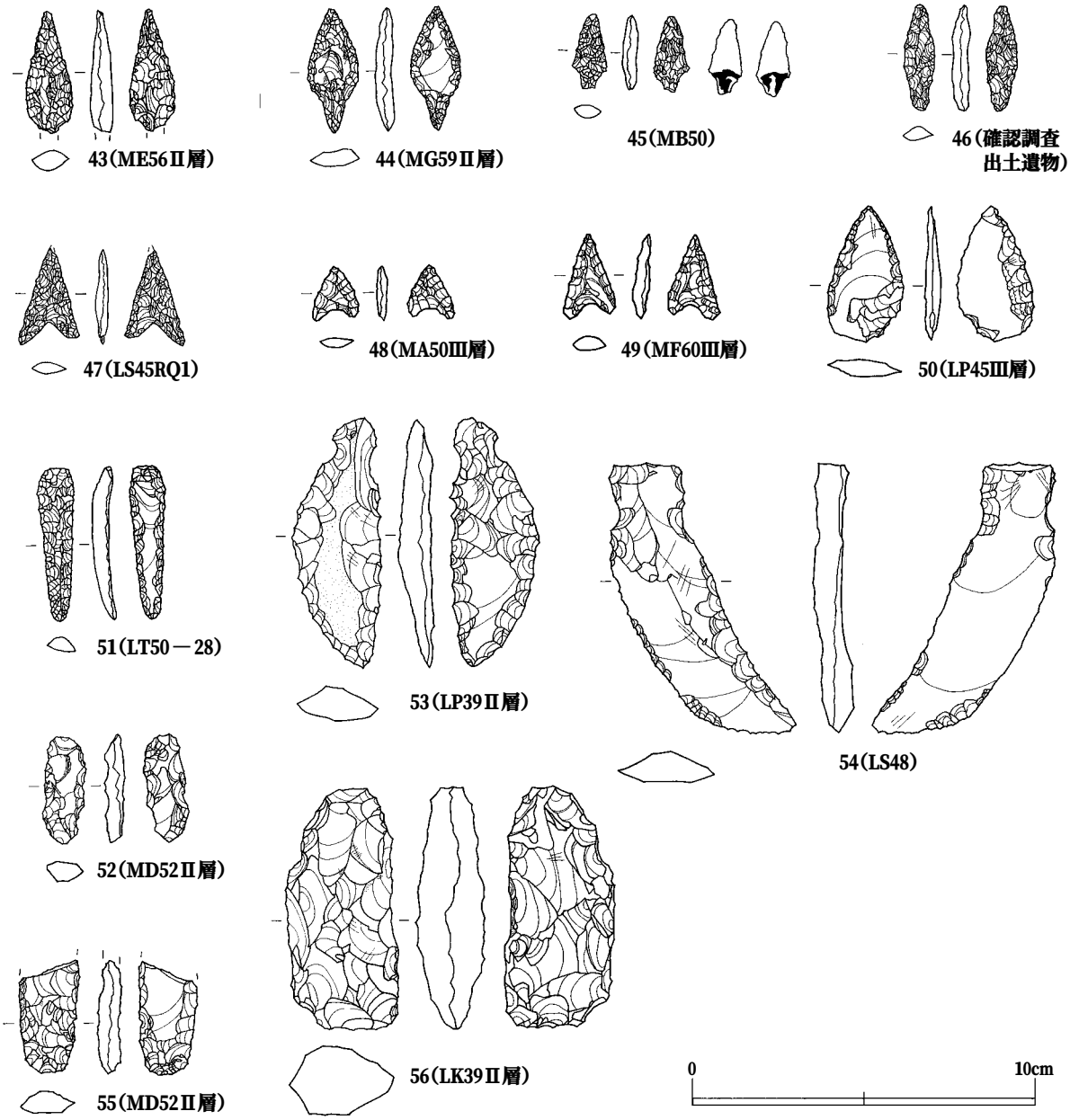
第33図　遺構内出土石器（４）



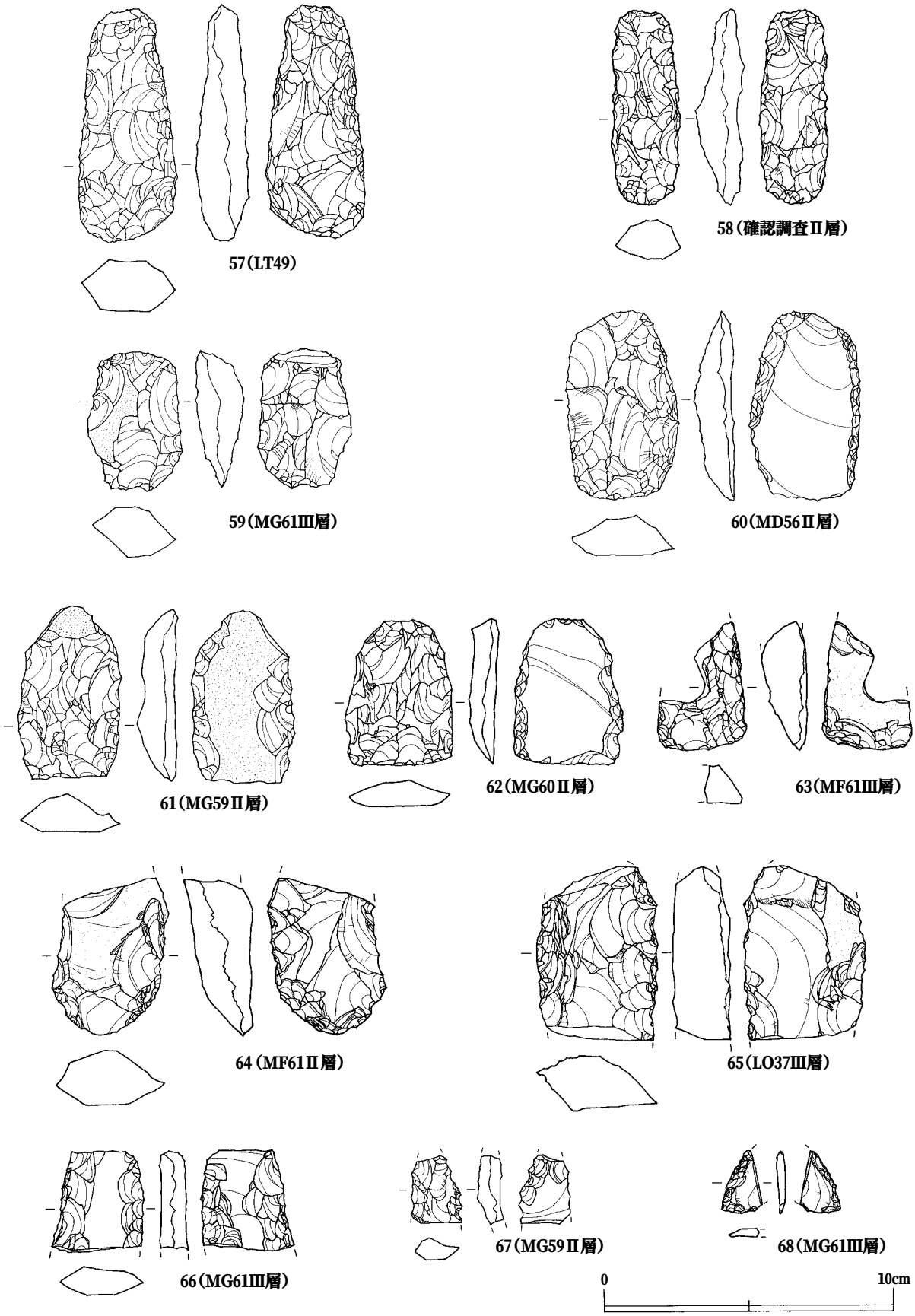
第34図　遺構内出土石器（５）



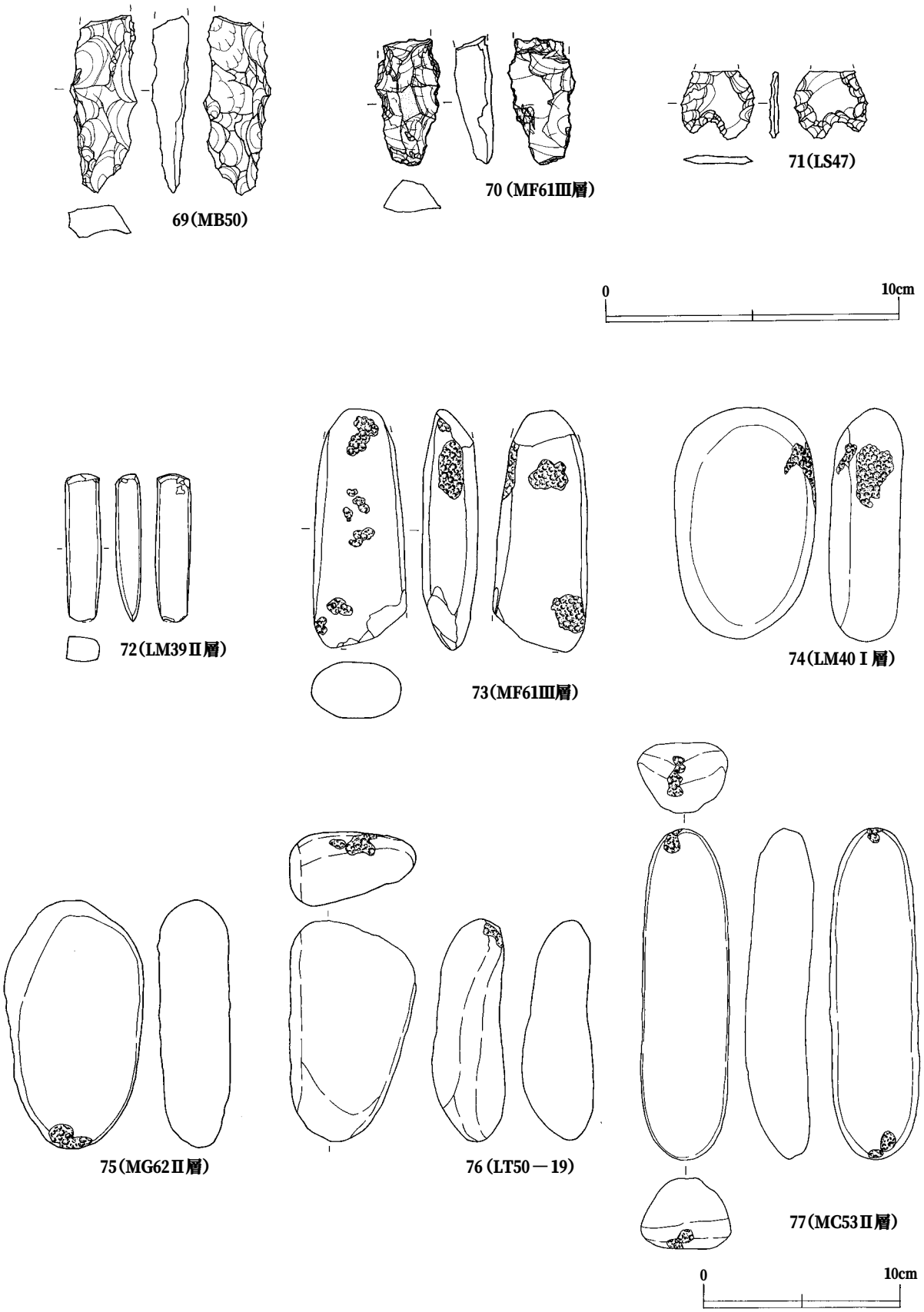
第35図　遺構内出土石器（６）



第36図　遺構外出土石器（１）



第37図　遺構外出土石器（２）



第38図　遺構外出土石器（３）

第５章　自然科学分析

第１節　放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

繋沢遺跡は、秋田県河辺郡河辺町三内繋沢に所在する。周辺の地形は、北部に大平山や白子森などの山地が存在し、その南西側に中新世や鮮新世の堆積物および更新世の段丘堆積物から構成される丘陵地が、三内川や岩見川に沿って谷底低地が形成されている（大沢ほか, 1981）。本遺跡は、三内川の支流の右岸に形成された、更新世砂礫段丘上に位置する。

これまでの発掘調査により、縄文時代中期の竪穴住居跡、埋設土器、土坑などが検出されており、当該期の集落、墓域跡と考えられている。今回、出土遺物が少ないため時代時期が判然としない遺構の年代観を把握するために放射性炭素年代測定を実施する。

１.試料

試料は、SI40、SI61、SI98、SK02、SK65、SK70、SKP186から採取された炭化物7点(試料番号1-7)である。SI40およびSI61で検出された炭化物は、いずれも床面付近から採取されている。SK02、SK65、SK70の炭化物は、土坑覆土底部から採取されている。SI98、SKP186の炭化物は、遺構覆土から採取されている。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。なお、これら炭化物は、放射性炭素年代測定と併せて樹種同定を実施する。

２.分析方法

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP)であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。

試料番号	地点	地点	質	樹種	補正年代BP	δ13C（‰）	測定年代BP	Code. No.
1	SI40	RC08	炭化材	クリ	4,500 ± 40	-24.98 ± 0.88	4,500 ± 40	IAAA-31568
2	SI61	RC02	炭化材	クリ	4,450 ± 50	-27.09 ± 0.74	4,480 ± 50	IAAA-31569
3	SI98	1層	炭化材	クリ	4,380 ± 50	-26.68 ± 0.86	4,400 ± 40	IAAA-31573
4	SK02	3層	炭化材	クリ,ブナ属	4,520 ± 40	-23.84 ± 0.69	4,510 ± 40	IAAA-31570
5	SK65	2層	炭化材	エゴノキ属	4,430 ± 40	-25.06 ± 0.76	4,430 ± 40	IAAA-31571
6	SK70	2層	炭化材	クリ	4,520 ± 40	-26.77 ± 0.67	4,540 ± 40	IAAA-31572
7	SKP186	RC	炭化材	クリ	4,530 ± 40	-23.94 ± 0.91	4,510 ± 40	IAAA-31574

１）年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
２）BP年代値は、1,950年を基点として何年前であるかを示す。
３）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第３表　放射性炭素年代測定および樹種同定結果

3.結果および考察

結果を第 3 表に、また暦年較正結果を第 4 表に示す。試料の測定年代と補正年代にそれほど差がなく、おおよそ4400-4500年前前後に収束している。採取された試料の大半が遺構床面付近、もしくは覆土底部から採取されており、遺構の廃絶年代に近い年代を示していると考えられる。よって、これらの遺構は、いずれも縄文時代中期頃に廃絶した可能性がある。すなわち、他に検出された遺構とほぼ同時期の遺構の可能性が高く、発掘調査所見とも矛盾はしない。なお、暦年較正年代でみると、いずれの試料も補正年代よりも500-800年ぐらい古くなり、4867-5304calBPとなる。

試料番号	補正年代（BP）	暦年較正年代（cal）		相対比	Code No.
1	4,499 ± 41	cal BC 3,336 - cal BC 3,261	cal BP 5,286 - 5,211	0.415	IAAA-31568
		cal BC 3,241 - cal BC 3,209	cal BP 5,191 - 5,159	0.178	
		cal BC 3,192 - cal BC 3,152	cal BP 5,142 - 5,102	0.205	
		cal BC 3,137 - cal BC 3,101	cal BP 5,087 - 5,051	0.202	
2	4,446 ± 49	cal BC 3,327 - cal BC 3,224	cal BP 5,277 - 5,174	0.446	IAAA-31569
		cal BC 3,173 - cal BC 3,159	cal BP 5,123 - 5,109	0.061	
		cal BC 3,119 - cal BC 3,018	cal BP 5,069 - 4,968	0.493	
3	4,375 ± 48	cal BC 3,079 - cal BC 3,071	cal BP 5,029 - 5,021	0.058	IAAA-31573
		cal BC 3,026 - cal BC 2,917	cal BP 4,976 - 4,867	0.942	
4	4,524 ± 40	cal BC 3,351 - cal BC 3,311	cal BP 5,301 - 5,261	0.244	IAAA-31570
		cal BC 3,236 - cal BC 3,171	cal BP 5,186 - 5,121	0.414	
		cal BC 3,161 - cal BC 3,103	cal BP 5,111 - 5,053	0.342	
5	4,431 ± 40	cal BC 3,306 - cal BC 3,300	cal BP 5,256 - 5,250	0.021	IAAA-31571
		cal BC 3,277 - cal BC 3,274	cal BP 5,227 - 5,224	0.010	
		cal BC 3,264 - cal BC 3,238	cal BP 5,214 - 5,188	0.126	
		cal BC 3,168 - cal BC 3,163	cal BP 5,118 - 5,113	0.019	
		cal BC 3,102 - cal BC 3,011	cal BP 5,052 - 4,961	0.059	
		cal BC 2,983 - cal BC 2,925	cal BP 4,933 - 4,875	0.233	
6	4,515 ± 40	cal BC 3,347 - cal BC 3,307	cal BP 5,297 - 5,257	0.228	IAAA-31572
		cal BC 3,238 - cal BC 3,169	cal BP 5,188 - 5,119	0.418	
		cal BC 3,162 - cal BC 3,102	cal BP 5,112 - 5,052	0.354	
7	4,530 ± 41	cal BC 3,354 - cal BC 3,312	cal BP 5,304 - 5,262	0.256	IAAA-31574
		cal BC 3,235 - cal BC 3,171	cal BP 5,185 - 5,121	0.406	
		cal BC 3,160 - cal BC 3,117	cal BP 5,110 - 5,067	0.295	
		cal BC 3,111 - cal BC 3,104	cal BP 5,061 - 5,054	0.043	

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4（Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
計算には表に示した丸める前の値を使用している。

第４表　暦年較正年代結果

引用文献

大沢　あつし・加納　博・丸山　孝彦・土谷　信之・伊藤　雅之・平山　次郎・品田　庄一,1981,大平山地域の地質.地域地質研究報告（5万分の1図幅）,地質調査所,69p.

ペドロジスト懇談会（編）,1984,土壌調査ハンドブック.博友社,156p.

第６章　まとめ

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡４軒、土器埋設遺構８基のほか、土坑、焼土遺構、石器集中遺構などが検出され、遺物では縄文時代中期前半の土器と石器が出土した。これらのことから繋沢遺跡では、縄文時代中期前半には集落が存在していたことがわかる。以下では、縄文時代中期前半における繋沢遺跡の集落について述べる。

遺構はいずれも台地縁辺部にあり、縁辺から離れた台地内側ではほとんど検出されていない。竪穴住居跡はそれぞれが間隔をおいて位置し、台地縁辺に沿って調査区外にも竪穴住居跡が存在する可能性が考えられる。竪穴住居跡には、ＳＩ03・61のように平面形が楕円形で長軸が等高線に平行するものと、ＳＩ40のように平面形が炉を中心とした円形のものとがある。柱穴は、楕円形・円形のいずれの住居も壁際に等間隔に配置されている。また、楕円形の住居では、径の大きい柱穴が長軸線付近に相対して配置されており、主柱穴の可能性がある。住居に伴う施設としてはＳＩ03・ＳＩ40で土器埋設炉が検出されており、埋設された土器からこの２軒が円筒上層ｃ式期のものであることがわかる。竪穴住居跡と他の遺構の重複関係について、ＳＩ98は土坑墓の可能性があるＳＫ65に切られており、ＳＫ65から円筒上層ｂ式土器と大木７ｂ式土器が出土していることから、ＳＩ98がこれよりも古い時期の遺構であることがわかる。また、大木７ｂ式土器が埋設されているＳＲ08とＳＫ02がＳＩ03の覆土上面から掘り込まれており、ＳＩ61の覆土上面にはＳＮ09・10が作られている。この重複関係から、竪穴住居跡が廃絶された後に、土器埋設遺構や土坑墓が作られ、台地先端部では焼土遺構が見られるようになったと考えられる。

出土した土器には、円筒上層ｂ式土器、円筒上層ｃ式土器、大木７ｂ式土器などがあり、一般に円筒上層ｃ式土器と併行すると言われる大木８ａ式土器は出土していない。このことから繋沢遺跡では大木８ａ式以前に集落が廃絶された可能性があり、短期間に営まれた集落であることが想定される。

岩見川流域の縄文時代中期の集落遺跡の一つである御所野台地の下堤Ａ遺跡は、竪穴住居跡・フラスコ状土坑・土器埋設遺構などが台地を切り込む沢頭の間の平坦面に分布している。74軒検出された竪穴住居跡には、円筒上層ｂ式期が１軒、円筒上層ｃ式期が３軒、大木７ｂ式期が６軒あり、これらは平面形が楕円形で長軸５～７ｍが主体を占める。柱穴が壁際に等間隔に配置される住居もあるが、多くは壁から離れた内側に不規則に配置され、主柱穴の特定は難しい。炉には地床炉と土器埋設炉とがある。炉の他、縄文時代中期前半の竪穴住居跡に特徴的に見られる特殊ピットを伴う竪穴住居跡もある。続く大木８ａ式期には13軒もの竪穴住居跡が検出されており、炉は土器埋設炉が主体を占めるようになり、その後も集落は大木９式期まで存続している。

繋沢遺跡を下堤Ａ遺跡と比較すると、住居の規模や炉の形態はほぼ同様だが、住居に伴う特殊ピットやフラスコ状土坑が検出されていないことなどの差異が認められる。繋沢遺跡のような短期間の集落と下堤Ａ遺跡のような長期にわたる集落の在り方の比較検討は、縄文時代中期の集落構造の変遷を考える上での一資料となるものである。

1　繋沢遺跡と周辺の地形（南西から）

2　ＳＩ03・ＳＲ08・ＳＫ02（西から）

図版2

1　ＳＩ40完掘（西から）

2　ＳＩ40炉土層断面（西から）

3　ＳＲ08外側の土器（南から）

4　ＳＲ08内側の土器（南から）

5　ＳＲ08土層断面（南から）

1　ＳＲ53土器（南から）

2　ＳＲ100土器（南から）

3　ＳＫ02礫確認状況（南から）

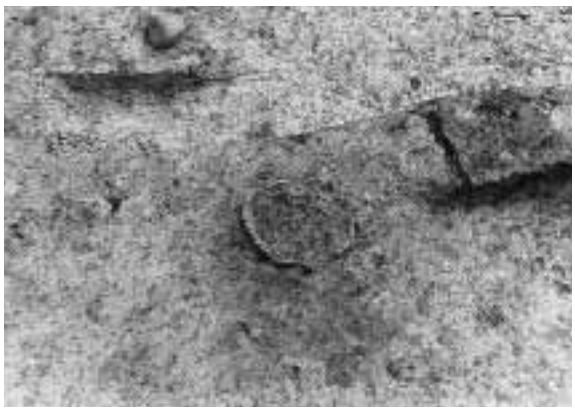
4　ＳＫ23土層断面（南から）

5　ＳＫ65遺物出土状況（南から）

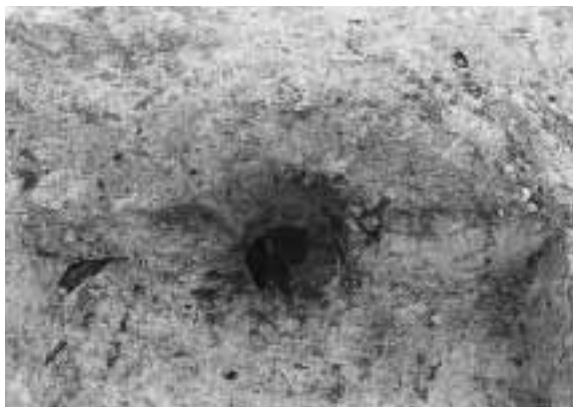
図版4

1　ＳＫ72土層断面（南から）

2　ＳＮ09確認状況（南東から）



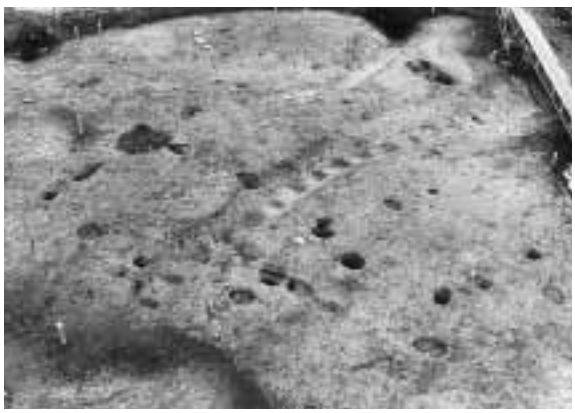
3　ＳＮ68確認状況（西から）



4　ＳＮ68掘り形底面の土器（西から）

5　ＳＸ01確認状況（西から）

6　ＳＱ12確認状況（北西から）



7　ＳＤ27完掘（北から）

8　ＳＤ39土層断面（南から）

1　ＳＲ08出土土器

2　ＳＲ53出土土器

3　ＳＲ97出土土器

4　ＳＲ100出土土器

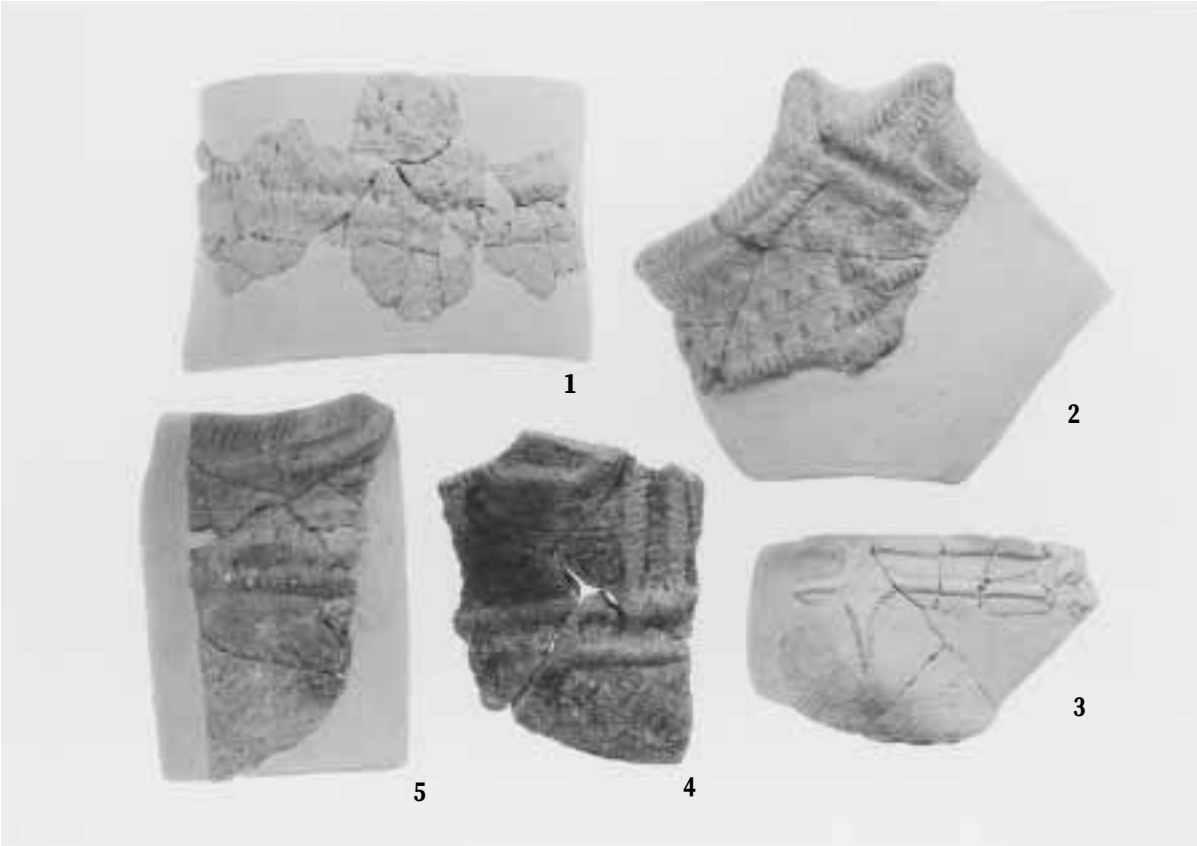
5　ＳＫ65出土土器

6　ＳＫ65出土土器

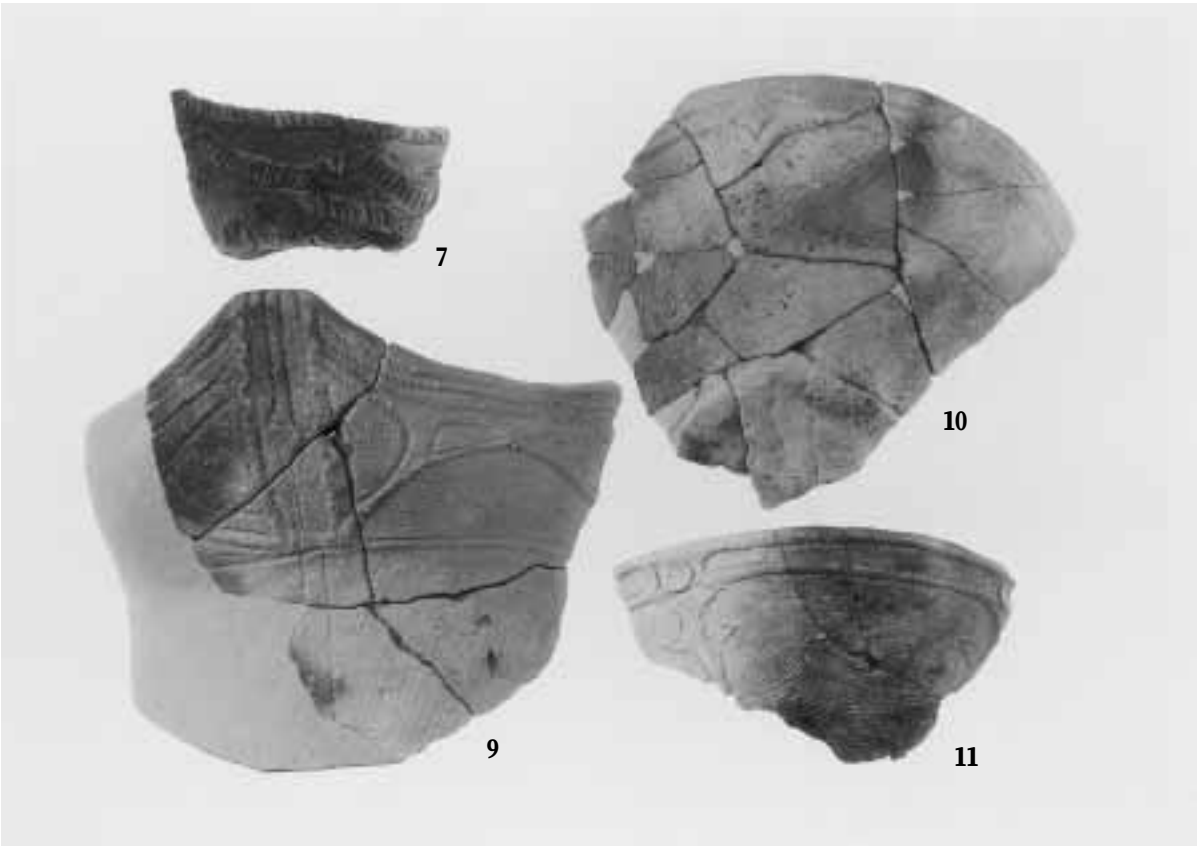
7　ＳＫ66出土土器

8　ＳＫＰ209出土土器

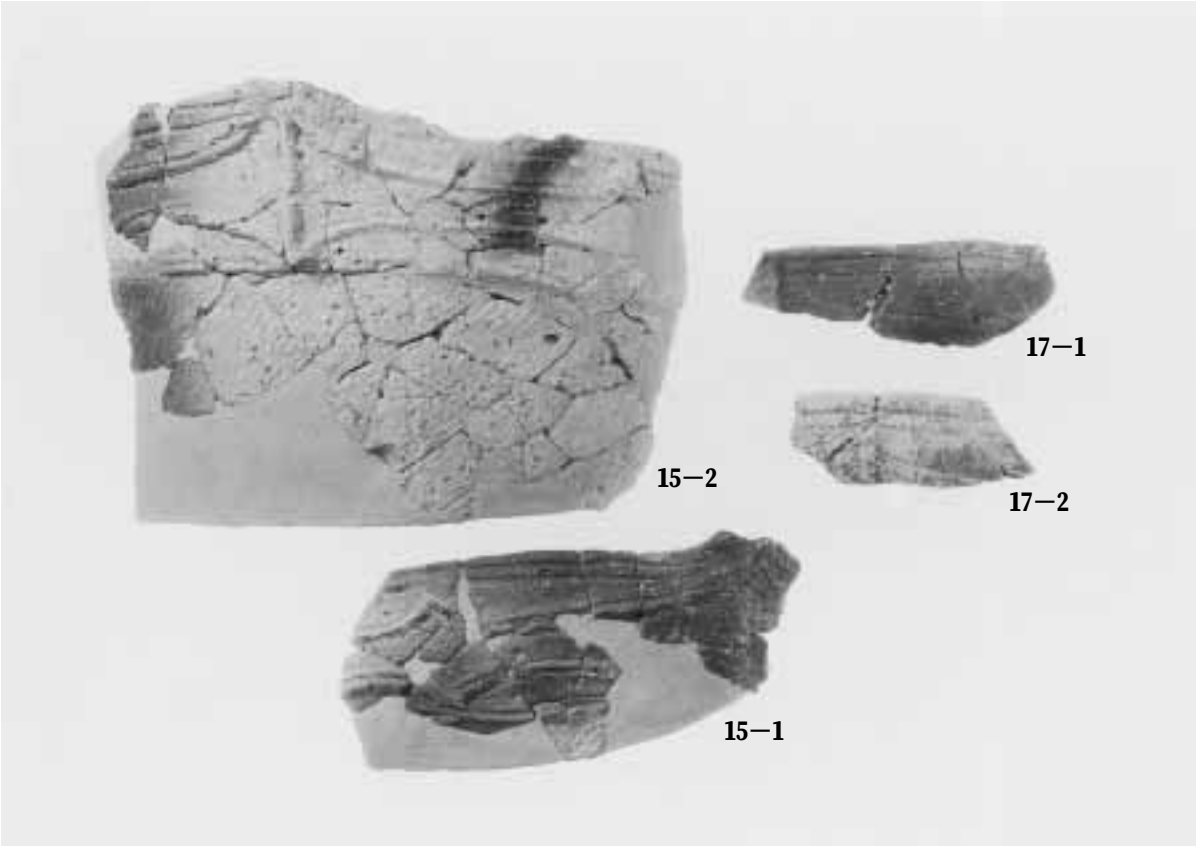
図版6



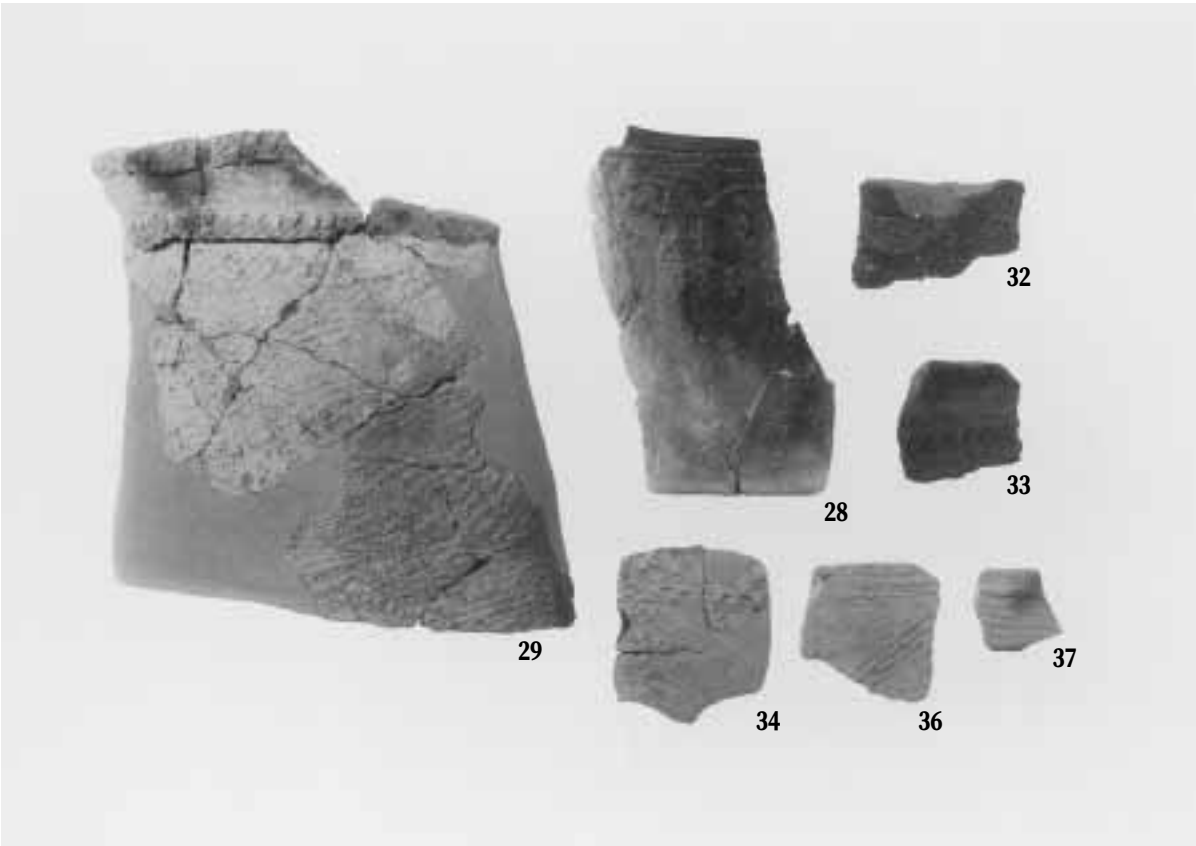
1　ＳＩ03出土土器



2　ＳＩ40出土土器

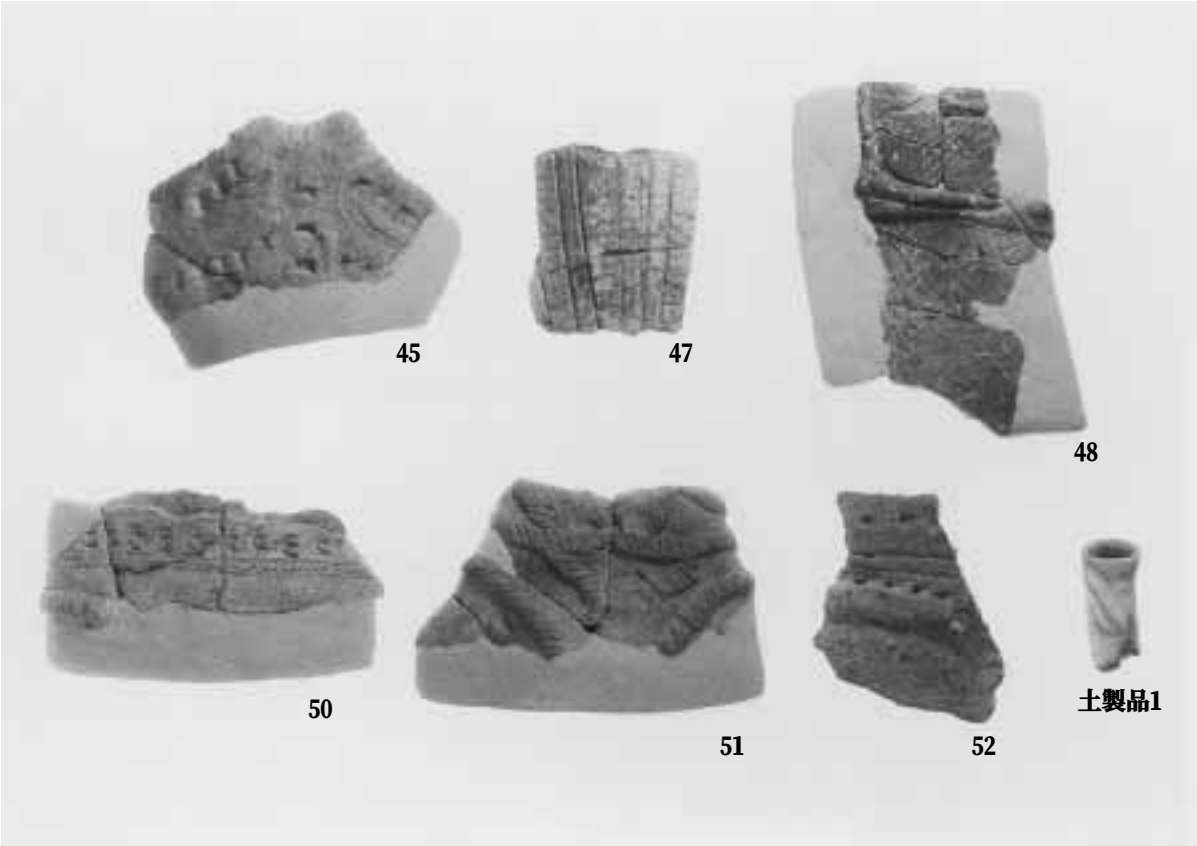


1　ＳＲ08・11出土土器

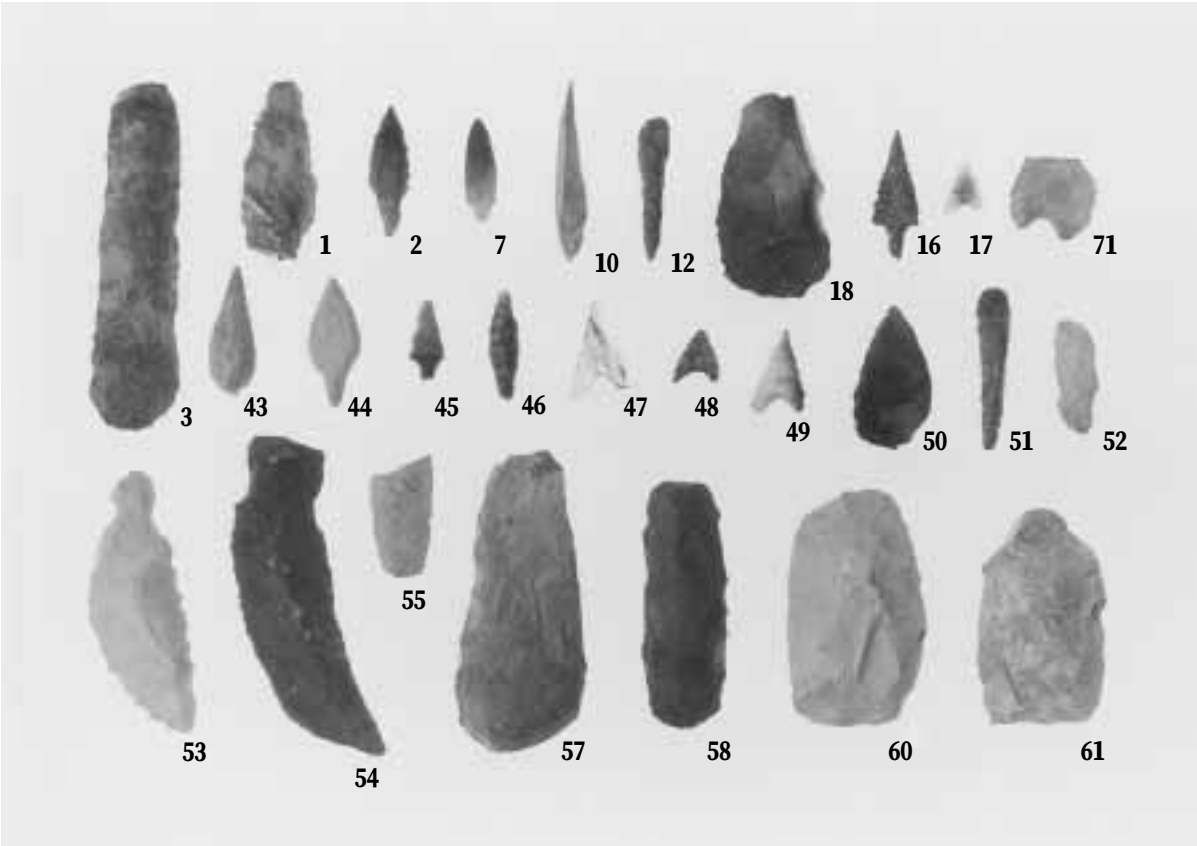


2　ＳＫ65・66出土土器

図版8

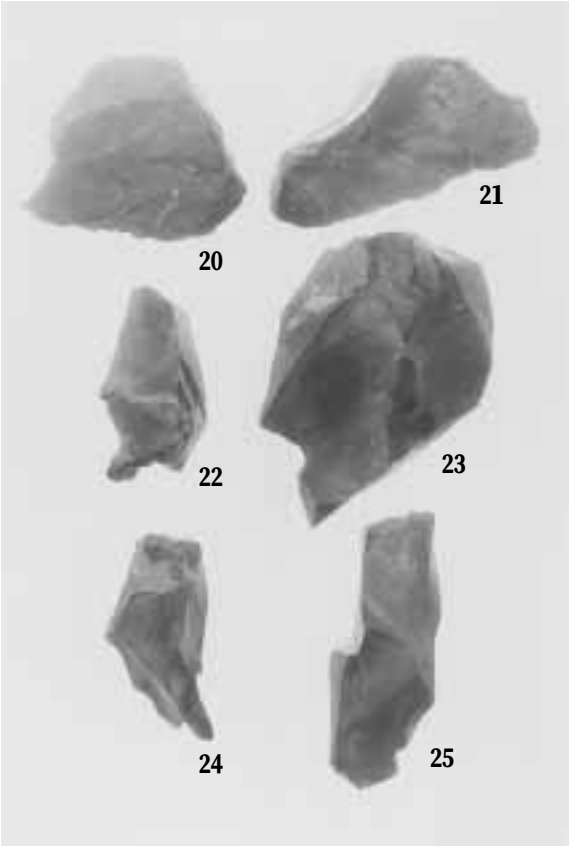


1　柱穴様ピット出土土器・土製品、遺構外出土土器



2　剥片石器

1　ＳＸ01出土剥片　接合状態



2　ＳＸ01出土剥片

3　礫石器・磨製石斧

報告書抄録

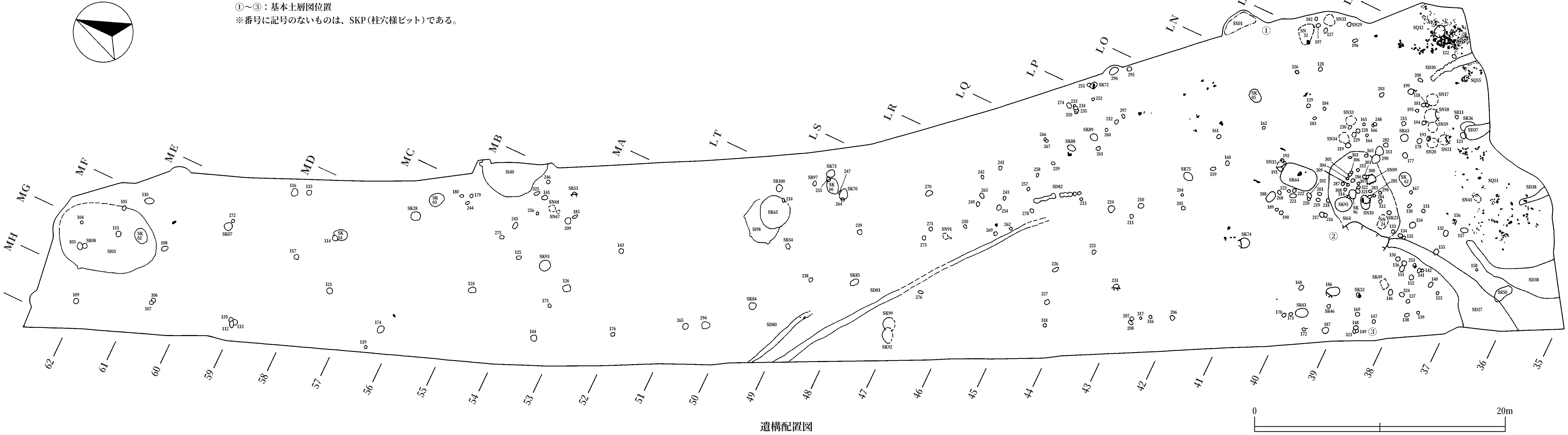
ふりがな	つなぎさわいせき
書　　名	繋沢遺跡
副書名	県道秋田岩見船岡線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第399集
編著者名	山田祐子
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014－0802 秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地 TEL 0187－69－3331
発行年月日	西暦2005年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
つなぎさわいせき 繋沢遺跡	あきたけんあきたし 秋田県秋田市 かわべさんないあざ 河辺三内字 つなぎさわ 繋沢159 （旧かわべぐん かわべまち 河辺町）	05381	33-57	39° 43′ 06″	140° 17′ 15″	20030901 ～ 20031114	2,460m²	県道秋田岩見船岡線建設事業に係る埋蔵文化財事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
繋沢遺跡	集落跡	縄文時代中期	竪穴住居跡 土器埋設遺構 土坑 焼土遺構 石器集中遺構 集石遺構 溝状遺構 柱穴様ピット	4 8 30 18 1 3 8 205	縄文土器 石器	縄文時代の集落跡であり、竪穴住居跡と土坑墓・土器埋設遺構が見つかっている。円筒上層ａ～ｃ式と大木７ｂ式の土器の共伴関係が見られる。

秋田県文化財調査報告書第399集
繋　沢　遺　跡
－県道秋田岩見船岡線建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書－

印刷・発行　平成17年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話(0187)69-3331 FAX(0187)69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580 秋田市山王３丁目１番１号
電話(018)860-5193
印　　刷　秋田活版印刷株式会社



遺構配置図

遺構番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考
103	MG62	楕円形	61	40	24	80.06	旧：SI03・SR08 柱痕 底面グライ化
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性中 地山ブロック2cm角20% 柱痕 2.黒褐色粘土(2.5Y3/2) しまり強 粘性強 焼土0.5cm1%未満 掘り形						
104	MG62	不整形	26	22	3	80.18	旧：SI03
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性中 0.5～1cm角地山ブロック5%						
105	MF61・62	楕円形	39	33	19	79.9	旧：SI03 柱痕 底面グライ化 SKP103と類似
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性中 地山ブロック0.1cm角3% 柱痕 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.1～1cm角3% 掘り形						
106	MG60	楕円形	35	26	11	80.37	旧：SKP107
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5～1cm角10% 炭化物0.1cm角1%未満						
107	MG60	※楕円形	—	30	13	80.37	新：SKP106
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角5%						
108	MF60	楕円形	52	38	19	80.04	
土註	1.黒褐色土(10YR3/2) 粘土 しまり中 粘性中 地山ブロック0.5cm角20% 焼土0.5cm角以下1%						
109	MH62	楕円形	45	42	32	80.34	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.1～1cm角20% 炭化物0.5cm角1%未満 2.明黄褐色粘土(10YR6/6) しまり強 粘性強 地山ブロック0.1cm角10%						
110	MF61	楕円形	70	52	22	79.66	
土註	1.褐色シルト土(10YR4/4) しまり中 粘性中 黒褐色土ブロック0.5～1cm角5% 地山ブロック0.1～0.5cm1%未満						
111	MG・MF61	円形	42	—	5	80.07	旧：SI03
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり中 粘性中 漸移層土ブロック0.5～1cm角30% 地山ブロック0.5～1cm角30%						
112	MG59	長方形	48	32	12	80.21	旧：SKP113・120 底面グライ化 105に類似
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5cm角20% 焼土0.5cm角以下1%						
113	MG58・59	楕円形	30	20	6	80.21	新：SKP112 旧：SKP120
土註	1.灰黄褐色粘土(10YR4/2) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5～1cm角5%						
114	ME57	不整形	50	40	12	79.76	旧：SK14
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性中 地山ブロック0.1～0.5cm角5%						
115	MD58	長方形	49	39	11	79.63	底面グライ化 SKP103に類似
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 地山ブロック1cm角3%						
116	MD58・59	不整形	60	52	12	79.59	底面不整形
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5cm角5%						
117	ME58	方形	41	—	9	79.81	
土註	1.灰黄褐色粘土(10YR4/2) しまり強 粘性弱						
118	LM39	不整形	39	※38	12	76.58	SKP181に切られる 柱痕 縄文土器 剥片
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角5%混入 焼土0.5cm角1%未満 抜取跡 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.1～0.5cm角10% 焼土0.1cm角1%未満 掘り形						
119	MF56	不整形	25	22	6	80.03	
土註	1.灰黄褐色粘土(10YR4/2) しまり強 粘性弱						
120	MG59	円形	32	—	22	80.11	SKP112・113に切られる
土註	1.灰黄褐色粘土(10YR4/2) しまり中 粘性中 地山ブロック0.1～0.5cm角5%						
121	MF57	※楕円形	48	—	14	79.81	底面グライ化
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり中 粘性中 地山ブロック1～3cm角5%						
122	LL39	楕円形	44	32	8	76.51	
土註	1.黒色シルト土(10YR1.7/1) しまり弱 粘性強 地山ブロック1cm角40%						
123	LM38	円形	42	—	12	76.64	SK37を切る 縄文土器
土註	1.黒色シルト土(10YR2/1) しまり弱 粘性強 地山ブロック3～5cm角20% 礫2cm角5%						
124	MD54・55	楕円形	60	46	35	79.41	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性中 地山ブロック0.1～2cm角10% 炭化物0.5cm角以下1% 抜取跡 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角20% 掘り形						
125	MC54	楕円形	39	27	15	79.42	
土註	1.黒褐色粘土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角3%						
126	MC・MD53	方形	64	—	10	79.41	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角1%						
127	LL・LM41	長方形	40	24	18	76.78	柱痕
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり中 粘性弱 地山ブロック1cm角5% 炭化物0.5cm角1%						
128	LM41	円形	27	—	13	76.85	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり中 粘性弱 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
129	LN41	円形	30	—	14	77.04	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり中 粘性弱 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
130	LO38	楕円形	34	22	19	76.74	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性中 地山ブロック3cm角15% 黒色土ブロック0.5cm角5%						
131	LO38	方形	32	—	27	76.74	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR3/1) しまり弱 粘性強 炭化物0.5cm角3% 柱痕 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角1% 掘り形						
132	LO37	不整形	51	40	27	76.74	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 黒色土ブロック0.5cm角10% 炭化物0.1cm角5% 2.褐色シルト土(10YR4/4) 炭化物0.1cm角2～3%						
133	LO38	不整形	32	30	8	77	SI61を切る
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角10% 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性中 黒褐色土ブロック0.5cm角7%						
134	LO38	円形	37	—	12	76.95	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角5% 2.黒褐色シルト土(10YR2/3) しまり弱 粘性強 グライ化ブロック0.5cm角3% 炭化物0.1cm角3%						
135	LO38	楕円形	29	22	29	76.72	SD27を切る
土註	1.黒色シルト土(10YR2/1) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角5% 2.黒色シルト土(10YR2/1) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角20%						
136	LP38	不整形	39	29	41	76.57	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角1%未満 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5～1cm角30%						
137	LQ・LP37	楕円形	37	30	11	76.88	根固礫
土註	1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角10%						
138	LQ37	方形	35	—	12	76.88	底面グライ化 柱痕 105に類似
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角10% 焼土0.5cm角1% 炭化物0.5cm角1%未満						
139	LQ37	円形	26	—	39	76.71	柱痕
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性強 グライ化ブロック0.5cm角30% 地山ブロック0.5cm角10% 柱痕 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性強 グライ化ブロック0.5cm角30% 地山ブロック0.5cm角30% 掘り形						
140	LP37	楕円形	40	25	11	76.85	縄文土器
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
141	LP37・38	楕円形	38	30	32	76.61	SKP142を切る 柱痕
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1% 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角20% 炭化物0.5cm角1%						
142	LP37	円形	26	—	18	76.42	SKP141に切られる
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.1cm角1% 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック2～3cm角40%						
143	MB52	方形	36	—	15	79.19	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5cm角5% 2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック0.1cm角1%						
144	ME53	楕円形	54	46	7	79.5	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/3) しまり中 粘性中 炭化物0.1cm角5% 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角2%						
145	MB54	方形	37	—	12	79.24	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
146	LP・LQ38	楕円形	48	35	11	76.93	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角3%						
147	LQ38	楕円形	30	21	13	76.97	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
148	LQ38	円形	32	—	39	76.88	SKP149を切る
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性中 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角5%						
149	LQ・LR38	楕円形	37	22	56	76.59	SKP148に切られSKP323を切る
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性中 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角5%						
150	LP38	不整形	36	36	15	76.89	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック2～3cm角5%						
151	LP38	楕円形	51	33	16	76.84	剥片
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性弱 暗褐色土0.5cm角15% 炭化物0.1cm角3%						
152	LP38	不整形	46	36	47	76.52	柱痕
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性弱 炭化物0.5cm角3% 柱痕 2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 暗褐色土ブロック0.5cm角10% 掘り形						
153	LP37	楕円形	25	19	33	76.72	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり中 粘性弱 地山ブロック0.1～1cm角10% 黒色土ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角3%						
154	LO38	円形	52	—	21	76.81	剥片
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性強 地山ブロック1cm角15%混入 炭化物0.5cm角5% 2.褐色粘土(10YR4/6) しまり強 粘性中 黒褐色土ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角2%						
155	LO37	楕円形	47	38	31	76.75	SD27に切られる
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/3) しまり強 粘性中弱 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角3% 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角30% 炭化物0.1cm角1%						
156	LO37	※円形	33	—	23	76.55	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック1cm角30% 炭化物0.5cm角3% 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角2%						
157	LO37	楕円形	58	32	24	76.65	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性強 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角5% 2.黒褐色シルト土(10YR2/3) しまり強 粘性強 炭化物0.5cm角5% 地山ブロック0.5cm角2% 3.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック0.5cm角30%						
158	LO36	方形	18	—	11	76.78	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 黒褐色土ブロック0.5cm角10% 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角2% 2.褐色粘土(10YR4/4) しまり弱 粘性強 暗褐色土ブロック0.5cm角20%						
159	LP42	楕円形	38	24	17	77.2	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性強 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角1% 2.褐色土(10YR4/4) しまり強 粘性強 黒褐色土ブロック0.5cm角30%						
160	LP42	長方形	36	26	25	77.07	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角15% 炭化物0.5cm角3% 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角30%						
161	LO42	円形	36	—	26	77.07	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/1) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.1～0.5cm角10% 黒色土ブロック0.5cm角5% 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.1～0.5cm角1%						
162	LO42	円形	26	—	15	77.07	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/1) しまり中 粘性強 地山ブロック0.5cm角15% 炭化物0.1cm角3%						
163	LN39	楕円形	28	22	26	76.94	SI61を切る
土註	1.黒褐色土(10YR3/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 2.黒褐色土(10YR3/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5～1cm角40% 炭化物0.1cm角1%						
164	LN40	楕円形	29	22	12	76.94	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角7% 炭化物0.5cm角5% 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角1%						
165	LN40	不整形	22	19	33	76.66	柱痕
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/1) しまり弱 粘性強 炭化物0.5cm角5% 柱痕 2.褐色シルト土(10YR4/4) しまり強 粘性強 黒色土ブロック0.5cm角20% 掘り形						
166	LN40	楕円形	34	22	14	76.88	SKP248を切る 柱痕
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角10%						
167	LO38	円形	26	—	36	76.65	
土註	1.暗褐色土(10YR3/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.1cm角3%						
168	LQ39・40	楕円形	42	31	7	77.26	底面グライ化
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性弱						
169	LQ38	楕円形	34	26	8	77.03	剥片
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角10%						
170	LR40	不整形	36	30	9	77.25	SKP168に類似
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 2.暗褐色砂質シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角15%						
171	LR39	楕円形	30	22	10	77.18	SKP168に類似
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱 炭化物0.1cm角5%						
172	LR39	楕円形	25	20	7	77.26	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角3% 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり中 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角2%						
174	MF56	楕円形	61	46	18	79.7	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり中 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10% 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.1～2cm角20%						
175	MD53	方形	28	—	14	79.1	底面グライ化 SKP103と類似
土註	1.黒褐色シルト土(2.5Y3/2) しまり中 粘性弱 地山ブロック2～3cm角30%						
176	MD52	楕円形	38	35	18	79.12	
土註	1.黒褐色シルト土(2.5Y3/2) しまり中 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5%						
177	LN39	楕円形	45	33	26	76.74	
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角30% 炭化物0.1cm角1%						
178	LM・LN39	楕円形	39	34	48	76.42	縄文土器
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック3～5cm角20% 炭化物0.1cm角1% 焼土0.1cm角1%						
179	MC55	方形	26	—	21	79.23	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5～1cm角5% 炭化物0.5cm角1%						
180	MC55・56	楕円形	32	27	8	79.3	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり中 粘性中 地山ブロック2～3cm角30%						
181	LM39	方形	30	—	30	76.34	SKP118を切る
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック2cm角20% 焼土0.1cm角1% 炭化物0.1cm角1%						
182	LN41・42	不整形	23	22	18	76.83	柱痕
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 焼土ブロック0.5～2cm角20% 炭化物0.5cm角1%						
183	LN41	楕円形	27	19	13	76.96	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角20%						
184	LN41	方形	23	—	10	77.01	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角20%						
185	MB53	楕円形	45	21	10	79.23	底面グライ化 縄文土器
土註	1.黒褐色粘土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5～1cm角5% 焼土0.5cm角1% 炭化物0.5cm角1%						
186	LQ39	楕円形	108	70	38	76.45	縄文土器 剥片 柱痕
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性強 黒褐色土ブロック4cm角10% 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5～1cm角1%未満 2.黄褐色粘土(10YR5/6) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5～3cm角30% 炭化物1cm角3%						
187	LR39	楕円形	51	48	53	76.58	SKP186と類似
土註	1.黒褐色シルト土(2.5Y3/2) しまり中 粘性弱 地山ブロック2cm角10% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1% 3 褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強 炭化物0.5cm角1%						
188	LP41	楕円形	91	52	35	77.04	
土註	1.黒褐色シルト土(2.5Y3/2) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角20%						
189	LP41	円形	23	—	20	77.06	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 地山ブロック1～2cm角20%						
190	LP40・41	楕円形	34	26	21	7.02	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性強 地山ブロック1cm角20% 炭化物0.5cm角1% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 地山ブロック2cm角40% 炭化物0.5cm角1%						
191	LO41	楕円形	※47	34	15	77.04	SN15に切られる 柱痕
土註	1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり中 粘性中 地山ブロック0.1～2cm角10% 炭化物0.5cm角1%未満 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり 粘性強 地山ブロック0.1～2cm角10% 炭化物0.5cm角1%未満						
192	LO41	楕円形	※44	29	14	77.15	SN15に切られる 柱痕
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/5) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
193	LM38	楕円形	38	31	42	76.52	SN20に切られる 縄文土器(45) 剥片 根固礫
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 焼土0.5cm角1% 炭化物0.5cm角1%						
194	LM39	楕円形	47	28	22	76.74	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性弱 地山ブロック0.5cm角1% 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角20%						
195	LM39	楕円形	32	22	15	76.73	底面グライ化
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.5cm角2%						
196	LL41	楕円形	39	27	9	76.78	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角1%						
197	LL41	楕円形	40	33	43	76.34	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.1～1cm角10% 黒褐色土ブロック2cm角5%						
199	LM39	方形	46	—	28	76.58	柱痕 底面グライ化
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.5cm角3% 地山ブロック0.1cm角2% 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角10%						
200	LL39	方形	35	—	38	76.44	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角15% 炭化物0.5cm角1%						
201	LO40	楕円形	31	25	15	77.03	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角5% 炭化物0.5cm角1% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性中 地山ブロック1cm角10% 焼土ブロック1cm角3%						
202	LO・LP40	楕円形	45	30	10	77.08	SKP220を切る
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5～1cm角10% 炭化物0.1cm角1%						
203	LM40	楕円形	41	27	16	76.73	
土註	1.黒色シルト土(10YR2/1) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角7% 炭化物0.5cm角3% 2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強 黒色土ブロック1cm角20% 炭化物0.5cm角1%						
204	LQ42	円形	22	—	14	77.06	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック1cm角10%						
205	LQ42	楕円形	29	26	30	77.11	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性弱 地山ブロック1cm角15% 炭化物0.5cm角5%						
206	LS42	円形	38	—	18	77.4	底面グライ化
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角5% 2.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり強 粘性強 黒色土ブロック1cm角5%						
207	LS42	円形	35	—	31	77.39	縄文土器 剥片
土註	1. にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5～1cm角5% 炭化物0.5cm角1%						
208	LS42	楕円形	43	27	27	77.43	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角1% 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり中 粘性弱 地山ブロック1cm角20%						
209	MB53	円形	60	—	62	78.95	縄文土器(46) 二次加工のある剥片 剥片
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強 地山ブロック0.1cm角5% 炭化物0.5～1cm角5%						
210	LQ43	円形	43	—	17	77.25	
土註	1.黒色シルト土(10YR2/1) しまり弱 粘性強 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角1%						
211	LQ43	楕円形	34	20	24	77.28	柱痕
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5～2cm角30% 2.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性中 地山ブロック0.5cm角10%						
212	LP44	楕円形	36	26	6	77.4	
土註	1.黒色シルト土(10YR2/1) しまり弱 粘性強 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性弱 炭化物0.1cm角1%						
213	LR・LQ44	円形	24	—	15	77.48	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.1cm角2% 2.暗褐色土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック1cm角20%						
214	LT50	方形	30	—	8	77.7	SK65を切る
土註	1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角10% 炭化物0.5cm角3%						
215	LM39	円形	28	—	12	76.76	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.5cm角5% 焼土0.1cm角1%						
216	LP40	方形	33	—	17	76.96	SKP217を切る 柱痕
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角30% 炭化物0.1cm角2% 柱痕 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角7% 掘り形						
217	LP42	円形	44	—	15	76.99	SKP216に切られる
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり弱 粘性強 黒色土1cm角20% 地山ブロック0.5cm角10% 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR3/4) しまり 粘性強 暗褐色土ブロック1cm角7%						
218	LO40	不整形	40	28	22	76.91	SI61に切られる 柱痕
土註	1.黒色砂質シルト土(10YR2/1) しまり弱 粘性弱 地山ブロック3cm角20% 柱痕 2.褐色シルト土(10YR4/4) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック1cm角30% 掘り形						
219	LO・LP40	楕円形	38	30	16	76.97	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック3cm角30% 炭化物0.1cm角1%未満						
220	LP40	楕円形	31	22	8	77.03	SKP202に切られる
土註	1：暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10%						
221	LP40	長方形	53	35	13	76.92	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック1～3cm角20% 炭化物0.5cm角7%						
222	LO・LP40	円形	30	—	6	77.16	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角30% 炭化物0.5cm角1%						
223	LP41	円形	25	—	15	77.07	
土註	1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角10% 炭化物0.5cm角3%						
224	LQ44	楕円形	59	51	25	77.33	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.1cm角7% 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 黒色土ブロック0.5cm角5% 3.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角2%						
225	LR44	楕円形	38	30	22	77.42	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり強 粘性弱 炭化物0.5cm角1%未満 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性弱 暗褐色土ブロック0.5cm角5%						
226	LS44	不整形	50	25	16	77.58	柱痕
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角2% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角2%						
227	LT44	不整形	40	27	8	77.68	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック1～3cm角20% 炭化物0.5cm角2% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり弱 粘性強 暗褐色土ブロック0.5cm角30%						
228	LN40	楕円形	37	30	23	76.52	柱痕
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック1～3cm角20% 炭化物0.1cm角1% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック0.5cm角20%						
229	LN40	楕円形	40	34	53	76.44	根固礫
土註	1黒褐色砂質シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 抜取跡 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 黒色土ブロック1cm角20% 掘り形						
230	LN40	長方形	33	20	28	76.71	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角15% 炭化物0.5cm角5%						
231	LS43	※円形	55	—	11	77.55	縄文土器
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱						
233	LP45	円形	26	—	12	77.47	SKP234を切る
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.1cm角5%						
234	LP45	※楕円形	39	33	14	77.4	SKP233に切られSKP235を切る
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角1%						
235	LP45	※長方形	35	25	7	77.39	SKP234に切られSKP320を切る
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角1%						
238	MA48	円形	32	—	15	78.51	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角20%						
239	LT48	楕円形	40	36	7	78.29	
土註	1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角10%						
241	LR46	楕円形	32	26	33	77.37	抜取跡
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.1～0.5cm角5% 抜取跡 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック0.5cm角20% 掘り形						
242	LR46	円形	25	—	13	77.63	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性中 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.1cm角5% 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角30%						
243	LR46	楕円形	32	23	12	77.6	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物1cm角3%						
244	MC55	楕円形	34	25	7	79.27	
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中						
245	MC54	長方形	53	32	11	79.3	
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角10%						
246	MB54	円形	29	—	22	79.01	SI40を切る 剥片
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 焼土ブロック0.5cm角1% 炭化物0.5cm角1%						
247	LS49	※円形	26	—	38	77.99	SK70に切られる 縄文土器 剥片
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角3%						
248	LN40	※楕円形	—	29	10	76.88	
土註	1.暗褐色土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物1cm角5% 2.暗褐色土(10YR3/4) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角2%						
249	LS・LR46	楕円形	40	27	17	77.69	SKP166に切られる
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5～1cm角20% 炭化物0.1cm角5% 2.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角2%						
250	LS46	楕円形	33	26	14	77.59	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱 地山0.5～3cm角30% 炭化物0.5～1cm角7%						
251	LO45	円形	28	—	36	77.1	SQ72に切られる
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物1cm角10%						
252	LP45	円形	23	—	7	76.51	縄文土器(47)
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
253	LP38	楕円形	35	30	16	76.8	根固礫
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10%						
254	LR46	楕円形	40	27	16	77.48	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角3% 焼土0.5cm角1% 2.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角15% 炭化物0.5cm角1%						
255	LS49	円形	32	—	43	77.69	SK66に切られる
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
256	MB54	円形	25	—	8	79.3	
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角3% 炭化物0.5cm角1%						
257	LR45	楕円形	24	18	15	77.58	底面グライ化
土註	1.暗褐色土(10YR3/3) しまり中 粘性強 地山ブロック0.5cm角7% 炭化物0.5cm角1%						
258	LQ45	楕円形	25	19	12	77.55	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり弱 粘性強 黒色土1cm角10% 炭化物0.5cm角3%						
259	LQ45	楕円形	29	18	9	77.56	
土註	1.灰黄褐色シルト土(10YR4/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5～1cm角10% 炭化物0.5cm角1%未満						
260	LP44	楕円形	27	20	9	77.31	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱 炭化物0.1cm角3%						
261	LP44	楕円形	35	26	13	77.53	
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10% 黒色土ブロック1cm角7% 炭化物0.5cm角2% 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 炭化物0.5cm角1%						
262	LS45	楕円形	25	20	19	77.9	
土註	1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5～1cm角30%						
263	LR46	楕円形	45	35	11	77.63	
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5cm角15% 黒色土ブロック1cm角10%						
264	LT49	方形	32	—	4	78.1	SK70に切られる 剥片
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
265	MC50	不整形	48	48	12	78.99	
土註	1.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5～1cm角30%						
266	LQ45	楕円形	25	20	32	77.29	SKP267を切る
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5～1cm角7% 炭化物0.1cm角2%						
267	LQ45	楕円形	28	23	25	77.29	SKP266に切られる
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物1cm角1%未満						
268	LP41	楕円形	40	30	16	76.93	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/4) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角20% 黒色土ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角2%						
269	LS45・46	楕円形	24	20	18	77.7	柱痕
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角2% 2.暗褐色土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック1～3cm角40%						
270	LS47	楕円形	57	49	21	77.85	
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角1%						
271	LS47	楕円形	31	27	40	77.78	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角5% 炭化物0.5cm角1%						
272	ME59	隅丸方形	30	27	13	79.99	
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角10%						
273	LT47	楕円形	34	29	11	77.89	根固礫 二次加工のある剥片
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角20% 炭化物0.5cm角1%						
274	LP45	楕円形	52	47	30	77.22	縄文土器(48) 二次加工のある剥片 剥片
土註	1.黒色砂質シルト土(10YR2/1) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角5% 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性強 黒色土ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角3%						
275	MC54	楕円形	35	30	6	79.59	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角5%						
276	MA46	楕円形	35	23	13	78.04	土製品(1)
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角10%						
278	LR45	楕円形	31	21	14	77.63	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.1cm角3% 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性強 黒色土ブロック1cm角30%						
282	LN39	楕円形	44	32	22	76.7	SI61に切られる
土註	1.暗褐色土(10YR3/3) しまり弱 粘性中 黒褐色土ブロック1cm角30% 地山ブロック0.5cm角10% 2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 暗褐色土ブロック1cm角10%						
283	LO39	楕円形	34	25	15	76.78	SI61に切られる
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 黒色土ブロック1cm角15% 炭化物0.5cm角2% 2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック1cm角5%						
284	LO39	円形	24	—	39	76.53	柱痕 縄文土器 SI61床面
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 炭化物1～2cm角20% 柱痕 2.暗褐色砂質シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角30% 掘り形						
285	LO39	楕円形	35	20	11	76.82	SI61に切られる
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり中 粘性弱 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角3% 2.褐色シルト土(10YR4/4) しまり強 粘性強 暗褐色土ブロック1cm角30%						
286	LO39	楕円形	38	25	30	76.67	SI61床面検出 柱痕
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物1cm角5%						
287	LO40	方形	34	—	44	76.52	SI61に切られる SKP285と類似 柱痕 剥片
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 炭化物1～2cm角20% 柱痕 2.暗褐色砂質シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角30% 掘り形						
290	LN39	楕円形	85	57	20	76.71	SK94・SKP313を切る SI61に切られる
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.1cm角3% 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり強 粘性強 黒色土ブロック1cm角30%						
294	MC50	不整形	70	56	15	79	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角5% 炭化物0.5cm角1%未満						
295	LO44・45	楕円形	40	34	13	77.5	柱痕
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり中 粘性中 地山ブロック0.5cm角3% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角20%						
296	LO45	不整形	83	52	27	77.38	
土註	1.黒褐色シルト土(10YR3/2) しまり強 粘性弱 地山ブロック0.5～1cm角10% 2.黒褐色粘土(10YR3/2) しまり強 粘性強 地山ブロック1cm角30%						
297	LP44	楕円形	29	24	8	77.57	
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角5% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角30%						
298	LO39	楕円形	24	19	41	76.52	SI61床面検出 柱痕
土註	1.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 炭化物0.5cm角15% 地山ブロック1cm角5% 2.にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) しまり強 粘性中 地山ブロック1cm角20%						
300	LO39	楕円形	34	22	36	76.57	SI61・SN10・SKP301に切られる 柱痕
土註	1.黒褐色砂質シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性弱 炭化物0.5cm角5～7% 柱痕 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山0.5cm角5% 炭化物0.5cm角5% 掘り形						
301	LO39	不整形	32	30	28	76.67	SKP300を切る 柱痕 SI61床面検出
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック2cm角20% 炭化物1cm角10% 柱痕 2.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角40% 炭化物1cm角5% 掘り形						
303	LN40	長方形	22	17	8	76.87	SI61に切られる
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 炭化物0.1cm角2%						
304	LO40	方形	28	—	10	76.85	剥片 SI61床面検出
土註	1.暗褐色土(10YR3/3) しまり弱 粘性中 地山ブロック1cm角20% 炭化物0.5cm角3%						
305	LO40	不整形	30	29	15	76.79	SKP306を切る SI61床面検出
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック1cm角7% 炭化物0.5cm角1%						
306	LO40	※円形	26	—	11	76.82	SKP305に切られる SI61床面検出
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり中 粘性強 炭化物1cm角7% 地山ブロック0.5cm角5%						
307	LO39	方形	24	—	40	76.56	SI61床面検出
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 黒色土ブロック0.5～1cm角10% 地山ブロック0.5cm角10%						
308	LO40	楕円形	27	22	53	76.43	SI61床面検出
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 炭化物0.5cm角10%						
309	LO39・40	楕円形	28	21	12	76.83	剥片 SI61床面検出
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/2) しまり弱 粘性中 地山ブロック0.5cm角3% 炭化物0.1cm角3%						
311	LO39	円形	20	—	26	76.66	SI61床面検出
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性強 暗褐色土ブロック1cm角5% 地山ブロック5% 炭化物0.5cm角5%						
312	LO39	楕円形	31	28	28	76.71	SI61床面検出
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック1cm角20% 炭化物0.5cm角3%						
313	LN39	楕円形	74	66	10	76.85	SKP290に切られる 根固礫 SI61床面検出
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/4) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角20%						
314	LO39	方形	24	—	38	76.52	SI61床面検出
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 地山ブロック1cm角10% 炭化物0.5cm角5%						
316	LS42	円形	30	—	41	77.24	SK96に切られる 柱痕
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性中 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角3% 柱痕 2.暗褐色シルト土(10YR3/4) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.5cm角1%未満 掘り形						
317	LS42	方形	22	—	22	77.68	柱痕
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性強 炭化物0.5cm角7% 2.にぶい黄褐色シルト土(10YR4/3) しまり弱 粘性強 暗褐色土ブロック1cm角20%						
318	LT44	楕円形	23	21	21	77.62	
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角5%						
319	LN40	※円形	40	—	13	76.96	SN34を切る
土註	1.暗褐色土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.1～0.5cm角3%						
320	LP45	※楕円形	29	※19	17	77.36	SKP235に切られる
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角20% 炭化物0.1cm角1%						
321	LO39	楕円形	43	38	14	76.8	SKP322を切る SI61床面検出
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5～1cm角2%						
322	LO39	方形	30	—	9	76.84	SKP321に切られる SI61床面検出
土註	1.暗褐色砂質シルト土(10YR3/3) しまり弱 粘性弱 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5～1cm角2%						
323	LR・LQ38	※方形	28	—	46	76.71	SKP149に切られる
土註	1.黒褐色シルト土(10YR2/2) しまり弱 粘性中 暗褐色土ブロック0.5cm角10% 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角10%						
324	LP38	楕円形	40	29	50	76.51	縄文土器(49) 石鏃(16) 二次加工のある剥片
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 地山ブロック0.5cm角10% 炭化物0.5cm角5%						
325	MB54	楕円形	46	28	10	79.14	
土註	1.褐色粘土(10YR4/4) しまり強 粘性中 地山ブロック0.5cm角5% 炭化物0.5cm角3%						
326	LM41	円形	24	—	36	76.7	石鏃(17)
土註	1.暗褐色シルト土(10YR3/3) しまり強 粘性強 炭化物0.1cm角2%						

注：※は推定形・推定値を表す。重複する遺構で、古いものは「旧：●」、新しい遺構は「新：●」と表す。

柱穴様ピット一覧

付図

秋田県文化財調査報告書第399集

繋沢遺跡

県道秋田岩見船岡線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書